

# ICOM

## 取扱説明書

144MHz FM TRANSCEIVER

# IC-T22

430MHz FM TRANSCEIVER

# IC-T32

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

Icom Inc.



# はじめに

このたびは、IC-T22/IC-T32をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-T22は144MHz帯、IC-T32は430MHz帯のシングルバンド、多機能薄型・簡単操作のFMハンドヘルドトランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本文中の操作および機能説明は、IC-T32の表示例で説明しています。IC-T22でも、レピータの運用以外の機能と操作のしかたは、すべてIC-T32と同じです。

## 目次

1. ご使用の前に	1
1-1 付属品	1
1-2 電池のセット	1
1-3 アンテナとベルトクリップの付けかた	2
1-4 外部電源の使いかた	3
1-5 取り扱い上のご注意	4
2. 各部の名称と機能	5
2-1 上面パネル	5
2-2 前面・側面パネル	6
2-3 キーボード	7

3. 基本操作のしかた	9
3-1 電源の“ON/OFF”と音量/スケルチ調整	9
3-2 運用モード(VFO/メモリー/コール)の切り替えかた	11
3-3 周波数設定のしかた	12
3-4 受信のしかた	14
3-5 送信出力の設定と送信のしかた	15
3-6 周波数ステップの変えかた	16
3-7 周波数を大きく変える ダイヤルセレクト機能	17
4. メモリーの使いかた	18
4-1 メモリーモードについて	18
4-2 メモリーチャンネルの呼び出しかた	19
A メモリーモードにするには	19
B 通常のメモリーチャンネルを呼び出す	19
C プログラムチャンネルを呼び出す	20
4-3 メモリー(記憶)のしかた	21
A 空きチャンネルにメモリーする方法	21
B 要らないチャンネルに上書きする方法	22
4-4 メモリーネームの入れかた	23
4-5 メモリーチャンネルの消しかた	25
4-6 コールチャンネルの使いかた	25
4-7 ログメモリー(LOG・M)と レピータメモリーの使いかた	26
4-8 メモリーに関する他の機能	26
A 80CHメモリーに拡張して使うには	26
B メモリーの内容をVFOで使うには	27
C メモリーの内容を他のCHへ移す	27
D スキップチャンネルの指定のしかた	27

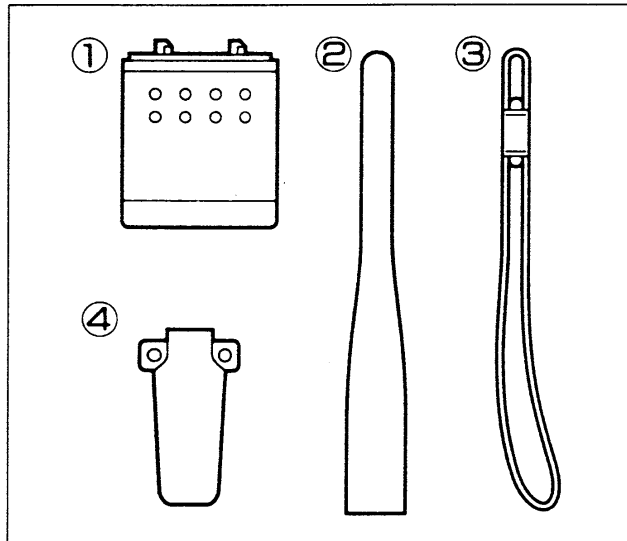
# 目次

5. スキャンのしかた	28	Bメッセージの送出方法	51
5-1 スキャンについて	28	Cメッセージを受信するには	52
5-2 フルスキャンのしかた	29	D受信メッセージの消しかた	53
5-3 プログラムスキャン/ プログラムスキップスキャンのしかた	30	7-5 トーンスケルチについて	54
Aプログラムスキャンの操作	30	AUT-94の取り付けかた	54
Bプログラムスキップスキャンの操作	32	Bトーンスケルチの使いかた	55
5-4 メモリースキャン/ メモリースキップスキャンのしかた	33	8. その他の便利な機能	57
Aメモリースキャンの操作	33	8-1 セットモードの設定方法	57
Bメモリースキップスキャンの操作	33	①トーン周波数②オフセット周波数③PTTロック機能④ピーブ音⑤プログラ ムスキップ⑥スキャン再スタート⑦オートレピータ機能	
5-5 プライオリティスキャンのしかた	34	8-2 イニシャルセットモードの設定方法	60
6. レピータの運用について(IC-T32のみ)	35	①オープニングテキスト②マイク・シンプルリモコン機能③オートパワーオフ 機能④パワーセーブ比⑤外部電源ライト機能⑥受信LED⑦ディスプレイのバ ックライト⑧ディスプレイのコントラスト⑨DTMFコードの送出スピード	
6-1 オートレピータ機能での交信	35	8-3 ロック機能について	63
6-2 送信モニターチェックについて	36	8-4 オートパワーオフ機能について	64
7. 各種機能の使いかた	37	9. 別売品について	65
7-1 デュプレックス運用のしかた	37	9-1 別売品一覧表	65
7-2 DTMF機能の使いかた	38	9-2 充電のしかた	66
ADTMFメモリーのしかた	38	9-3 HM-75Aの使いかた	69
BDTMFコードの消しかた	40	9-4 SP/MICジャックについて	70
CDTMFメモリーの確認とモニター	40	10. ご参考に	71
DDTMFコードの送出方法	41	10-1 工場出荷時の状態に戻すには(リセット)	71
7-3 ページャー/コードスケルチ機能の使いかた	42	10-2 故障かな?と思ったら	72
Aコードメモリーへの書き込みかた	42	10-3 故障のときは	73
B待ち受け動作の選択	44	11. 免許の申請について	74
Cページャー/コードスケルチ機能で送信するには	45	12. 送信系統図	75
Dページャー/コードスケルチ機能で待ち受けるには	47	13. バンドの区分について	77
7-4 メッセージ伝送の使いかた	49	14. 定 格	78
Aメッセージメモリーのしかた	49		

# 1

## ご使用の前に

### 1-1 付属品



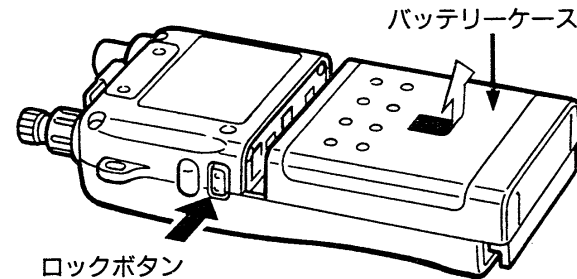
- ① バッテリーケース.....1
- ② アンテナ.....1
- ③ ハンドストラップ.....1
- ④ ベルトクリップ.....1

- 取扱説明書
- 保証書
- 愛用者カード

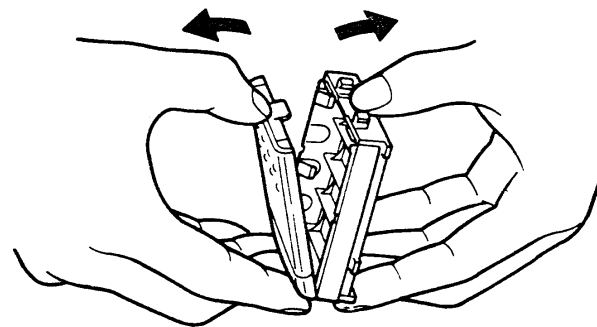
### 1-2 電池のセット

#### 1. バッテリーケースをはずす

本体側面のロックボタンを押しながら、ケースを下の方に引き出してください。

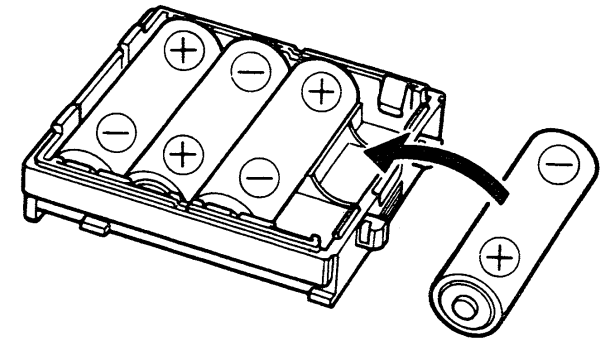


ケースカバーの上部につめをかけて、ケースカバーを開きます。



#### 2. 電池をセットする

単三形乾電池を4本収容できます。電池の極性 $\oplus$ 、 $\ominus$ をまちがえないようにセットしてください。



#### ● 乾電池のご使用について

本機は、高出力タイプですから、なるべく高容量のアルカリ電池をご使用ください。

乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。通常、乾電池の使用可能な温度の下限は、 $-10^{\circ}\text{C}$ とされていますから、寒冷地で使用する場合は、電池部分を暖かくして(十分保温する)ご使用ください。

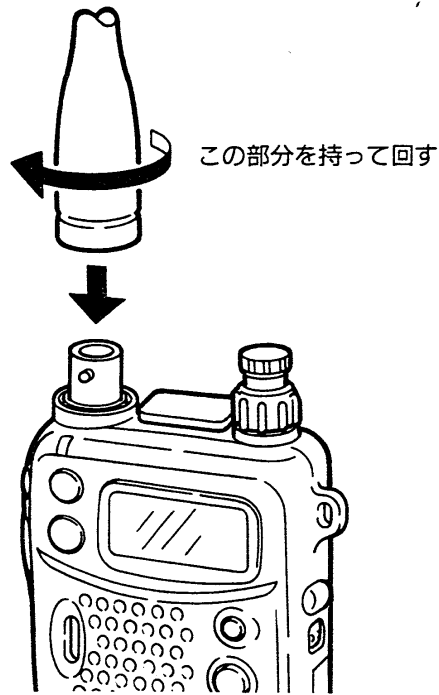
#### ● 乾電池の交換時期について

電池の容量が低下すると、ディスプレイ全体が点滅したり、表示が全体的にうすくなってきます。このようなときは、すべて同じ種類の新しい乾電池と交換してください。

## 1-3 アンテナとベルトクリップの付けかた

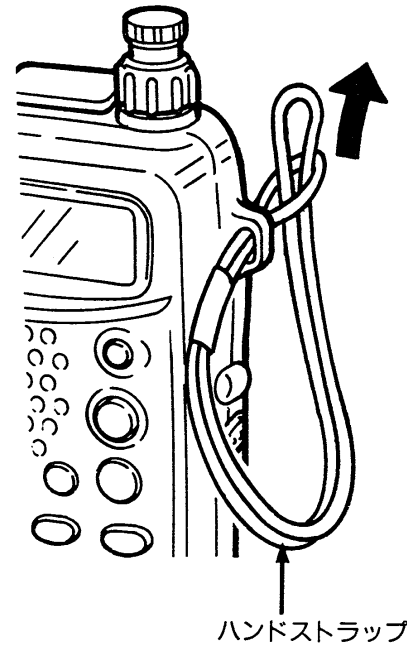
### 1. アンテナを取り付ける

アンテナはBNC式になっています。



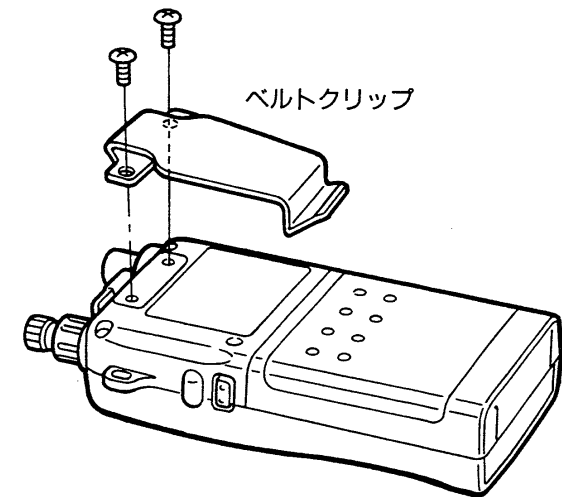
### 2. ハンドストラップを取り付ける

運用時や持ち歩くときに、ハンドストラップを手首にとおしておくと、落としたりしないで安全です。



### 3. ベルトクリップを取り付ける

ベルトクリップ取り付け部に付いているネジをはずし、そのネジでベルトクリップを取り付けてください。



※取り付けネジを失って、他のネジを流用する場合、3mm以上の長いネジは絶対に使用しないでください。

# 1 ご使用の前に

## 1-4 外部電源の使いかた

IC-T22/T32を使用するには、乾電池(付属のバッテリーケース)以外にも、外部電源または充電式バッテリーパックでも使用できます。

乾電池以外で使用するときは、下記の別売品をご用意ください。

### ①CP-12L

車内のDC12V系シガレットライターから電源を供給する場合。

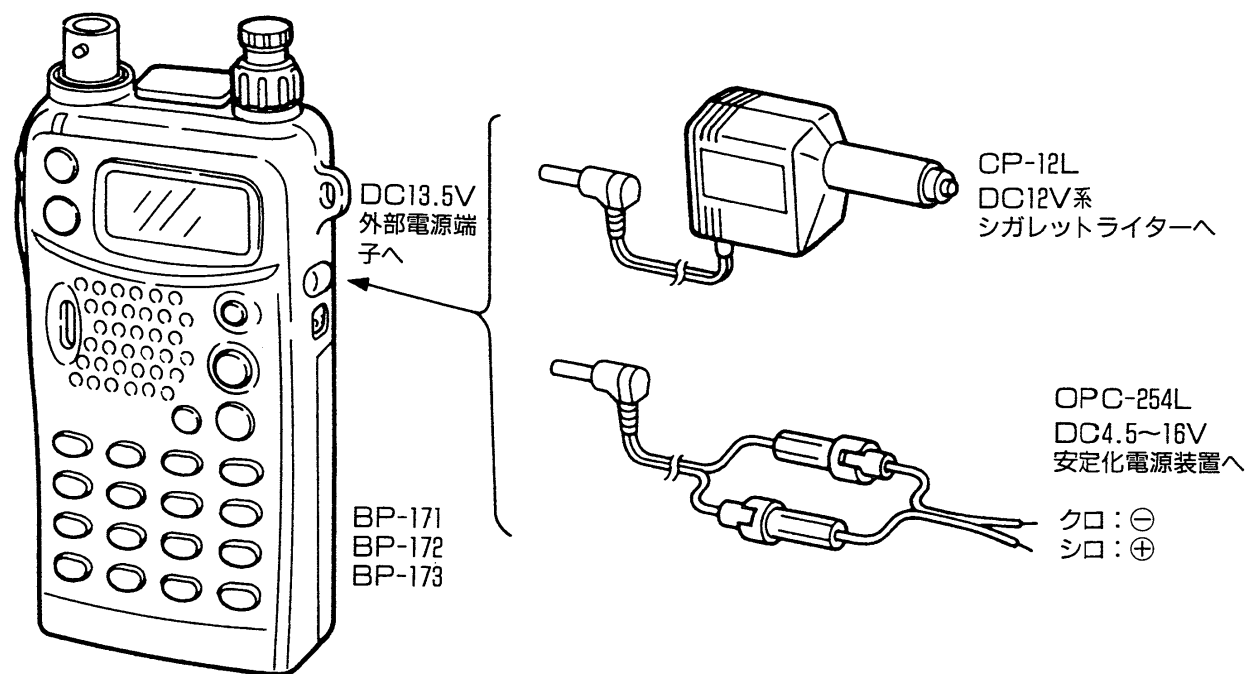
### ②OPC-254L

DC4.5~16Vの安定化電源装置から電源を供給する場合。

### ③BP-171、BP-172、BP-173

充電式ニッカドバッテリーパックで使用する場合。

充電式ニッカドバッテリーパックについては65ページ、充電のしかたは66ページをご覧ください。  
外部電源接続時、パワーセーブ機能を“OFF”にしてディスプレイのバックライトを連続点灯するように、イニシャルセットモード(☞P60、62⑤項)で変更できます。



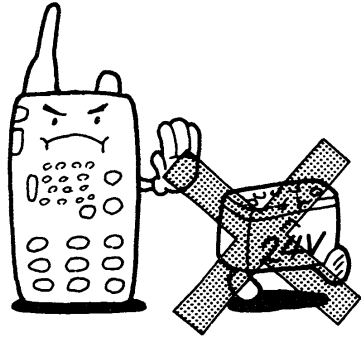
ご注意：乾電池での運用中は、外部電源を接続しないでください。液もれのおそれがあり、故障の原因になります。

ご注意：外部電源での運用中は、ハイパワーで運用すると、故障ではありませんが、本体がかなり熱くなりますので、別売のモバイルブラケットに固定するなどして、じかに持たない配慮をしてください。

ご注意：外部電源を使用しないときは、外部電源ジャックにホコリや雨が入らないように、必ずゴムキャップを付けてください。

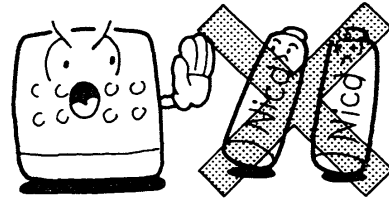
1-5 取り扱い上のご注意

DC4.5~16V以外の電圧は使用できません。



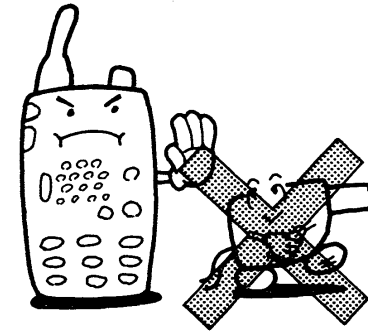
弊社指定のバッテリーパック、またはオプションケーブルをご使用ください。

市販の単三形NiCd電池は、使用しないでください。



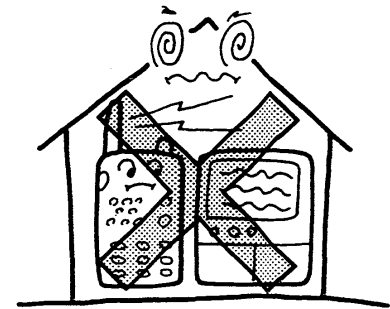
電圧のバラツキや接触抵抗によって、発熱したり液もれのおそれがあり、故障の原因になります。別売品のニッカドバッテリーパックをご利用ください。

乾電池で使用するときは、外部電源を接続しないでください。



乾電池での使用中に外部電源を接続すると、発熱したり液もれのおそれがあり、故障の原因になります。

室内で送信すると、電波障害を起こすことがあります。



室内で送信するときは、外部アンテナをご使用ください。

シンナーやベンジンは、絶対に使わないでください。



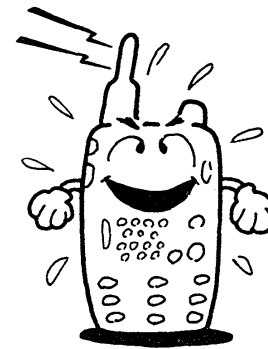
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

内部のコアやトリマーを触らないでください。



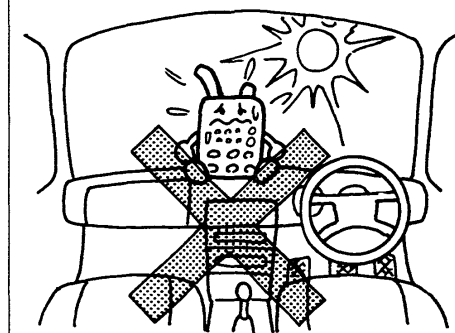
完全調整していますので、取扱説明書で指定していないところをさわると故障の原因になります。

長時間送信すると熱くなりますが、異常ではありません。



本機の背面が放熱板になっていますので、温度は上昇しますが、故障ではありません。

高温、多湿やホコリの多いところでの使用はさけてください。



車のダッシュボード上に放置すると、温度が上昇して悪影響を与えます。

# 2

## 各部の名称と機能

### 2-1 上面パネル

#### ●SP(スピーカー)ジャック

別売のスピーカーマイクロホンやイヤホン、または外部スピーカーを接続するジャックです。(P70)

#### ●MIC(マイクロホン)ジャック

別売のスピーカーマイクロホン、または外部マイクロホンを接続するジャックです。(P70)

※外部スピーカーマイクロホンおよびイヤホンについては、66ページの「別売品について」をご覧ください。

#### ●アンテナコネクター

付属品のアンテナを接続するコネクターです。  
BNCコネクターを使用すれば、外部アンテナも接続できます。(P2)

#### ●DIAL(ダイヤル)ツマミ

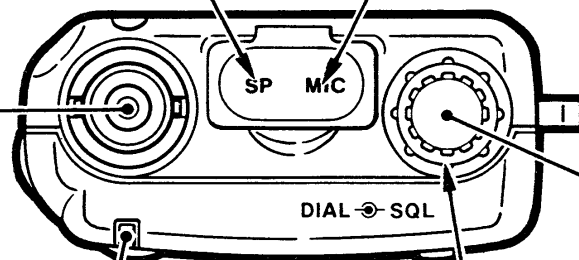
VFOモードでは周波数設定、メモリーモードではメモリーチャンネルを呼び出します。また、スキャン方向の変更などにも使用します。

#### ●送信/受信LED

送受信の状態を表示するLEDです。  
送信時は赤色、受信時は緑色に点灯し、無信号時は消灯します。

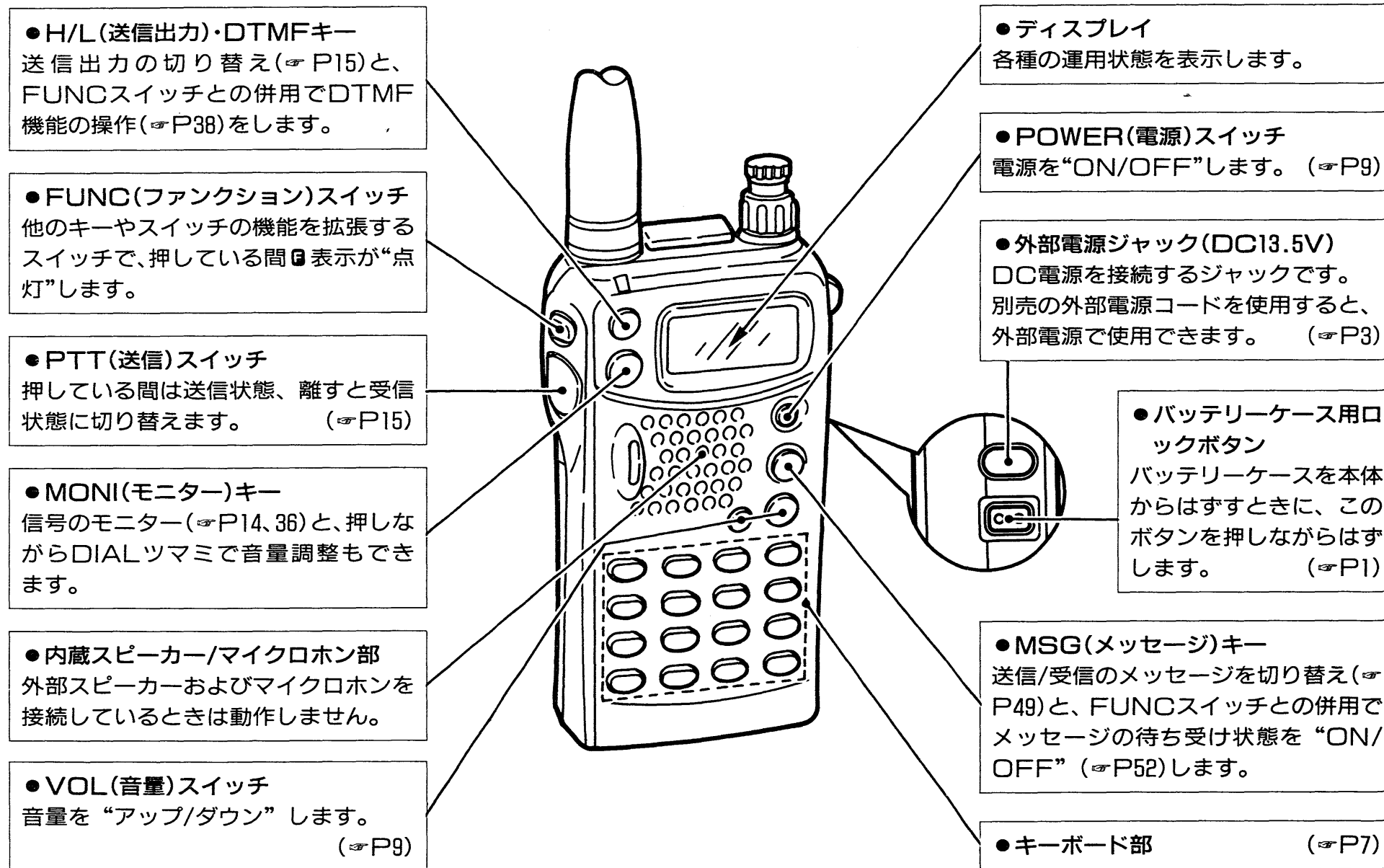
#### ●SQL(スケルチ)ツマミ

無信号時の雑音を消すスケルチ調整用ツマミです。(P10)



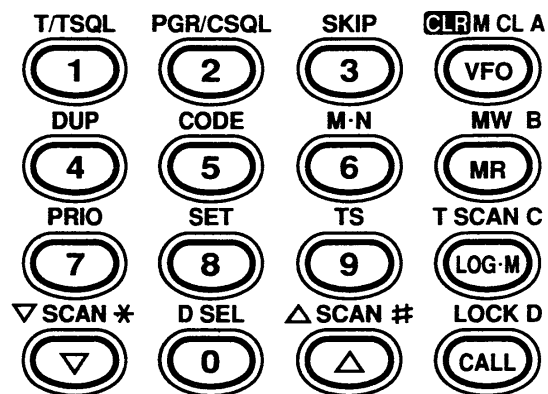


## 2-2 前面・側面パネル



## 2 各部の名称と機能

### 2-3 キーボード



#### ■キーボードの取り扱いかた

- ①キーを単独で押したときは、キーボタン上に表示した機能になります。
- ② **FUNC** を押しながら (表示が“点灯”) 各キーを押したときは、他の機能になります。
- ③ (1) ~ (0) の数字キーは、周波数の設定とメモリーチャンネルを設定できます。
- ④ **VFO** (A) ~ **CALL** (D)、**▽** (\*), **△** (#) および数字キー (1) ~ (0) は、DTMFコードの設定 (P38) などにも使用します。
- ⑤各キーの機能は、VFOモードとメモリーモードによって異なった動作をすることがあります。

キー ボタン	各キーを単独で押したとき		<b>FUNC</b> を押しながら各キーを押したとき	
	VFOモード時	メモリーモード時	VFOモード時	メモリーモード時
T/TSQL (1)	周波数の置数 (入力設定用)	メモリーチャンネルの置数 (入力設定用)	トーンエンコーダー (またはポケットビープ、トーンスケルチ) を切り替える ( ) 内は別売品の UT-94 装着時に動作 (P55)	
PGR/CSQL (2)	同上	同上	ページャーまたはコードスケルチ機能の運用モードを切り替える (P45)	
SKIP (3)	同上	同上	メモリーチャンネルのスキップ“指定/解除” をする (P27)	
DUP (4)	同上	同上	送信と受信の周波数をずらして運用できるデュプレックス (DUPLEX) モードにする (P37)	
CODE (5)	同上	同上	コードメモリーを呼び出す (P43)	

キー ボタン	各キーを単独で押したとき		[FUNC]を押しながら各キーを押したとき	
	VFOモード時	メモリーモード時	VFOモード時	メモリーモード時
M-N 6	周波数の置数(入力設定用)	メモリーチャンネルの置数 (入力設定用)		周波数表示とチャンネル表示(メモリーネーム)を切り替える(☞P23)
PRIO 7	同上	同上	プライオリティスキャンの“スタート/ストップ”をする(☞P34)	
SET 8	同上	同上	各種の運用条件を変更するためのセットモードにする(☞P57)	
TS 9	同上	同上	周波数ステップ(チューニングステップ)を切り替える(☞P16)	
D SEL 0	同上	同上	周波数を大きく変えるダイヤルセレクト機能にする(☞P17)	
▽SCAN* ▽	周波数のダウンまたはアップをする(☞P13)	メモリーチャンネルのダウンまたはアップをする(☞P20)	プログラムスキャン動作になる(☞P30)	メモリースキップスキャン動作になる(☞P33)
△SCAN# △	0.5秒以上押すと、フルスキャン動作になる(☞P29)	0.5秒以上押すと、メモリースキャン動作になる(☞P33)		
M CL A VFO	VFOモードにする(☞P11) 周波数またはメモリーチャンネルの入力置数をクリア、セットモードなどの解除をする			押し続けると、メモリーチャンネルを消去する(☞P25)
MW B MR	メモリーモードにする(☞P11)		VFOにセットした内容を、メモリーに書き込む※モードは変化しません。(☞P21)	メモリーの内容をVFOに移し、VFOモードに移る(☞P27)
T SCAN C LOG-M	直前に送信したシンプレックス周波数を記憶するログメモリー、またはレピータ(IC-T32のみ)およびデュプレックス周波数を記憶するレピータメモリーの呼び出し(☞P26)		トーンスケルチ設定時、トーンスキャンをスタートする(☞P56)	
LOCK D CALL	コールチャンネルモードにする(☞P11、25)		ロック機能を“ON/OFF”する(☞P63)	

# 3

## 基本操作のしかた

### 3-1 電源の“ON/OFF”と音量/スケルチ調整

IC-T22/T32の音量レベルは、17段階で設定できる電子ボリュームを採用しています。

上側がDIAL(ダイヤル)つまみ、下側がSQL(スケルチ)つまみです。

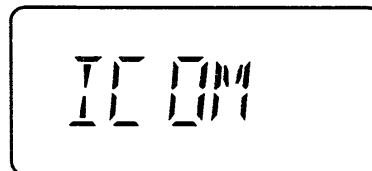
#### 1. 電源を入れる

**POWER**を少し長く(0.5秒以上)押します。

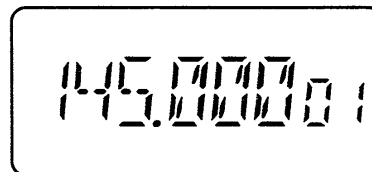
- オープニングテキスト“ICOM”を一瞬表示します。なお、テキスト内容を変更(☞P49)、または消灯(☞P60、61①項)できます。
- 電源を切るときも、同じ操作をします。



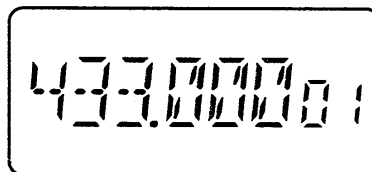
オープニングテキスト表示



IC-T22の初期表示



IC-T32の初期表示



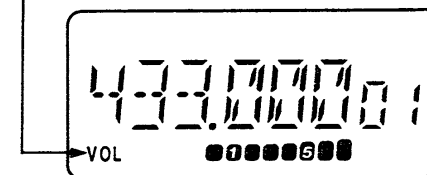
#### 2. 音量を調整する

VOLスイッチの(▲)または(▼)を押し、聞きやすい音量にします。

- ディスプレイにVOL表示が点灯し、Sメーターに音量レベル(次ページ参照)を表示します。



(VOL)スイッチを押したときに点灯する音量レベル表示



### 3. スケルチを調整する

(SQL)を回して“ザー”という雑音と、送信/受信LED(緑色)が消えるようにします。

- 信号を受けていないときに(SQL)を右へ回し、雑音と送信/受信LEDの消えた位置から少し右へ回します。



※(SQL)を右へ回しすぎると、雑音だけでなく弱い電波も聞きにくくなりますのでご注意ください。

※受信LED(緑色)が点灯しないように、イニシャルセットモード(☞P60、62 ⑥項)で変更できます。

### ■音量レベル表示について

VOLスイッチの(▲)を押すと音量がアップし、(▼)を押すとダウンします。

音量調整中は、17段階の音量レベルを8段階に分けて、Sメーターに表示します。

音量レベルを“0”にしたときは、無音になります。

音 量	Sメーターの表示
0	ドットなし(無音)
1~2	1ドット
3~4	S1
5~7	S3
8~10	S5
11~13	S7
14~15	S9
16	フルスケール

別売品のリモコン機能つきスピーカーマイクロホン(HM-75A)で音量を調整するときは、音量レベルは表示しません。

### ■ダイヤルツマミで音量調整する方法

(MONI)を押しながら(DIAL)を右に回すと音量がアップ、左に回すとダウンします。

### 3 基本操作のしかた

#### 3-2 運用モード(VFO/メモリー/コール)の切り替えかた

IC-T22/T32の運用モードには、次の3とおりがあります。

##### ①VFOモード

ダイヤルツマミやキーボードで、周波数を設定するモードです。

##### ②メモリーモード

あらかじめ記憶させたメモリーCH(チャンネル)で運用するモードです。

##### ③コールCHモード

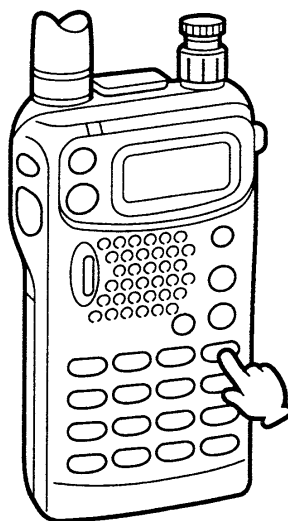
交信相手を呼び出すための周波数を設定したモードです。

- IC-T22 : 145.000MHz
- IC-T32 : 433.000MHz

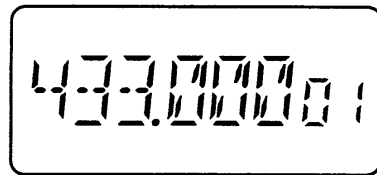
##### 1.VFOモードにするには

**VFO**を押します。

- “**MR**”または“**[**” (“**LG**”および“**r-P**” : 26ページ参照)が消灯します。



VFOモードの表示

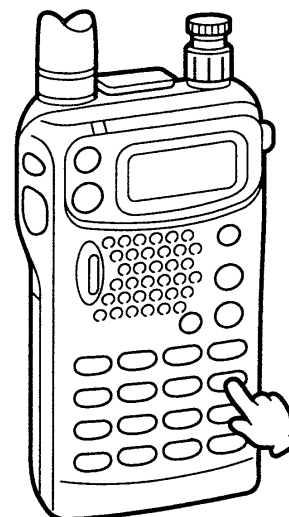


周波数設定のしかたは、次ページをご覧ください。

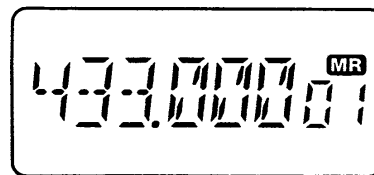
##### 2.メモリーモードにするには

**MR**を押します。

- “**MR**”とCH番号が点灯します。



メモリーモードの表示

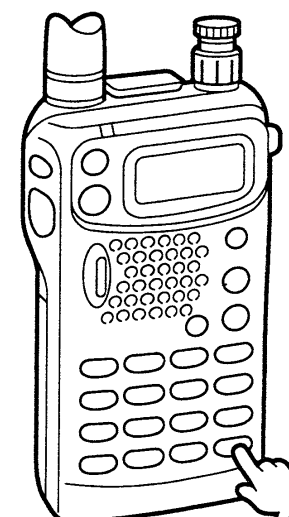


メモリーの使いかたは、18ページをご覧ください。

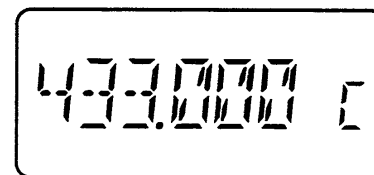
##### 3.コールCHにするには

**CALL**を押します。

- “**[**”が点灯します。



コールチャンネルモードの表示



コールCHの使いかたは、25ページをご覧ください。

### 3-3 周波数設定のしかた

IC-T22/T32の周波数設定のしかたは、次の3とおりがあります。

- ①キーボードから直接周波数を入力する。
- ②ダイヤルツマミを回し、周波数を設定(⇨P13)する。
- ③キーボードの△(アップ)または▽(ダウン)キーを押し、周波数を設定(⇨P13)する。

周波数を設定するときは、VFOキーを押し、VFOモードにしておきます。

#### 1. キーボードで設定するには

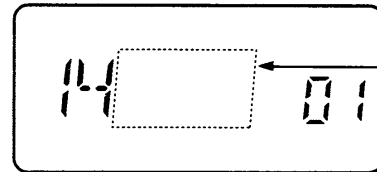
キーボードの数字キー(1~0)で、周波数の数値を直接入力する方法です。

例：433.680MHzを設定する場合

3 6 8の順番に押します。

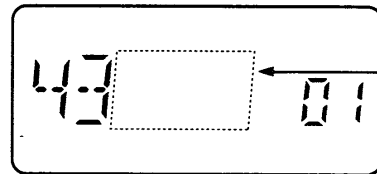
- キー入力中はMHzを表すデシマルポイントが消え、入力を完了すると“ピー”とビーブ音が鳴り、デシマルポイントが点灯します。
- アマチュアバンド外の周波数を入力したときは、キーを押す前の周波数に戻ります。
- キー入力をまちがえたときは、(VFO)(CLR)を押してください。
- IC-T22/T32ともに、3ケタ入力です。

IC-T22の場合

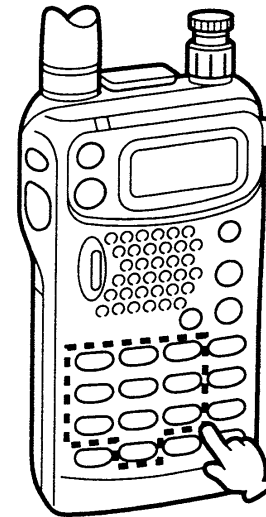


1MHz、100kHz、10kHzの3ケタを入力する

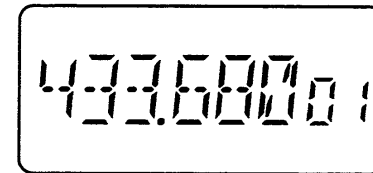
IC-T32の場合



1MHz、100kHz、10kHzの3ケタを入力する



433.680MHzを入力したときの表示



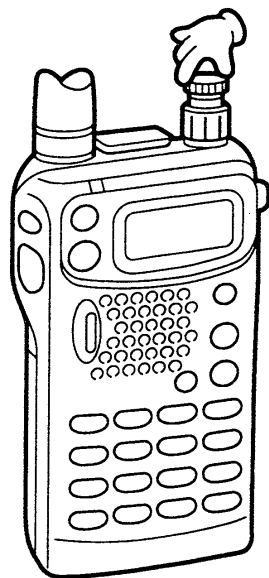
## 3 基本操作のしかた

### 3-3 周波数設定のしかた(つづき)

#### 2. ダイヤルツマミで設定するには

ダイヤルツマミを回して周波数を設定する方法です。

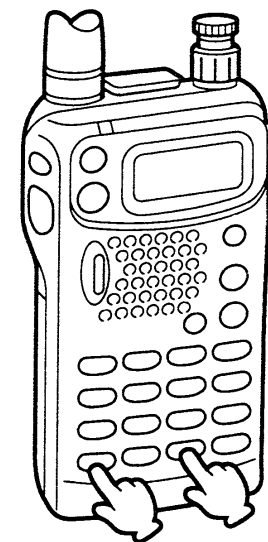
- VFOモードになっていることを確認してください。
- **(DIAL)** を回すと、20kHzステップ(出荷時の設定幅)で周波数が変化します。
- 周波数ステップを変更したいときは、16ページをご覧ください。



#### 3. $\Delta$ / $\nabla$ キーで設定するには

キーボードの $\Delta$ (アップ)または $\nabla$ (ダウン)キーで周波数を設定する方法です。

- VFOモードになっていることを確認してください。
- **( $\Delta$ )** または **( $\nabla$ )** を押すと、20kHzステップ(出荷時の設定幅)で周波数が変化します。
- **( $\Delta$ )** または **( $\nabla$ )** を0.5秒以上押すと、スキャン動作をしますのでご注意ください。スキャン動作になったときは、もう一度同じ操作をするか、**(VFO)**(CLR)を押してください。
- 周波数ステップは、ダイヤル設定時と共通です。



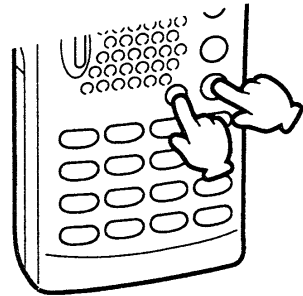


### 3-4 受信のしかた

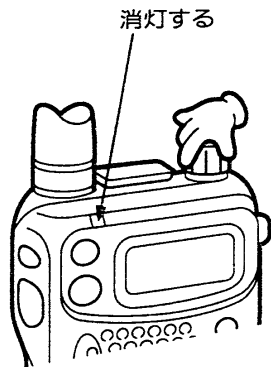
#### 1. 音量とスケルチを調整する

9~10ページをご覧ください。

##### ●音量調整



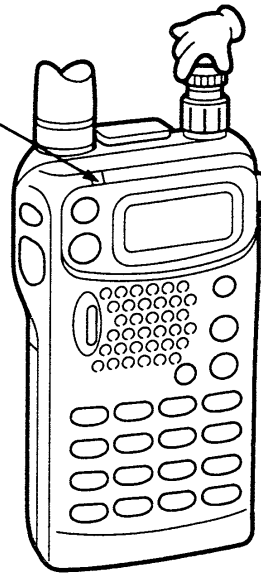
##### ●スケルチ調整



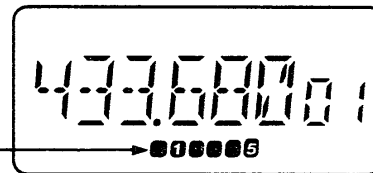
#### 2. 受信周波数を設定する

信号を受信すると、送信/受信LEDが緑色に点灯し、信号の強さに応じてSメーターが表示されます。

信号が入ると  
緑色に点灯する



Sメーター

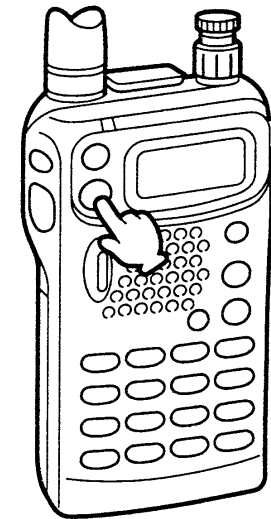


※受信LED(緑色)が点灯しないように、イニシャルセットモード(☞P60、62☞項)で変更できます。

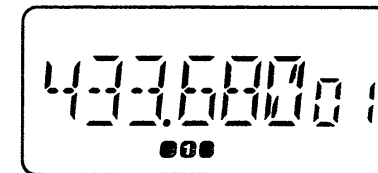
#### ■受信モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に効果があります。

●(MONI)を押しながら受信します。



(MONI)を押している間、  
信号をモニターできる



### 3 基本操作のしかた

#### 3-5 送信出力の設定と送信のしかた

送信する前に、その周波数で他局が使用していないか確認し、混信や妨害を与えないようにご注意ください。

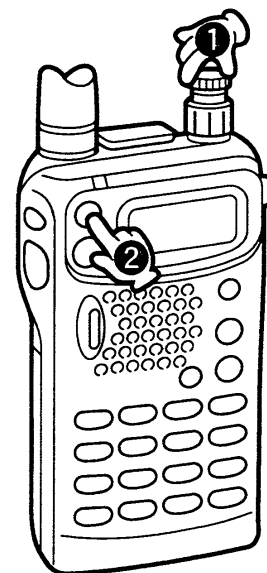
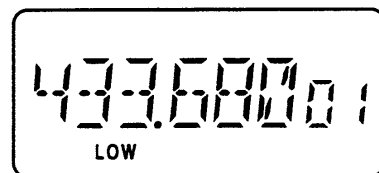
交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。

送信出力は、「HIGH/LOW」の2段階の中から選べます。

#### 1. 送信周波数と送信出力を設定する

- ①送信周波数を設定(⇨P12)します。
- ② (H/L) を押すごとに、HIGH↔LOWと切り替わります。
- LOW出力のとき、LOW表示が出ます。
- (PTT)を押したときに、設定した送信出力をSメーターに表示します。

LOW出力を設定したときの表示



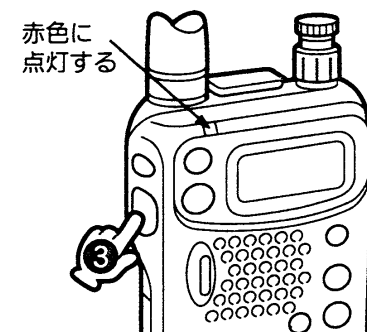
#### ●送信時の出力と表示の関係

表示	外部電源(13.5V)	乾電池(6V)
HIGH ●●●●●●●●●●	5W以上	1~1.5W
LOW LOW ●●	約0.5W	約0.5W

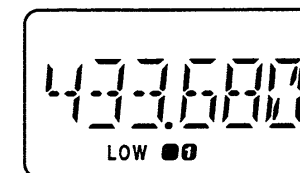
※別売品のバッテリーパック使用時の送信出力は、65ページを参照してください。

#### 2. 送信する

- ③ (PTT)を押しながら、内蔵マイク部に向かって話します。
- 送信/受信LEDが赤色に点灯します。
- (PTT)から指を離すと、受信状態に戻ります。



LOW出力で送信したときの表示



※マイクと口元は5cmぐらい離し、普通の大きさの声で話してください。近づけすぎたり、大きな声で話すとかえってめいりよう度が悪くなりますのでご注意ください。

### 3-6 周波数ステップの換えかた

周波数ステップ(TS)とは、ダイヤルツマミまたは△(アップ)/▽(ダウン)キーで周波数をセットするときに、変化する周波数の幅をいいます。

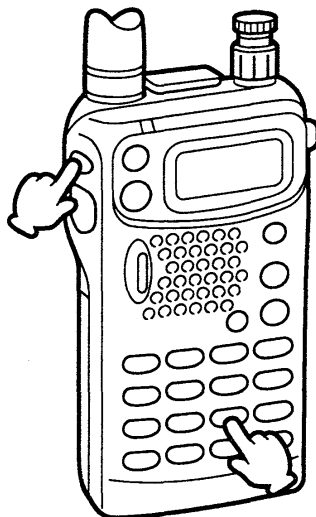
この周波数ステップは、周波数を自動的に切り替えるスキャン(☞P28)でも同じステップ幅になります。

IC-T22/T32で選べる周波数ステップは、5/10/12.5/15/20/25/30/50kHzの8ステップで、工場出荷時の初期設定値は20kHzです。

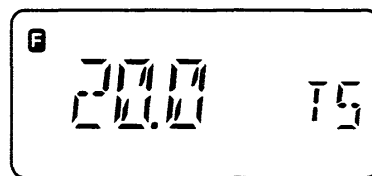
#### 1. TS表示を点灯させる

**FUNC**を押しながら**9**(TS)を押します。

- TS表示と設定値が点灯します。



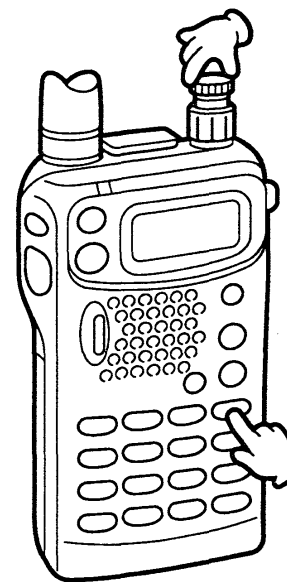
TS表示が点灯



#### 2. ステップ幅を選ぶ

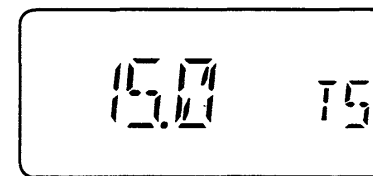
**DIAL**を回します。

- 周波数表示に戻すときは、**VFO**(CLR)を押してください。



周波数表示に戻すときに押す

15kHzステップにしたとき



### 3 基本操作のしかた

#### 3-7 周波数を大きく変えるダイヤルセレクト機能

周波数を大幅に移動するときにはダイヤルセレクト機能が便利です。

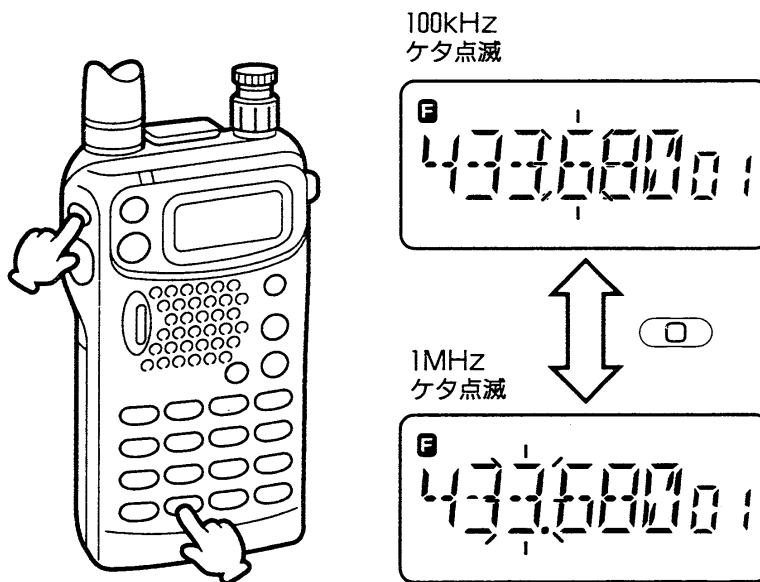
あらかじめ1.の操作で変更したいケタ(100kHzまたは1MHz)をプリセットしておけば、必要なときに2.の操作をして、簡単に変更できます。

1.および2.の操作とも、メモリーモードではできません。

##### 1. 周波数変更ケタのプリセット

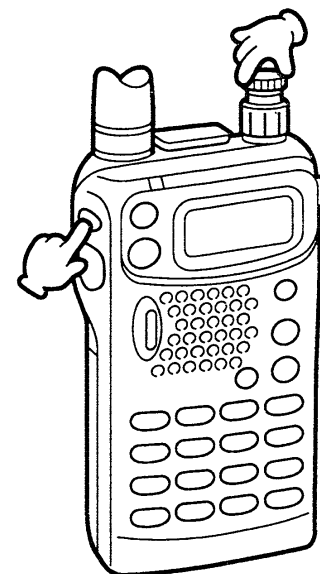
VFOモードで、**FUNC**を押しながら**D** (D SEL)を押します。

- **D**を押すごとに、点滅ケタが100kHz↔1MHzと移動します。

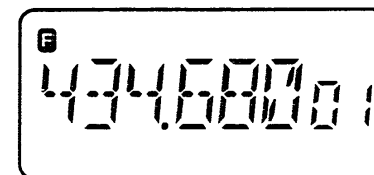


##### 2. 変更ケタの数値をセットする

**FUNC**を押しながら**DIAL**を回します。



MHzケタをプリセットしているときはMHzケタが変化する



## 4-1 メモリーモードについて

よく使用する周波数や運用情報などを、あらかじめ記憶させておき、このメモリーチャンネルで運用するためのモードです。

IC-T22/T32には、メモリーチャンネルとして40CH(80CHに拡張可能：☞P26)、プログラムスキャン用プログラムチャンネルとして6CH、およびコールチャンネルの合計47CHが内蔵されています。

メモリーチャンネルの呼び出しかたには、呼び出したいメモリーチャンネルによって異なります。

- ①40CHある通常のメモリーチャンネル呼び出し(☞P19)。
- ②3組のプログラムチャンネル呼び出し(☞P20)。
- ③コールチャンネル呼び出し(☞P25)。

メモリーチャンネルに記憶させる方法には、次の2とおりがあります。

- ①空きチャンネルにメモリーする方法(☞P21)  
VFOモードで周波数を設定したあと、記憶させるチャンネルを選んで書き込む場合に便利です。
- ②要らないチャンネルに上書きする方法(☞P22)  
メモリーモードで要らないチャンネルを選んだあとVFOモードに戻し、新しい周波数を設定して上書きする場合に便利です。

メモリーチャンネルに記憶できる内容は右表のとおりです。

### ●メモリーチャンネルの内容

チャンネル	おもな用途
01~10	●通常のメモリーチャンネルとして使用する
11~40 (11~80)	●通常のメモリーチャンネルとして使用する ●工場出荷時は消去しているため表示しない ●プログラムスキップスキャンのスキップ周波数用として末尾CHからメモリーする
1A/1B~ 3A/3B (プログラムCH)	●プログラムスキャンの周波数設定用(3組) ●工場出荷時はバンドエッジの周波数をセットしている
C (コールチャンネル)	●各バンドの呼び出し周波数をセットしている ●通常のメモリーチャンネルとしても使用できる

※メモリーチャンネル(01~10CH)とコールチャンネルの初期設定値  
IC-T22 : 145.00MHz/IC-T32 : 433.00MHz

※すべてのメモリーチャンネルで運用周波数のほかに、下表の内容を記憶します。

### ●メモリーチャンネルに記憶できる内容(③はIC-T32のみ)

通常時	オプション装着時
①運用周波数 ②トーン周波数とトーンエンコーダーの“ON/OFF” ③レピータ周波数とレピータ運用モード、およびオフセット周波数	通常時の①~③とトーンスケルチの運用モード

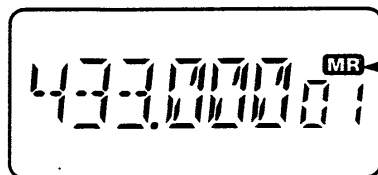
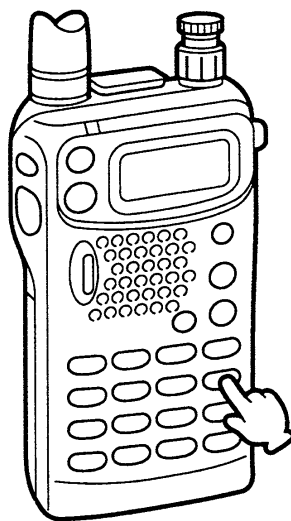
## 4 メモリーの使いかた

### 4-2 メモリーチャンネルの呼び出しかた

#### A メモリーモードにするには

**MR** を押し、メモリーモードにします。

- **MR** 表示とCH番号が点灯します。



メモリーモード  
表示

#### B 通常のメモリーCHを呼び出す

周波数をメモリーしているチャンネル“01～40”（メモリーチャンネル拡張時は“01～80”：P26参照）を呼び出す方法です。

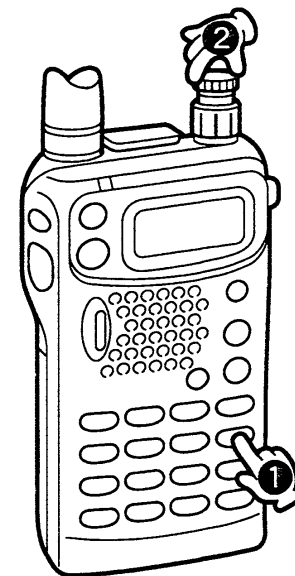
呼び出しかたは、次の3とおりがあります。

- ①ダイヤルつまみで呼び出す。
- ②キーボードの△（アップ）または▽（ダウン）キーで呼び出す。
- ③キーボードの数字キー（**1**～**0**）で呼び出す。

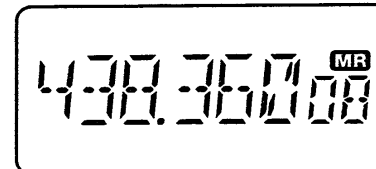
メモリー消去したチャンネルは、メモリーするとき（P21）以外は呼び出せません。工場出荷時は、“01～10”のみ前ページに記載の内容をメモリーしています。

#### 1. ダイヤルつまみで呼び出す

- ①メモリーモードにします。
- ② **DIAL** を回します。

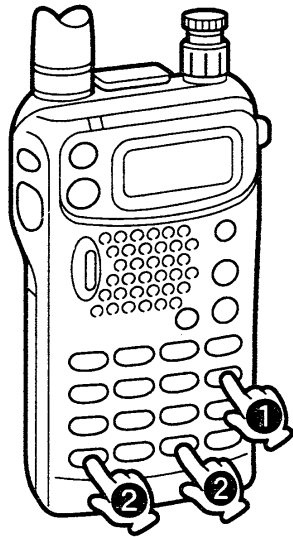


メモリーの“08”を呼び出した場合



2. △/▽キーで呼び出す

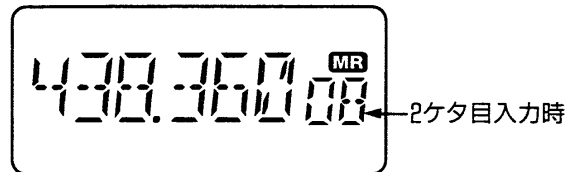
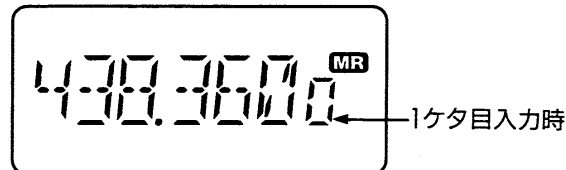
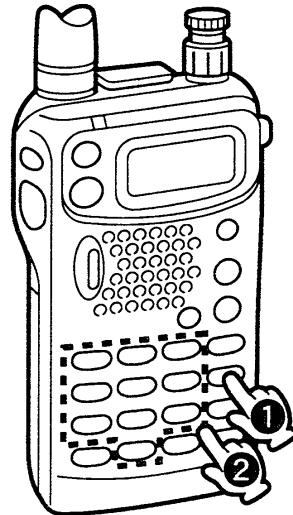
- ①メモリーモードにします。
- ② (△) または (▽) を押します。



※ (△) または (▽) を0.5秒以上押すと、スキャン動作になるのでご注意ください。スキャン動作になったときは、もう一度同じ操作をするか、(VFO) (CLR) を押してください。

3. キーボードで呼び出す

- ①メモリーモードにします。
- ②2ケタ分の数字キーを押します。

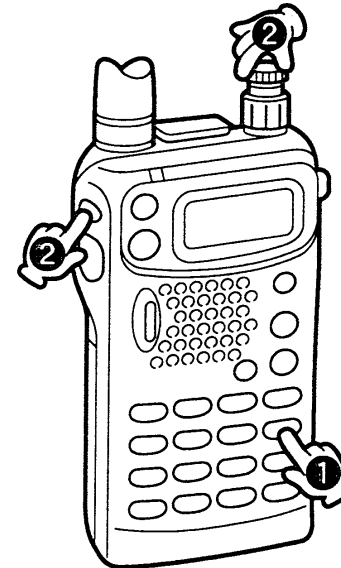


※メモリーしていない、またはチャンネル番号のない数字をキー入力したときは、キー入力前のチャンネル番号に戻ります。

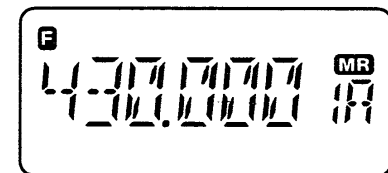
■プログラムチャンネルを呼び出す

プログラムスキャンの周波数範囲を設定する“1A/1B～3A/3B”を呼び出す方法です。

- ①メモリーモードにします。
- ② (FUNC) を押しながら (DIAL) を回します。



プログラムチャンネル“1A”を呼び出した場合



■キーボードで呼び出す方法

- 1A: (1) (▽) / 1B: (1) (△)
- 2A: (2) (▽) / 2B: (2) (△)
- 3A: (3) (▽) / 3B: (3) (△)

## 4 メモリーの使いかた

### 4-3 メモリー(記憶)のしかた

#### A 空きチャンネルにメモリーする方法

メモリーされていない空きチャンネルに書き込むメモリー方法です。

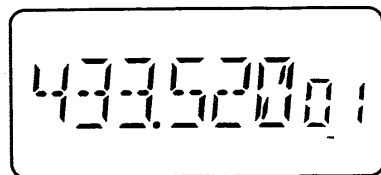
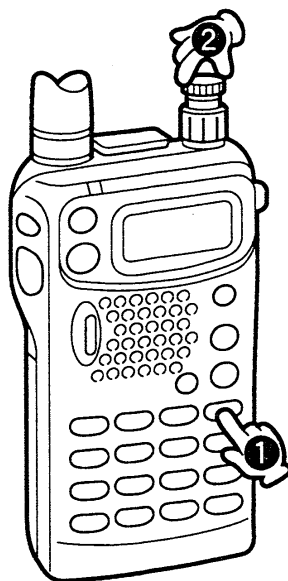
また、コールチャンネル(☞P25)の書き替えも、この方法で行います。

工場出荷時は、チャンネル“11～40”までが空きチャンネルになっています。

例：“433.52MHz”をチャンネル“11”にメモリーする場合

#### 1. 周波数を設定する

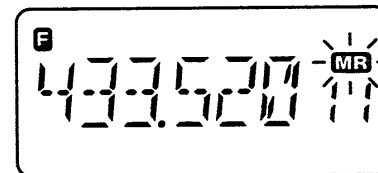
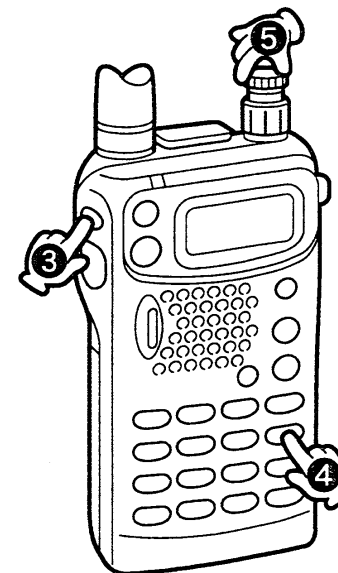
- ① **VFO** を押し、VFOモードにします。
- ② 周波数を“433.52MHz”(☞P12)にします。



VFOモードで  
433.52MHzを  
設定

#### 2. メモリーチャンネルを指定する

- ③ **FUNC** を押しながら④～⑥までを操作します。
- ④ **MR** (MW) を押します。
- ⑤ **DIAL** を回し、チャンネルを“11”にします。
- “[ ]” を選ぶとコールチャンネル、“**MR**” を選ぶとVFOに書き込めます。

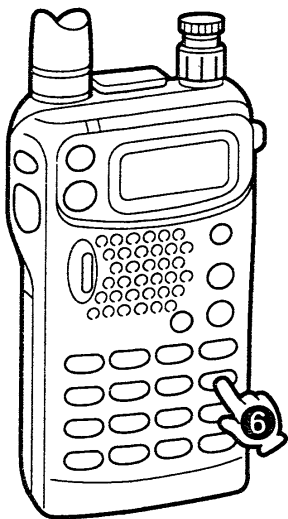


メモリーチャン  
ネル“11”を  
設定

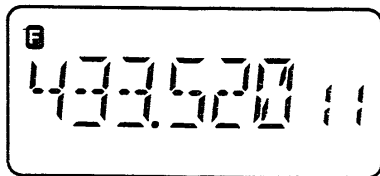


## 3. メモリー(記憶)する

- ⑥ “ピッピピ”と鳴るまで(MR) (MW)を押します。
- VFOモードの表示に戻ります。



メモリーしたあとVFO表示に戻る



## B 要らないチャンネルに上書きする方法

すでに書き込まれているメモリーチャンネルの上から、新しい周波数を書き込む場合のメモリー方法です。

工場出荷時は、チャンネル“01～10”に同じ周波数をメモリーしています。また、プログラムチャンネルも同じ周波数範囲をメモリーしています。

例：“438.36MHz”をチャンネル“08”にメモリーする場合

## 1. 上書きするチャンネルを選ぶ

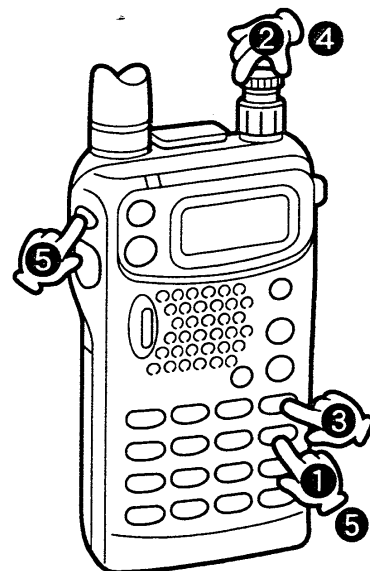
- ① (MR)を押し、メモリーモードにします。
- ② (DIAL)を回すか、(△)/(▽)またはキーボードを押し、上書きするメモリーチャンネル“08”を選びます。
- ※プログラムチャンネルを選ぶときは、(FUNC)を押しながら(DIAL)を回します。

## 2. 周波数を設定する

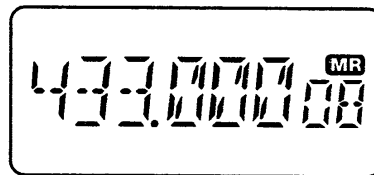
- ③ (VFO)を押し、VFOモードにします。
- ④ メモリーしたい周波数“438.36 MHz”(P12)を設定します。

## 3. メモリー(記憶)する

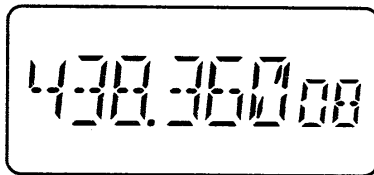
- ⑤ (FUNC)を押しながら、“ピッピピ”と鳴るまで(MR) (MW)を押します。
- VFOモードの表示に戻ります。



メモリーモードでチャンネル“08”を設定



メモリーしたあとVFOモードになる



## 4 メモリーの使いかた

### 4-4 メモリーネームの入れかた

メモリーチャンネルに、6文字以内の名前(ネーム)をつけることができます。

スケジュールを組んで交信するようなときに、交信相手のコールサインまたは名前などを書き込んでおけば、周波数を忘れることなく交信できて便利です。

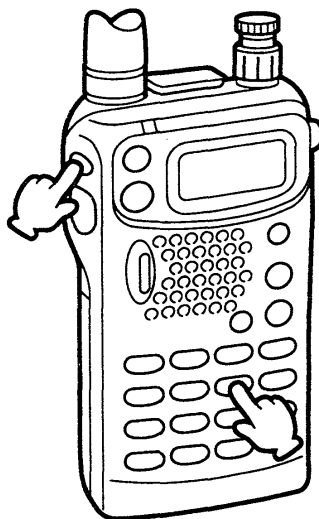
メモリーチャンネル拡張時、この機能は使用できません。

また、拡張前にネームを付けているときは、拡張時にクリアされるのでご注意ください。

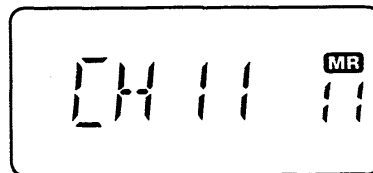
例：11チャンネルにスズキ(SUZUKI)と入れる場合

#### ■メモリー表示の切り替えかた

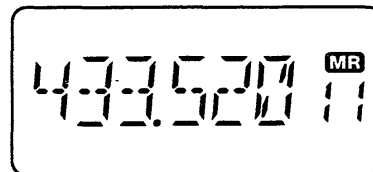
メモリーモードで、**FUNC**を押しながら**6**(M・N)を押すごとに、選んでいるメモリーチャンネルの表示が、周波数表示↔チャンネル表示と切り替わります。



チャンネル表示

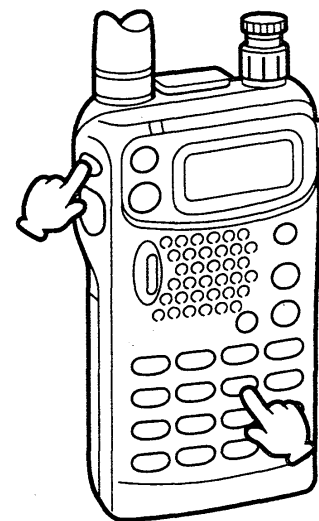


周波数表示



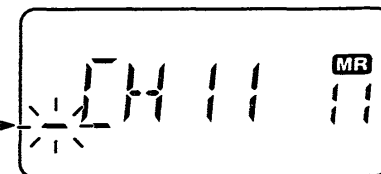
#### 1. ネームの書き込み状態にする

- ①名前の入れたいチャンネルを選び、**FUNC**を押しながら**6**(M・N)を0.5秒以上押し、ネームの書き込み状態にします。
- チャンネル表示(工場出荷時“\_CH11”を表示)の1けた目の“\_”が点滅します。



0.5秒以上

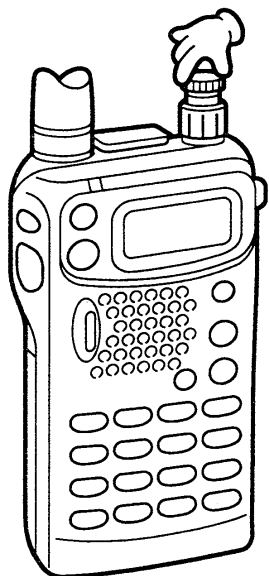
ネーム書き込み状態



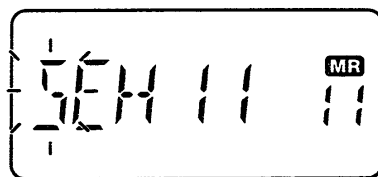
## 2. 文字を選ぶ

② (DIAL) を回し、1ケタ目の文字を選びます。

- 数字 ↔ 文字 ↔ 記号の順(キー入力対応表参照: P52)に表示します。

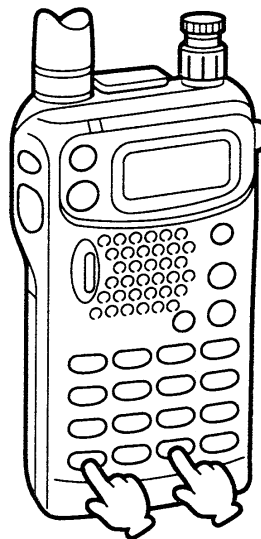


1ケタ目の文字を選ぶ

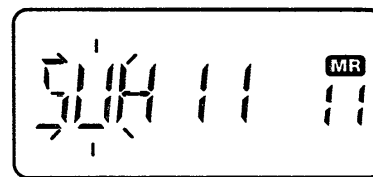


## 3. 指定ケタを選んで文字を選ぶ

③ 次のケタを選ぶときは (△)、前のケタを選ぶときは (▽) を押し、②の操作を繰り返してください。

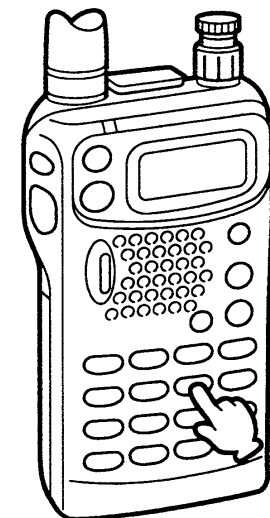


2ケタ目の文字を選ぶ

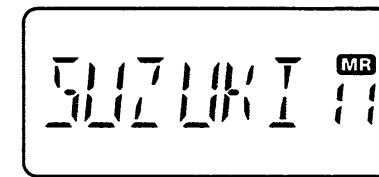


## 4. メモリーネームを書き込む

- ④ 文字を確認し、(6) (M・N) (または (VFO) (CLR)) を押して書き込みます。
- 書き込み後まちがいに気づいたときは①の操作からやりなおしてください。



6ケタ書き込んだときの表示



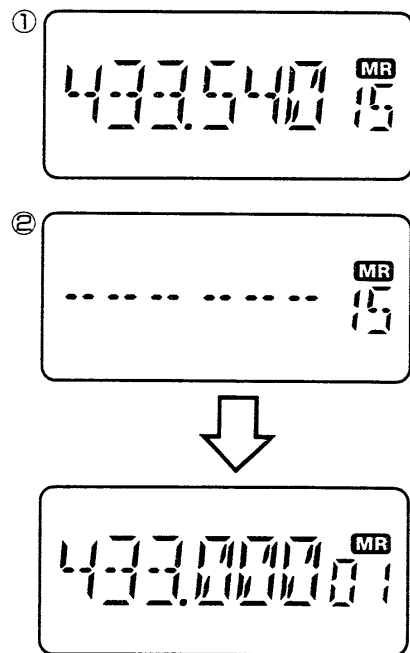
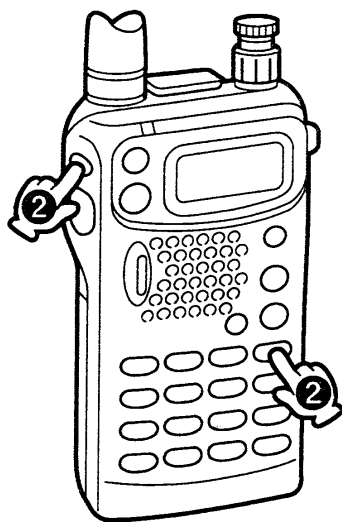
## 4 メモリーの使いかた

### 4-5 メモリーチャンネルの消しかた

要らなくなったメモリーチャンネルを消去します。

いったん消去したメモリーチャンネルの内容は、復活できないのでご注意ください。なお、メモリーチャンネル“01”とプログラムチャンネル、コールチャンネル、ログメモリー、およびレピータメモリーは消去できません。

- ①メモリーモードで、消去したいメモリーチャンネルを呼び出し(☞P19)ます。
- ② **(FUNC)**を押しながら、“ピッピピー”と鳴るまで**(VFO)**(**MC**L)を押すと、消去後にメモリーしている次のチャンネルを表示します。



※末尾CHを消去したときに“1A”を表示しますが、その後チャンネルを替えると“1A”は表示しません。

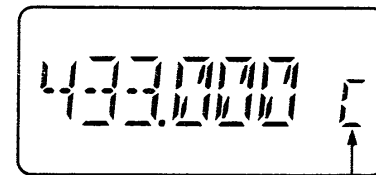
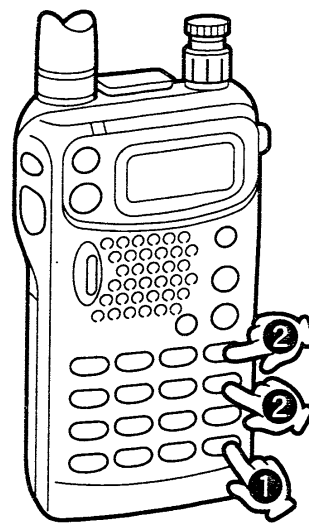
### 4-6 コールチャンネルの使いかた

コールチャンネルとは、各バンドで決められた呼び出し周波数をさし、メインチャンネルとも呼ばれています。

- IC-T22 : 145.00MHz
- IC-T32 : 433.00MHz

通常のメモリーチャンネルと同様に、自由にメモリー内容を書き替え(☞P21)られるので、使用ひんどの高い周波数を記憶しておくくと便利です。

- ① **(CALL)**を押すと、コールチャンネルを呼び出します。
- ②以前に使用していた運用モードに戻りたいときは、**(VFO)**または**(MR)**を押してください。



コールチャンネル表示

## 4-7 ログメモリーとレピータメモリーの使いかた 4-8 メモリーに関係する他の機能

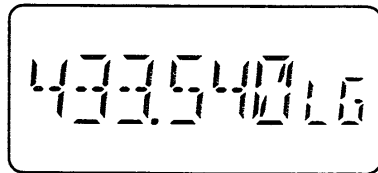
ログメモリーとレピータメモリーは、最後に送信した周波数データを自動的に記憶する機能です。

シンプレックス周波数データはログメモリーに、デュプレックス周波数とレピータ周波数データはレピータメモリーに記憶し、それぞれ1チャンネルずつ備えています。

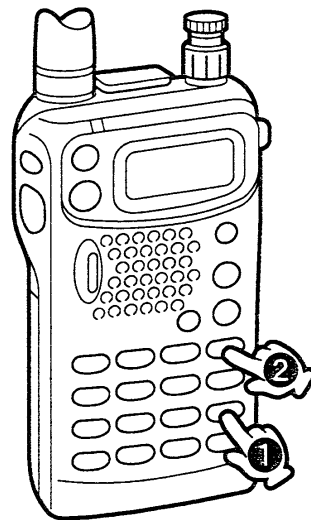
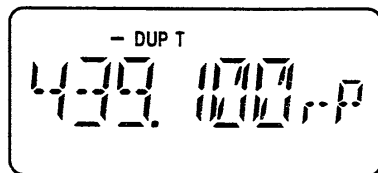
工場出荷時のログメモリーには、あらかじめ呼び出し周波数を書き込んでいます。レピータメモリーは、デュプレックスまたはレピータ周波数で一度送信して書き込んでください。

- ① **LOG・M**を押すごとに、“**L**” (ログメモリー) ↔ “**R・P**” (レピータメモリー) を切り替えながら呼び出します。
- ② 周波数表示に戻すときは、**VFO**(CLR)押してください。

ログメモリー



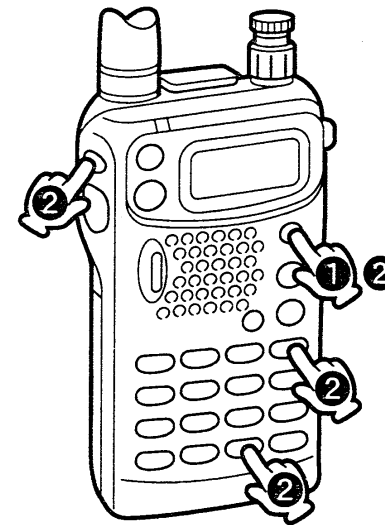
レピータメモリー



## A 80CHメモリーに拡張して使用するには

40チャンネルのメモリーを、80チャンネルに拡張する機能です。拡張時、メモリーネームは使用できなくなります。また、すでに書き込んでいるメモリーネームも消去されるのでご注意ください。

- ① **POWER**を押し、いったん電源を切ります。
  - ② **FUNC**と同時に**VFO**と**△**を押しながら、**POWER**を押して電源を入れます。
- 40チャンネルメモリーに戻すときは、オールリセットの操作(☞P71)をしてください。



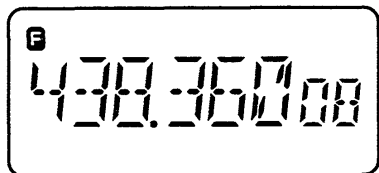
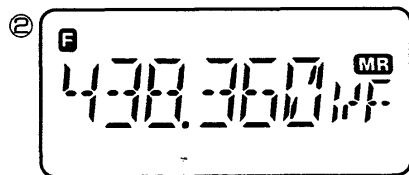
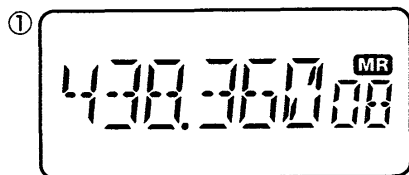
## 4 メモリーの使いかた

### 4-8 メモリーに関する他の機能(つづき)

#### ■メモリーの内容をVFOで使うには

使用しているメモリー周波数(ログメモリー、レピータメモリー、コールチャンネルも含む)の周辺に移って交信する場合などに、便利な機能です。

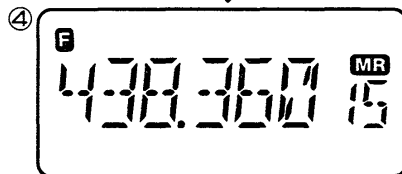
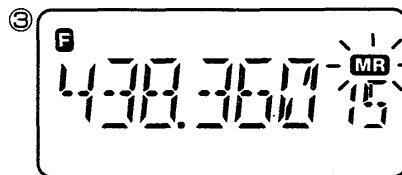
- ①希望のメモリーを呼び出します。
- ② **(FUNC)** を押しながら、“ピッピピ”と鳴るまで **(MR)** (MW) を押します。
- 操作後、VFOモードになります。



#### ■メモリーの内容を他のCHに移す

メモリーチャンネルの内容(ログメモリー、レピータメモリーも含む)を、コールチャンネルやプログラムスキンの周波数設定用などとして、メモリーしなおしたい場合に便利な機能です。

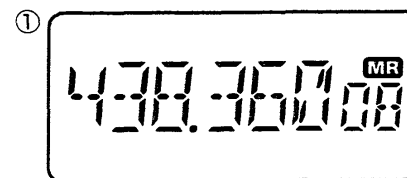
- ①希望のメモリーを呼び出します。
- ② **(FUNC)** を押しながら③と④を操作します。
- ③ **(MR)** (MW) を押したあと **(DIAL)** を回し、メモリーしなおしたいチャンネルを選びます。
- “**[ ]**”を選ぶとコールチャンネル、“**[F]**”を選ぶとVFOに書き込みます。
- ④“ピッピピ”と鳴るまで **(MR)** (MW) を押します。



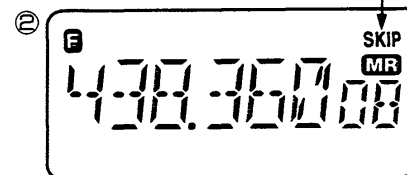
#### ■スキップチャンネルの指定のしかた

メモリースキップスキャン(☞P33)時に、スキャンしなくてもいいチャンネルを、飛び越す(スキップ)ように指定する機能です。

- ①希望のメモリーを呼び出します。
- ② **(FUNC)** を押しながら **(3)** (SKIP) を押します。
- “SKIP”表示が点灯します。
- スキップの指定を解除するときも同じ操作をしてください。



スキップの指定を  
すると点灯する



## 5-1 スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

### スキャン時のご注意

- スキャンを行うときは、スケルトツマミを通常の交信と同様に調整しておきます。
- 周波数を切り替えて行うスキャンは、あらかじめ設定されている周波数ステップ(☞P16)で動作します。
- スタート操作  
 (△) (△ SCAN) を押すと、アップスキャンになります。  
 (▽) (▽ SCAN) を押すと、ダウンスキャンになります。
- ストップ操作  
 スタートと同じ操作か、(VFO) (CLR) を押ししてください。

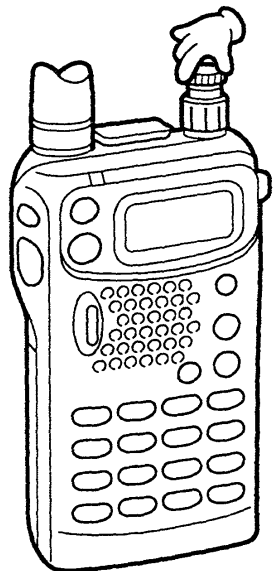
スキャンの種類	はたらき	スタート操作
フルスキャン (☞P29)	バンドごとに定められた運用周波数帯のすべてをスキャンします。	VFOモードで、(△) (△ SCAN) または (▽) (▽ SCAN) を0.5秒以上押します。
プログラムスキャン (☞P30)	「1A/1B」「2A/2B」または「3A/3B」のプログラムチャンネルに記憶している周波数範囲をスキャンします。	VFOモードで、(FUNC) を押しながら (△) (△ SCAN) または (▽) (▽ SCAN) を押します。
プログラムスキップスキャン (☞P32)	必要のない周波数を飛び越してスキャンします。	VFOモードで、フルスキャンまたはプログラムスキャンをします。
メモリスキャン (☞P33)	周波数を記憶している、すべてのメモリーチャンネルをスキャンします。	メモリーモードで、(△) (△ SCAN) または (▽) (▽ SCAN) を0.5秒以上押します。
メモリースキップスキャン (☞P33)	必要のないメモリーチャンネルを飛び越してスキャンします。	メモリーモードで、(FUNC) を押しながら (△) (△ SCAN) または (▽) (▽ SCAN) を押します。
プライオリティスキャン (☞P34)	VFO周波数とコールチャンネルの間、またはVFO周波数と指定メモリーチャンネルの間をスキャンします。	(FUNC) を押しながら (7) (PRIO) を押します。
トーンスキャン (☞P56)	別売品のUT-94装着時、受信した信号のトーン周波数を探し出すスキャンです。	(FUNC) を押しながら (LOG・M) (T SCAN) を押します。

## 5 スキャンのしかた

### 5-1 スキャンについて(つづき)

#### ■スキャン中のダイヤルツマミについて

- スキャン中に **(DIAL)** を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、**(DIAL)** を回すと即時再スタートします。

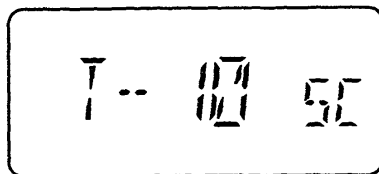


#### ■スキャン中の受信信号について

スキャン中に信号を受信すると、その周波数を約10秒間受信します。

- 約10秒経過すると、自動的に再スタート(途中で信号がなくなると、約2秒後に再スタート)します。
- 上記のタイマーは、セットモード(☞P57、59⑥項)で変更できます。

セットモードの「スキャン再スタートのタイマー設定」

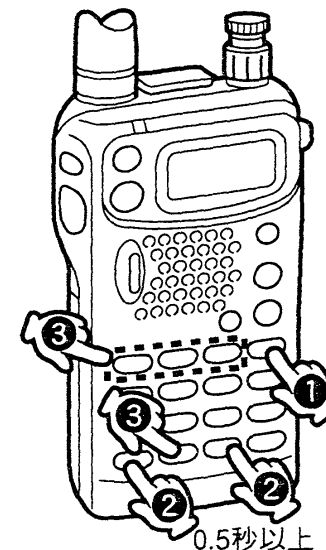


### 5-2 フルスキャンのしかた

フルスキャンは、バンドごとに運用できる周波数の端から端までをスキャンします。

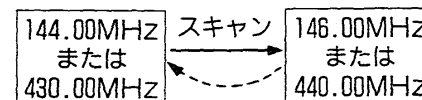
#### ■スタート操作

- ① **(VFO)** を押し、VFOモードにします。
- ② **(△)** (△ SCAN) または **(▽)** (▽ SCAN) を0.5秒以上押します。
- スキャンがスタートしたら、キーから指を離してください。
- ③ フルスキャン中に **(1)** または **(2)**、**(3)** を押し、プログラムスキャンになります。また、**(0)** を押し、フルスキャンに戻ります。



#### ■ストップ操作

- **(△)** / **(▽)** または **(VFO)** (CLR) を押します。





### 5-3 プログラムスキャン/プログラムスキップスキャンのしかた

#### A プログラムスキャンの操作 1. スキャンしたい範囲を書き込む

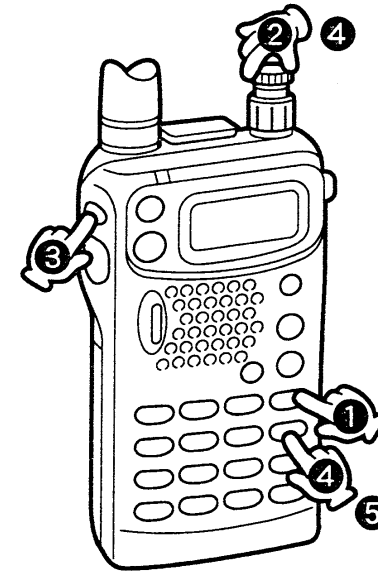
あらかじめプログラムスキャン用プログラムチャンネル(1A/1B~3A/3Bまでの3組)に、スキャンしたい範囲の上限周波数と下限周波数を書き込んでおきます。

プログラムスキャン中でも、あらかじめ書き込んでいるプログラムチャンネルの中から、スキャン範囲を自由に変更できるので、たいへん便利です。

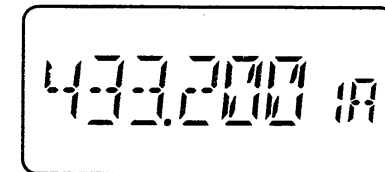
例：“433.20~435.60MHz”のスキャン範囲を  
“1A/1B”に書き込む場合

- ① **VFO** を押し、VFOモードにします。
- ② 周波数を“433.20MHz”にします。
- ③ **FUNC** を押しながら④と⑤を操作します。
- ④ **MR** (MW) を押したあと**DIAL** を回し、メモリーチャンネルを“1A”にします。
- ⑤ “ピッピピ”と鳴るまで**MR** (MW) を押します。
- ⑥ 上記②~⑤を繰り返して操作し、“435.60MHz”を“1B”に書き込みます。

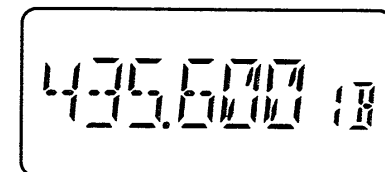
- ※IC-T22に書き込む場合も、同様の操作で設定できます。
- ※「2A/2B」または「3A/3B」のメモリーチャンネルに書き込む場合も、同様の操作で設定できます。
- ※「1A」と「1B」に記憶させる上限・下限周波数は、どちらでもかまいません。
- ※「1A」と「1B」に同じ周波数を記憶させると、スタート操作はできますが、周波数は変化しません。



“1A”に“433.20MHz”を書き込むときの表示



“1B”に“435.60MHz”を書き込むときの表示



## 5 スキャンのしかた

### 5-3 ■プログラムスキャンの操作(つづき)

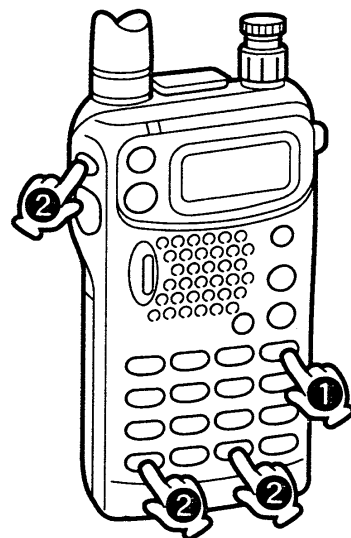
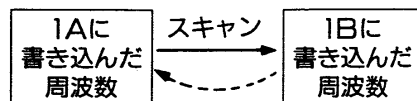
#### 2. スタート/ストップ操作

##### ■スタート操作

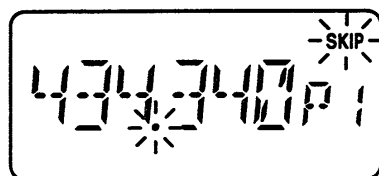
- ① **VFO** を押し、VFOモードにします。
- ② **FUNC** を押しながら **△** (**△ SCAN**) または **▽** (**▽ SCAN**) を押します。

##### ■ストップ操作

- **△** / **▽** または **VFO** (**CLR**) を押します。



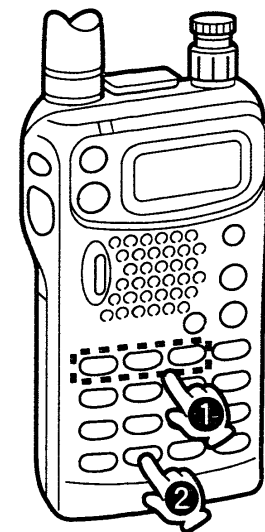
プログラムスキャン中の表示



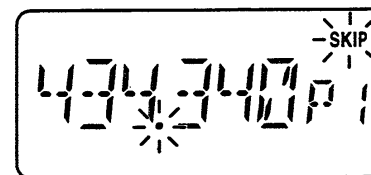
#### 3. スキャン範囲を選ぶ

あらかじめプログラムスキャンを“スタート”させ、スキャン中にスキャン範囲(プログラムチャンネル)を変更します。

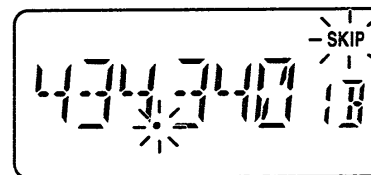
- ① プログラムスキャン中に、変更したいスキャン範囲を書き込んでいるプログラムチャンネルの番号 **1** または **2**、**3** を押します。
- ② プログラムスキャン中に **0** を押し、フルスキャンになります。もう一度①の操作をすると、プログラムスキャンに戻ります。



プログラムチャンネル“1”を選んだときの表示



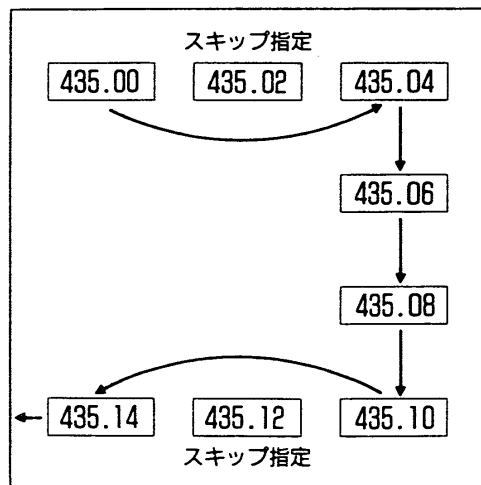
**0** を押してフルスキャンにしたときの表示



## ■プログラムスキップ スキンの操作

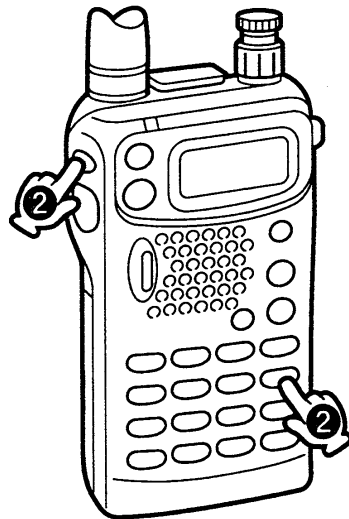
フルスキャンまたはプログラムスキンの動作中に、スキンの対象からはずしたい周波数をスキップ周波数として登録すると、プログラムスキンの操作時には、その周波数を飛び越えてスキンのします。

このスキンは、セットモードの「プログラムスキンの設定(☞P57、59⑤項)」で“OFF”にすることもできます。工場出荷時は“ON”にしています。

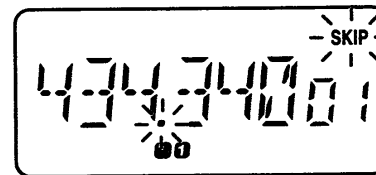


### 1. スキップ周波数を登録する

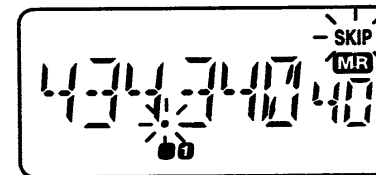
- ①VFOモードでフルスキャン、またはプログラムスキンをスタートします。
- ②信号を受信してスキンのが一時停止したときに、その周波数をスキンの対象からはずしたいときは、(FUNC)を押しながら“ピッピピ”と鳴るまで(MR)(MW)を押します。
  - 末尾チャンネル(40CH(メモリー拡張時は80CH))から順番にメモリーします。
  - 登録したスキップ周波数を取り消すときは、スキンのの指定を解除(☞P27)、またはメモリーチャンネルを消去(☞P25)してください。また、セットモードの「プログラムスキンの設定」を“OFF”にしたときは、登録したスキップ周波数も含めてスキンのします。



目的外信号や雑音で一時停止する



末尾CHから周波数とSKIPが書き込まれる



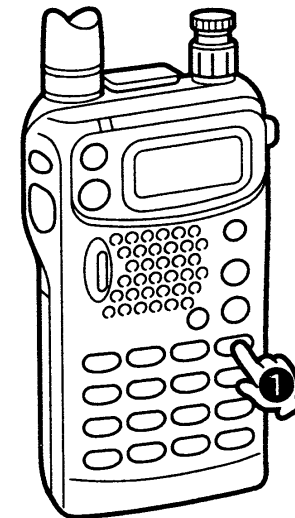
### 2. スタート/ストップ操作

#### ■スタート操作

- ①(VFO)を押し、VFOモードにします。
- ②フルスキャン(☞P29)、またはプログラムスキンの(☞前ページ)をスタートします。

#### ■ストップ操作

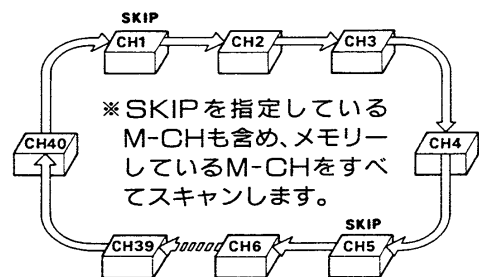
- (Δ) / (▽) または (VFO) (CLR)を押します。



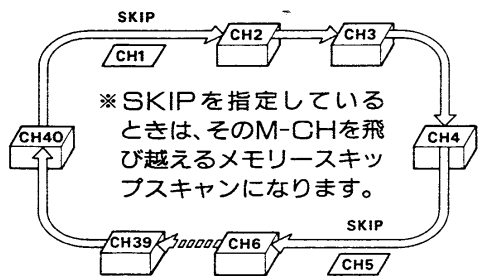
## 5 スキャンのしかた

### 5-4 メモリースキャン/メモリースキップスキャンのしかた

メモリースキャンは、周波数が記憶されているチャンネルを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。



メモリースキップスキャンは、スキャンの対象からはずしたいメモリーチャンネルをスキップ登録(☞P27)し、メモリースキャンをしたときに、そのチャンネルを飛び越えるスキャンです。



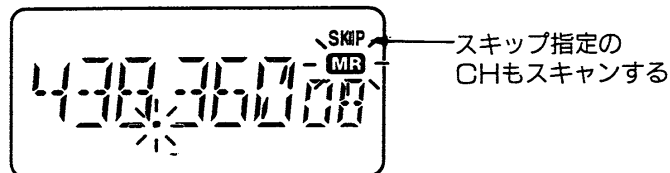
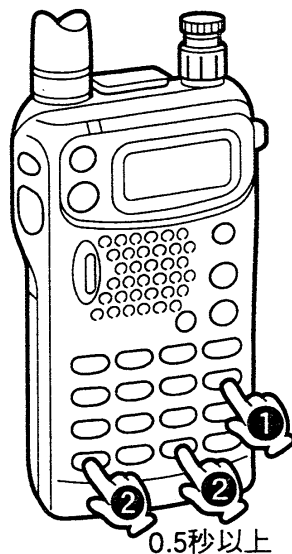
#### A メモリースキャンの操作

##### ■スタート操作

- ① (MR) を押し、メモリーモードにします。
- ② (Δ) (Δ SCAN) または (▽) (▽ SCAN) を0.5秒以上押します。

##### ■ストップ操作

- (Δ) / (▽) または (VFO) (CLR) を押します。



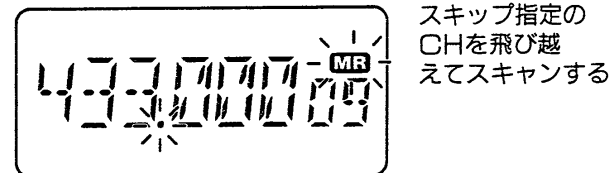
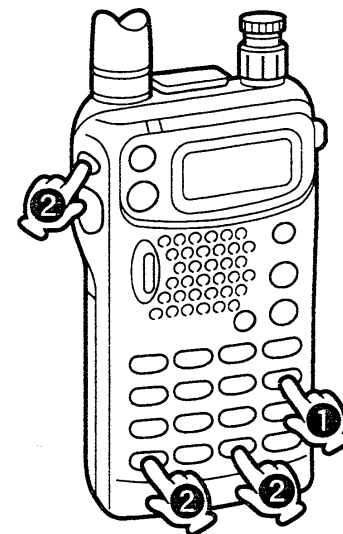
#### B メモリースキップスキャンの操作

##### ■スタート操作

- ① (MR) を押し、メモリーモードにします。
- ② (FUND) を押しながら (Δ) (Δ SCAN) または (▽) (▽ SCAN) を押します。

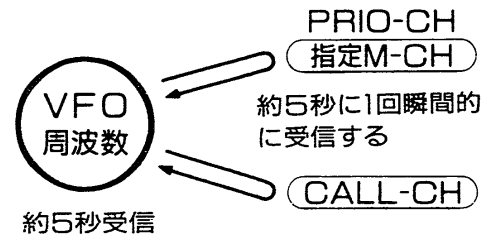
##### ■ストップ操作

- (Δ) / (▽) または (VFO) (CLR) を押します。



## 5-5 プライオリティスキヤンのしかた

VFO周波数を受信しながら、指定のメモリーチャンネルまたはコールチャンネルに信号が入っていないかを監視するスキヤンです。



● VFO周波数を約5秒間受信し、メモリーチャンネルまたはコールチャンネルを瞬間的に受信する動作を繰り返します。

※ VFO周波数とは、VFOモードで設定している周波数のことをいいます。

### 1. スタート操作

- ① メモリーモードまたはコールチャンネルモードにします。
- ② 監視したいメモリーチャンネル、またはコールチャンネルを選びます。  
※ プログラムチャンネルを選ぶときは、**(FUNC)**を押しながら**(DIAL)**を回します。
- ③ VFOモードにし、VFO周波数を設定します。
- ④ **(FUNC)**を押しながら**(7)**(PRIO)を押します。



※ VFOモードでプライオリティスキヤンをスタートさせたときは、以前に運用していたメモリーチャンネルとVFO周波数間でスキヤンします。

### 2. スキヤン中の動作と解除のしかた

#### ■ 信号を受信すると

監視中のチャンネルで信号を受信するとPRIO表示が点滅し、スキヤンが一時停止して約10秒間受信したあと、スキヤンを再スタートします。  
なお、再スタートするまでの条件は、セットモード(☞P57、59⑥項)で変更できます。

#### ■ 送信すると

監視中のチャンネルで送信すると、VFO周波数に戻り、その周波数で送信されます。  
監視中の周波数で送信したいときは、いったんプライオリティスキヤンを解除し、メモリーモードまたはコールチャンネルモードに移ってから送信してください。

#### ■ プライオリティスキヤンの解除

VFO周波数を受信しているときは、**(VFO)**(CLR)を押してください。  
監視中のチャンネルを受信しているときは、**(VFO)**(CLR)を押すとVFO周波数に戻るため、もう一度**(VFO)**を押してください。

# 6

## レピータの運用について (IC-T32のみ)

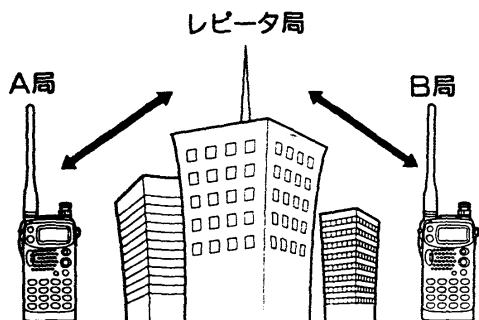
### 6-1 オートレピータ機能での交信

IC-T32は、オートレピータ機能を採用しているため、周波数を439.00MHz以上に合わせるだけで、レピータ運用モードになります。

144MHz帯仕様のIC-T22は、レピータが設置されていないので、この機能はありません。

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局のことをいいます。

オートレピータ機能は、セットモード(☞P57、59㉟項)で無効にすることもできます。



430MHz帯では、各地区にレピータが設置されているので、JARL NEWSや各専門誌などでお調べください。

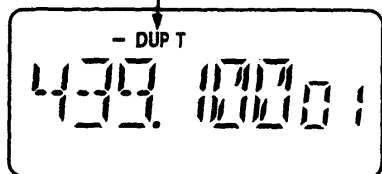
#### 1. レピータ周波数を設定する

439.00~440.00MHzに合わせます。

- “-DUP”“T”が表示され、88.5Hzのトーン周波数と-5MHzのオフセット周波数が自動的にセットされます。



自動的に点灯する



※トーン周波数(☞P55)とオフセット周波数(☞P37)を変更したときは、オートレピータ機能の各周波数も変化します。

※オフセット周波数：送信と受信の周波数の差をいう。

#### 2. レピータをアクセスする

(PTT)を約2秒間押します。

- 送信/受信LEDが赤色に点灯します。
- 周波数が“-5MHz”シフトします。

赤色に点灯する

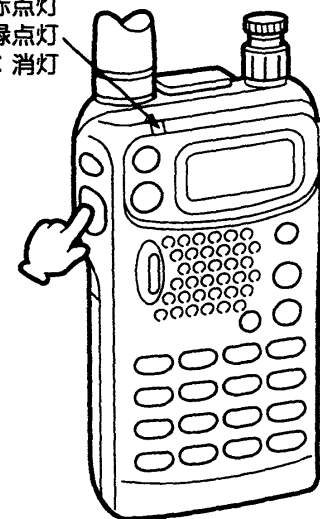


※発射した電波が届いていれば、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。

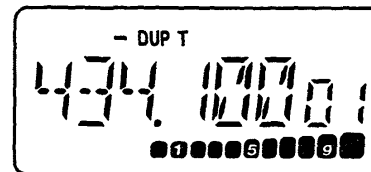
#### 3. 交信する

(PTT)を押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。

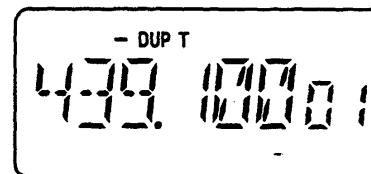
送信：赤点灯  
受信：緑点灯  
無信号：消灯



送信状態



受信状態

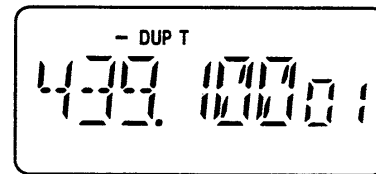
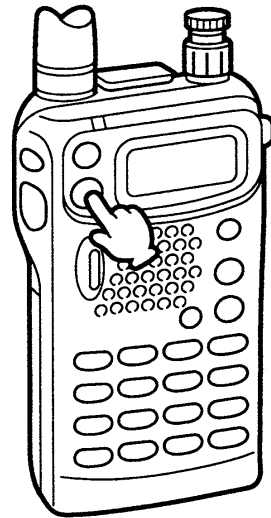


## 6-2 送信モニターチェックについて

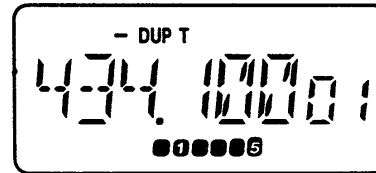
レピータの運用中に、レピータを中継しなくても交信できないかをチェックできます。

(MONI)を押してみても、交信相手の信号が受信できれば、レピータで中継しなくても交信できるようになります。受信できる場合は、439.00MHz以下の周波数に移って交信しましょう。

- オフセット周波数分、周波数表示がシフトします。アマチュアバンドを逸脱するようなオフセット周波数になっているときは、周波数はシフトしません。



(MONI)



“-5MHz”シフトした周波数を受信する

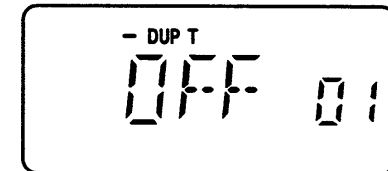
## ■送信時のオフバンド表示について

オフセット周波数を変更(⇨P37)したときは、オートレピータ機能のオフセット周波数も変化するのでご注意ください。

送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、送信出力は停止して周波数表示部に“OFF”を表示し、オフバンドしていることを知らせます。

オフバンド表示になったときは、もう一度オフセット周波数を設定しなおしてください。

オフバンド表示



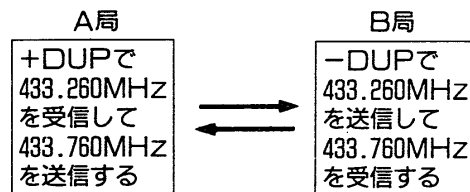
## 7-1 デュプレックス運用のしかた

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)と違って、レピータ運用(☞P35)と同じように同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして、交信することをいいます。

ただし、レピータ運用と違って、レピータは中継しません。送信と受信の周波数ずれ幅をオフセット周波数といいます。

## ●運用例

(両局ともオフセット周波数は500kHz)



## ■オフバンド表示について

送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、周波数表示部に“OFF”を表示(☞P36)します。

## 1. オフセット周波数の設定

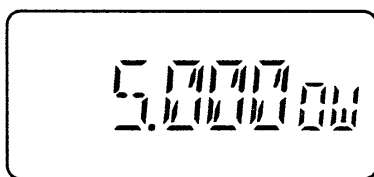
工場出荷時IC-T22は“.000”、IC-T32は“5.000”を設定していますが、セットモードで簡単に変更できます。

- ① VFOモードで、**(FUNC)**を押しながら**(8)**(SET)を押し、セットモードにします。
- ② **(△)**または**(▽)**を押し、「オフセット周波数の設定(☞P58)」項目を呼び出します。
- ③ **(DIAL)**を回し、オフセット周波数を選びます。
- **(FUNC)**を押しながら**(DIAL)**を回すと、100kHzステップで変化します。
- ④ **(VFO)**(CLR)を押し、周波数表示に戻します。

IC-T22のオフ  
セット周波数



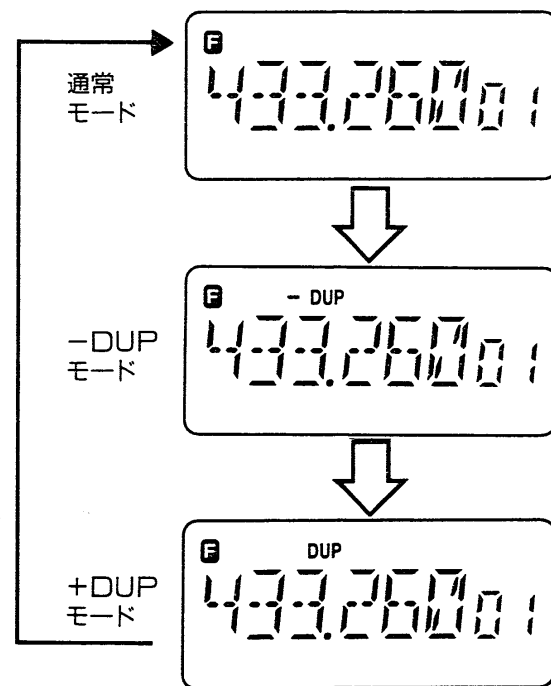
IC-T32のオフ  
セット周波数



※オフセット周波数を変更したときは、オートレピータ機能(☞P35)のオフセット周波数も変化するのでご注意ください。

## 2. デュプレックスモードの設定

- ⑤ **(FUNC)**を押しながら**(4)**(DUP)を押すごとに、通常モード→-DUPモード→+DUPモードと切り替わります。
- 送信する前に**(MONI)**を押し、送信周波数をモニターしてください。送信時とモニター時はオフセット分、周波数が変化します。



※IC-T32は、オートレピータ機能が優先されるので、レピータ周波数以外で**(DIAL)**を回すと、デュプレックスは解除されます。



## 7-2 DTMF機能の使いかた

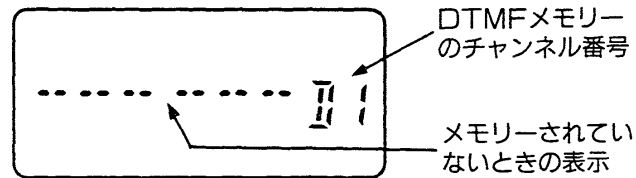
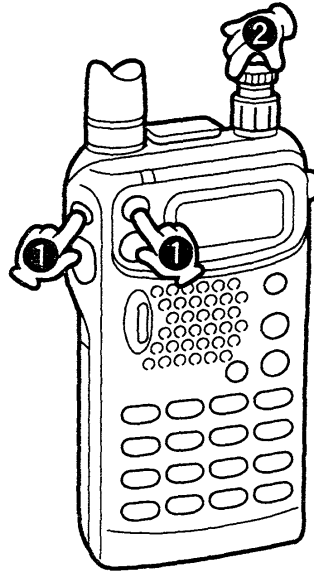
### A DTMFメモリーのしかた

DTMF(Dual Tone Multi Frequency)信号を送出する機能を備えています。

DTMF信号は、最大30ケタのコードを、5チャンネルのDTMFメモリーに記憶できます。

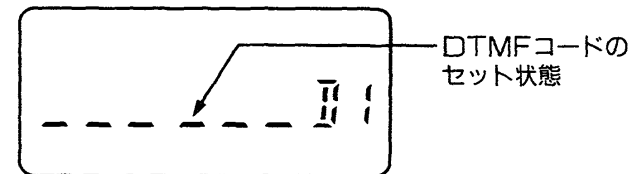
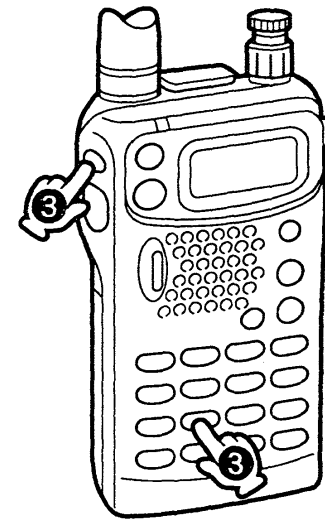
### 1. DTMFメモリーを呼び出す

- ① **FUNC**を押しながら**H/L**(DTMF)を押し、DTMFメモリーを呼び出します。
- ② **DIAL**を回し、DTMFメモリーのチャンネルを選びます。



### 2. DTMFコードのセット状態にする

- ③ **FUNC**を押しながら**8**(SET)を押します。

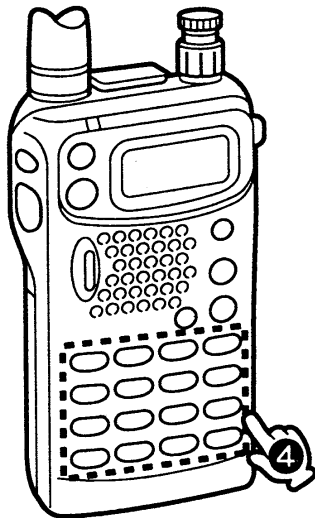


## 7 各種機能の使いかた

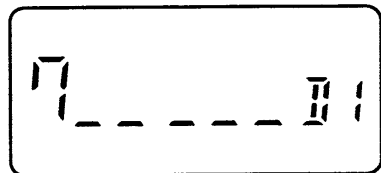
### 7-2 ■DTMFメモリーのしかた(つづき)

#### 3. コードを入力する

- ④キーボードの(1)～(0)または(VFO)(A)～(CALL)(D)、(▽)(E)、(△)(F)を押してコードを入力します。
- 6ケタ以上入力したときは、6ケタずつ順送り表示します。
  - 設定できるコードは、30ケタまでです。30ケタ入力したときは、自動的にコードを書き込みます。

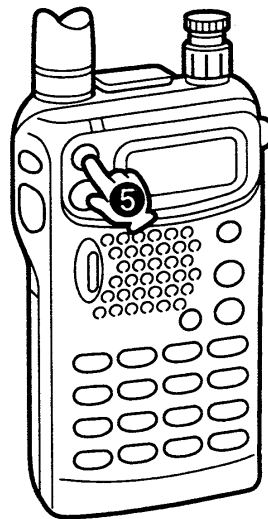


6ケタずつ順送り表示される

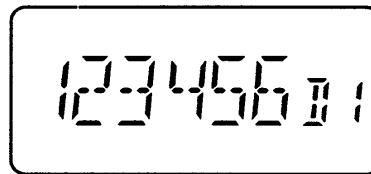


#### 4. コードを書き込む

- ⑤30ケタ未満のコードを書き込むときは、(H/L) (DTMF)を押してください。
- 書き込み後のコードを修正するときは③の操作からやりなおしてください。

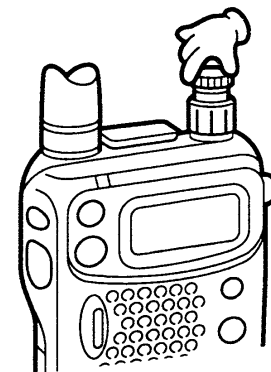


書き込み後は1ケタ目から表示する



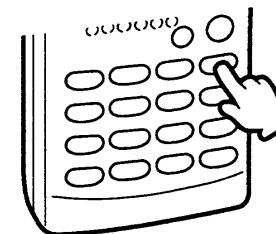
#### ■次のチャンネルに移るには

(DIAL)を回します。



#### ■周波数表示に戻すには

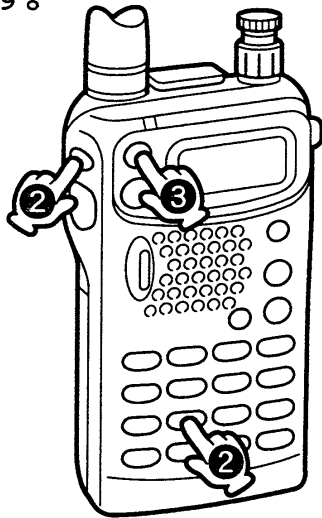
(VFO)(CLR)を押します。



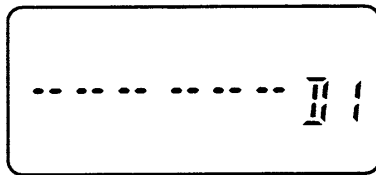
### B DTMFコードの消しかた

要らなくなったDTMFコードを消去できます。

- ① 消去したいDTMFメモリーを呼び出し (FUNC) + (H/L) (DTMF) → (DIAL) します。
- ② (FUNC) を押しながら (8) (SET) を押し、DTMFのセット状態にします。
- ③ (H/L) (DTMF) を押すと、初期状態になります。



DTMFメモリーされていないときの表示に戻る

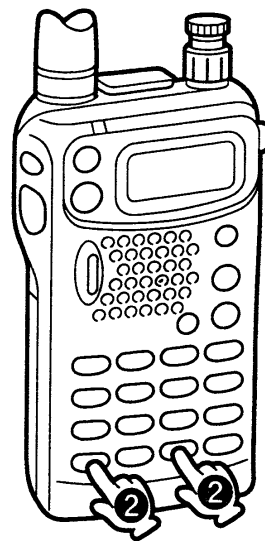


### C DTMFメモリーの確認とモニター

#### ■ DTMFコードを表示で確認する

DTMFメモリーに書き込んだコード内容を、シフト表示して確認できます。

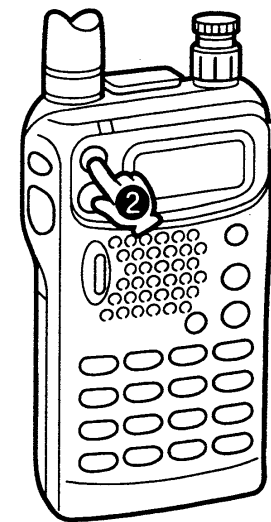
- ① モニターしたいDTMFメモリーを呼び出し (FUNC) + (H/L) (DTMF) → (DIAL) します。
- ② (▽) または (△) を押すと、そのコードの全ケタをシフト表示します。



#### ■ DTMFコードをピポパ音で確認する

DTMFメモリーに書き込んだコード内容を、ピポパ音でモニターできるから、トーンダイヤラーとしても利用できます。

- ① モニターしたいDTMFメモリーを呼び出し (FUNC) + (H/L) (DTMF) → (DIAL) します。
  - ② (H/L) (DTMF) を押すと、ピポパ音が出ます。
- モニター後、周波数表示に戻ります。



## 7 各種機能の使いかた

### 7-2 DTMF機能の使いかた(つづき)

#### ■DTMFコードの送出方法

DTMFコードを送出するには、次の2とおりがあります。

##### ①DTMFメモリーからの送出方法

いったんDTMFメモリーに登録した内容を、そのまま送出する方法です。

##### ②キーボードからの送出方法

キーボードから直接DTMFコードを送出する方法です。

工場出荷時のDTMFコードの送出スピードは、約100ms間隔に設定していますが、イニシャルセットモード(→P60、63⑨項)で変更できます。

#### ■DTMFメモリーからの送出方法

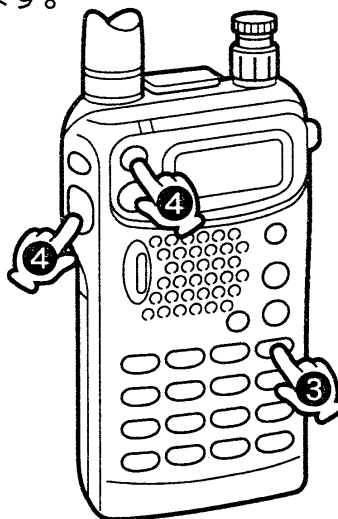
①あらかじめ送信周波数を設定します。

②送出したいDTMFメモリーを呼び出し(FUNC) + (H/L) (DTMF) → (DIAL) します。

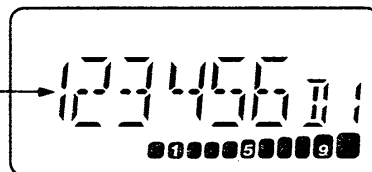
③ (VFO) (CLR) を押し、周波数表示に戻します。

④ (PTT) を押しながら (H/L) (DTMF) を押し、送信します。

●ディスプレイに送出中のDTMFコードが表示されます。



送出中のDTMFコードを8ケタずつ表示する

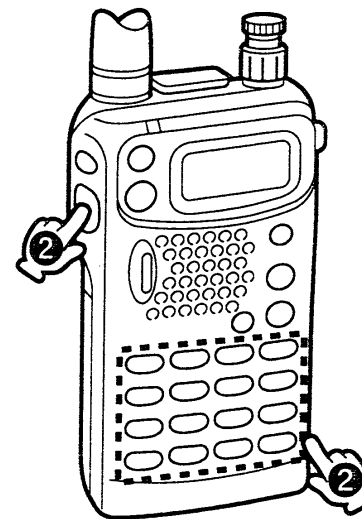


#### ■キーボードからの送出方法

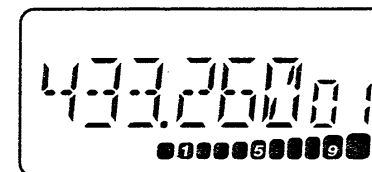
①あらかじめ送信周波数を設定します。

② (PTT) を押しながらキーボードを順次押します。

●DTMFコードは、(1)～(0)の数字以外に (VFO) (A)～(CALL) (D)、(▽) (E)、(△) (F) も送出できます。



DTMFコードは表示しません



### 7-3 ページャー/コードスケルチ機能の使いかた

#### ● ページャー機能とは

特定の相手局からの呼び出しを待ち受けたり、呼び出すときにたいへん便利な機能です。

あらかじめ、交信相手と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局またはグループだけを待ち受けたり、呼び出したりできます。また、呼び出されたときは、ブープ音で知らせるとともに、呼び出してきた相手局のコードを表示するので、確実な待ち受け受信ができます。

#### ● コードスケルチ機能とは

特定の相手局と交信するときに便利な機能です。

従来のトーンスケルチ(☞P55)と同様に、自局がセットしたコードと同じコードを受信したときだけ、スケルチが開いて通話内容が聞こえるので、その局とだけ交信できます。また、トーンスケルチ機能との併用もできます。

#### ● コードについて

ページャーおよびコードスケルチ機能を運用するときは、自局と相手局(グループも含め)のコードを、あらかじめ打ち合わせて決めておきます。

コードは3ケタの数字を組み合わせて作ります。

#### ▲ コードメモリーへの書き込みかた

あらかじめ決めておいた個別コードやグループコードを、書き込んでおくチャンネルをコードメモリーといいます。

メモリー番号	用途	待ち受け動作	コードの書き替え
C0	自局の個別コード	常時待ち受け応答	可 能
C1 ↓ C5	相手局の個別コード または グループコード	待ち受け応答と 待ち受け拒否を 選択(☞P44)可能	
CP	受信した相手局のコード	動作しない	不 可

#### コードメモリーの補足説明

##### ①メモリー番号：C0

自局の個別コードを書き込むコードメモリーです。

ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、ページャー送信時は相手局コードに続いて送じます。

##### ②メモリー番号：C1～C5

相手局の個別コードまたはグループコードを書き込むメモリーです。

ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、待ち受け動作を「応答」または「拒否」に設定できます。待ち受け拒否を設定しているときは、書き込んでいるコードと同じコードを受信しても応答しません。

##### ③メモリー番号：CP

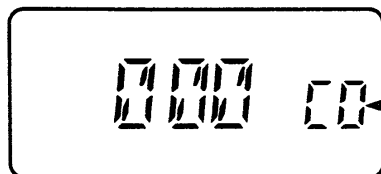
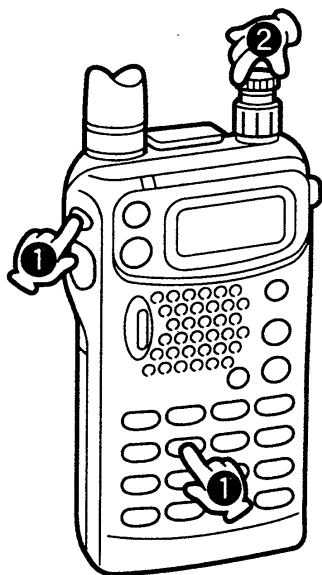
ページャー機能で呼び出しを受けたときに、相手局の個別コードが自動的に書き込まれるメモリーです。

## 7 各種機能の使いかた

### 7-3 Aコードメモリーへの書き込みかた(つづき)

#### 1. コードメモリーを呼び出す

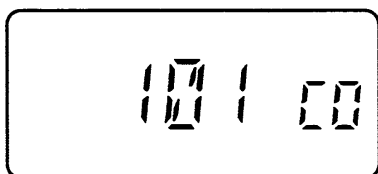
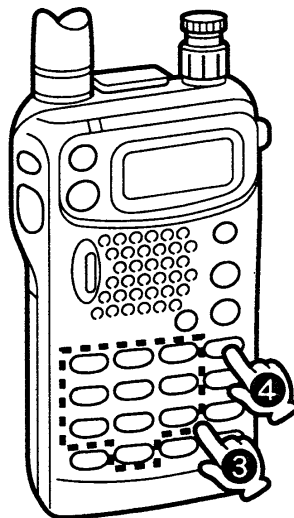
- ① **FUNC** を押しながらか **5** (**CODE**) を押します。
- ② **DIAL** を回し、コードメモリーのチャンネルを選びます。



コードメモリーの  
チャンネル番号

#### 2. コードを入力する

- ③ 数字キー (**1** ~ **0**) を押し、3ケタのコードを入力します。
- ④ まちがえたときは **VFO** (**CLR**) を押し、①から再入力してください。  
すでに3ケタ入力しているときは、そのまま再入力してください。



コード“101”を  
入力したときの  
表示

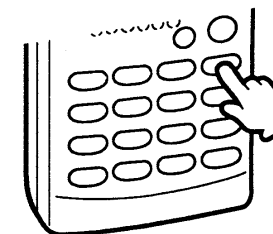
#### ■ 次のチャンネルに移るには

**DIAL** を回します。



#### ■ 周波数表示に戻すには

**VFO** (**CLR**) を押します。



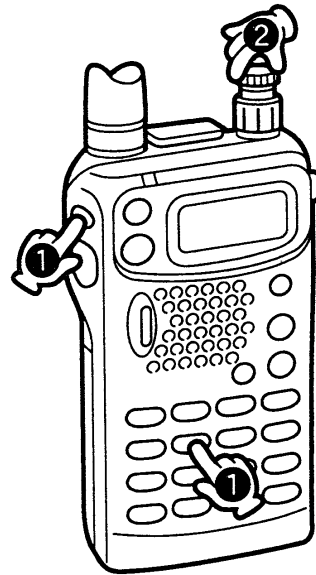
### ③ 待ち受け動作の選択

コードメモリーの“C1～C5”に書き込んだ相手局のコード、またはグループコードと同じコードを受信しても、待ち受け動作を「拒否」または「応答」に設定できます。

拒否：SKIP表示が点灯する  
 応答：SKIP表示が消灯する

### 1. コードメモリーを呼び出す

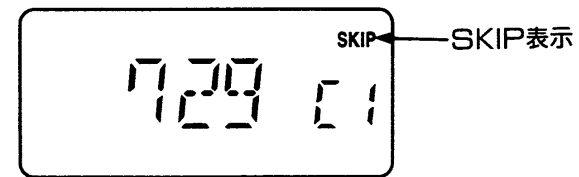
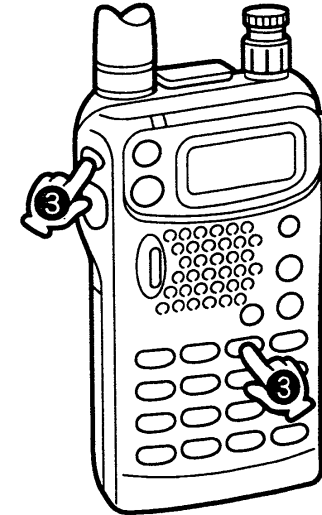
- ① **(FUNC)** を押しながら **(5)** (CODE) を押します。
- ② **(DIAL)** を回し、コードメモリーのチャンネルを選びます。



コードメモリー“C1”を呼び出したときの表示

### 2. 待ち受け動作の設定

- ③ **(FUNC)** を押しながら **(3)** (SKIP) を押します。
- **(3)** を押すごとに、SKIP表示が“点灯”と“消灯”を繰り返します。



- 周波数表示に戻すには **(VFO)** (CLR) を押します。

## 7 各種機能の使いかた

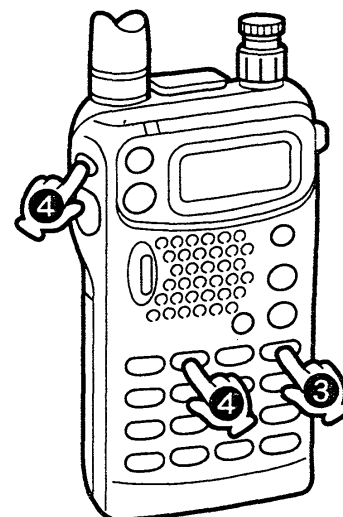
### 7-3 ページャー/コードスケルチ機能の使いかた(つづき)

#### ■ ページャー/コードスケルチ機能で送信するには

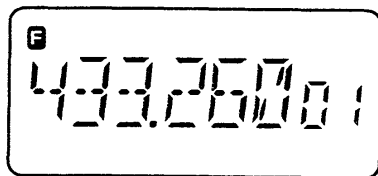
例：自局コード“CO”に“101”、  
相手局コード“CS”に“222”  
が書き込まれている場合

#### 1. ページャー/コードスケルチ機能の運用モードにする

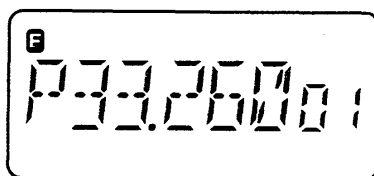
- ① あらかじめ交信相手と運用周波数を決めておきます。
- ② 相手局コード“222”が書き込まれたコードメモリ“C3”を呼び出し(☞P44)ます。
  - 待ち受け動作を受信拒否に設定しているときは、受信応答(☞P44)にします。
- ③ **VFO**(CLR)を押し、周波数表示に戻します。
- ④ **FUNC**を押しながら**2**(PGR/CSQL)を押し、ページャーまたはコードスケルチ運用モードにします。
  - **2**を押すごとに、通常モード→ページャー→コードスケルチと切り替わります。



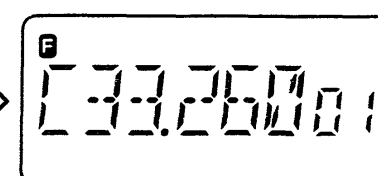
通常モード



ページャーモード



コードスケルチモード





## 2. 相手局を呼び出す

⑤ (PTT) を押すと、下記のようなDTMF信号が送出され、ピポパ音が出ます。

$$\begin{array}{ccc} 222 & * & 101 \\ (1) & (2) & (3) \end{array}$$

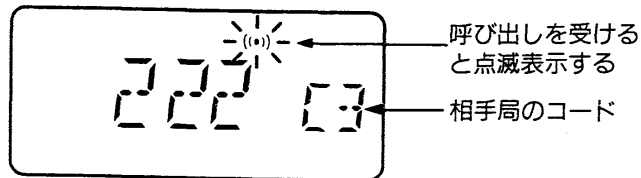
- (1) 相手局またはグループのコード
- (2) セパレーターを表す記号で“E”を送出する
- (3) 自局コード

● コードスケルチ運用時は、相手局コードのみ送出され、(2)と(3)は送出しません。

### ■ 相手局から応答があると

相手局コードを受信表示します。

● コードスケルチ運用時は、相手局からの応答や呼び出しを受けても、相手局のコードは表示しません。

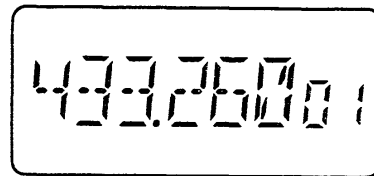
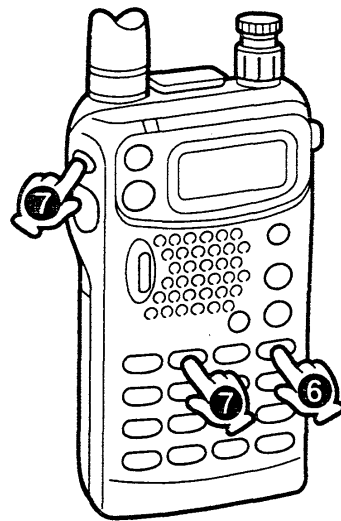


## 3. 通常の運用モードに戻す

ページャー運用モードのまま発信すると、(PTT) を押すごとにDTMF信号を送出するので、通常の運用モードにします。このとき、相手局も同時に通常モードにします。なお、コードスケルチ運用モードはそのまま発信します。

⑥ (VFO) (CLR) を押し、周波数表示に戻します。

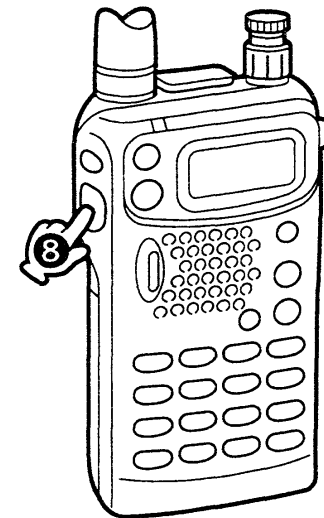
⑦ (FUNC) を押しながら (2) (PGR/CSQL) を数回押し、通常モードに戻します。



通常モードに戻す

## 4. 交信する

⑧ 通常の運用モードと同様に交信します。



## 7 各種機能の使いかた

### 7-3 ページャー/コードスケルチ機能の使いかた(つづき)

#### ■ ページャー/コードスケルチ機能で待ち受けるには

例：自局コード“C0”に“101”、グループコード“C2”に“888”、相手局コード“C3”に“222”が書き込まれている場合

#### 1. 運用モードを選ぶ

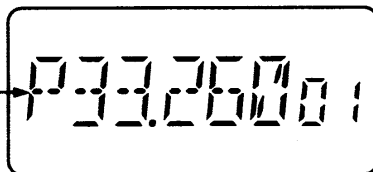
あらかじめ交信相手と運用周波数を決め、**(FUNC)**を押しながら**(2)**(PGR/CSQL)を押し、ページャーまたはコードスケルチ運用モードにします。

**(2)**を押すごとに、通常モード⇒ページャー⇒コードスケルチと切り替わります。

待ち受け動作を受信拒否に設定しているときは、受信応答(☞P44)にします。



ページャーモードにする

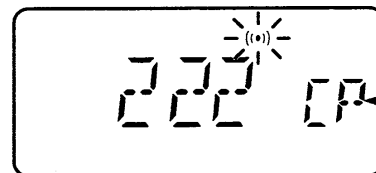


#### 2. 呼び出しを受けると

呼び出し音“ピロピロピロ”が3回鳴り、ディスプレイに受信した相手局のコードと、そのコードを書き込んでいるメモリー番号が表示されます。

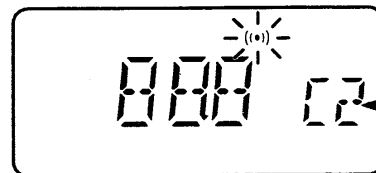
●コードスケルチ運用時は、相手局から呼び出しを受けても、相手局のコードは表示しません。また、呼び出し音も鳴りません。

#### ●自局コードで呼び出されたとき



メモリー番号“CP”とコードを表示

#### ●グループコードで呼び出されたとき



“C1～C5”のコードメモリーに書き込まれたコードとメモリー番号を表示

### 3. 応答する

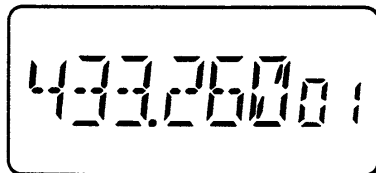
(PTT) を押し、応答します。

DTMF信号が送出され、周波数表示に戻ります。



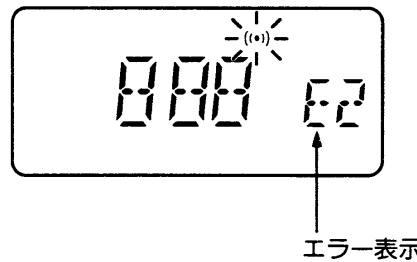
ページャー運用モード時は、(FUNC) を押しながら (2) (PGR/CSQL) を数回押し、通常モードに戻します。

このとき、相手局も同時に通常モードにして交信をします。



### ■コードを完全に受信できないときは

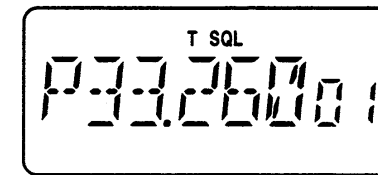
相手局の個別コードが完全に受信できなかったときは、エラー表示が点灯して前回受信したコードを表示します。



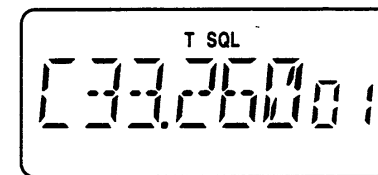
### ■トーンスケルチとの併用

別売品のトーンスケルチユニットを装着することで、トーンスケルチ機能(☞P55)と併用することもできます。

#### ●ページャーとトーンスケルチの併用



#### ●コードスケルチとトーンスケルチの併用



## 7 各種機能の使いかた

### 7-4 メッセージ伝送の使いかた

#### ■メッセージメモリーのしかた

IC-T22/IC-T32は、通常の音声による交信のほかに、メッセージを送受信できます。

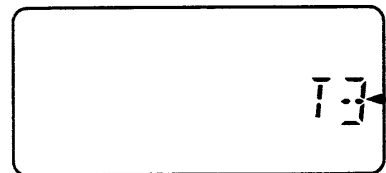
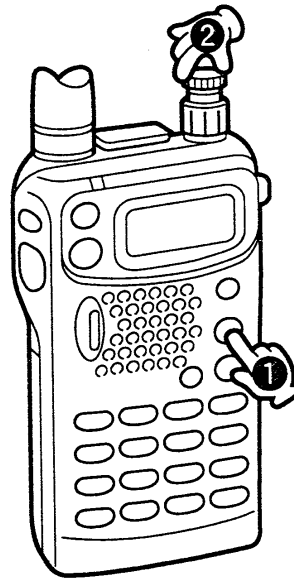
メッセージは、最大6ケタのアルファベットと数字と記号を、6チャンネルの送信用メッセージメモリーに記憶できます。

工場出荷時は、“T0”に“ICOM”を書き込んでいますが、コールサインや名前を書き込んでおけば、電源を入れたときに、その内容が表示(オープニングテキスト)されます。

例：T3チャンネルにJA3YUA  
を書き込む場合

#### 1. 送信用メッセージメモリーを呼び出す

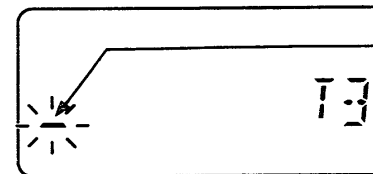
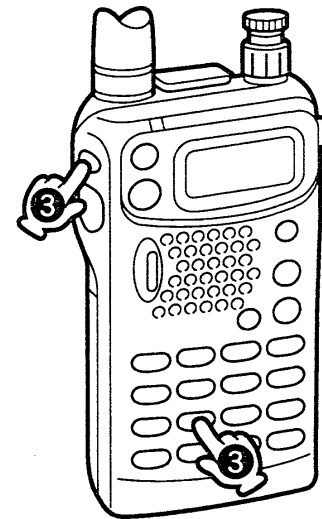
- ① **MSG** を2回押し、送信用メッセージメモリーを呼び出します。
- ② **DIAL** を回し、メッセージメモリーのチャンネルを選びます。



送信用メッセージメモリーのチャンネル番号

#### 2. メッセージの書き込み状態にする

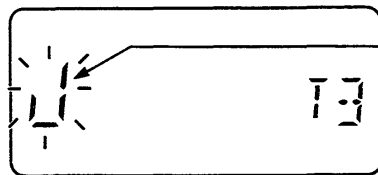
- ③ **FUNC** を押しながら **8** (SET) を押します。
- 書き込み表示部の1ケタ目(文字または“—”)が点滅します。



メッセージの書き込み状態を表示

### 3. 文字を選ぶ

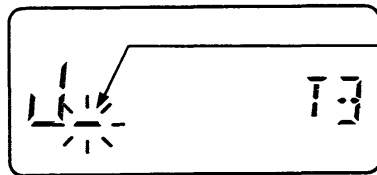
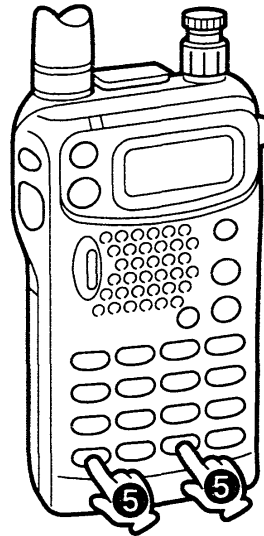
- ④ (DIAL)を回し、1ケタ目の文字を選びます。
- 数字 ↔ 文字 ↔ 記号の順(キー入力対応表参照：P52)に表示されます。



1ケタ目の文字を選ぶ

### 4. 指定ケタを選んで文字を選ぶ

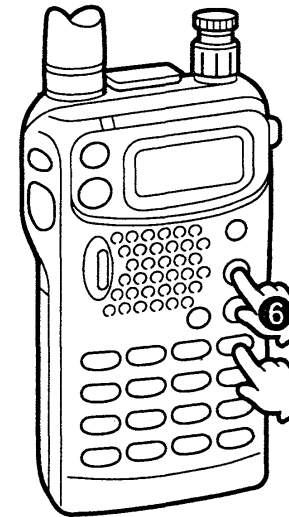
- ⑤ 次のケタを選ぶときは(△)、前のケタを選ぶときは(▽)を押し、④の操作を繰り返してください。



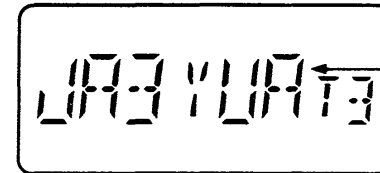
点滅ケタが移動する

### 5. メッセージを書き込む

- ⑥ 文字を確認し、(MSG)(または(VFO))を押して書き込みます。
- 書き込み後のメッセージを修正するときは、③の操作からやりなおしてください。
  - 周波数表示に戻すには、(VFO)(CLR)を押します。



周波数表示に戻すときに押す



書き込み後の表示



●キー入力対応表

入力文字	キー操作	入力文字	キー操作	入力文字	キー操作
0	(0)	G	(4)→(A)	W	(9)→(A)
1	(1)	H	(4)→(B)	X	(9)→(B)
2	(2)	I	(4)→(C)	Y	(9)→(C)
3	(3)	J	(5)→(A)	Z	(1)→(B)
4	(4)	K	(5)→(B)	スペース	(1)→(C)
5	(5)	L	(5)→(C)	(	(0)→(A)
6	(6)	M	(6)→(A)	)	(0)→(B)
7	(7)	N	(6)→(B)	+	(0)→(C)
8	(8)	O	(6)→(C)	-	(1)→(D)
9	(9)	P	(7)→(A)	=	(2)→(D)
A	(2)→(A)	Q	(1)→(A)	*	(3)→(D)
B	(2)→(B)	R	(7)→(B)	/	(4)→(D)
C	(2)→(C)	S	(7)→(C)	△	(5)→(D)
D	(3)→(A)	T	(8)→(A)	μ	(6)→(D)
E	(3)→(B)	U	(8)→(B)	Σ	(7)→(D)
F	(3)→(C)	V	(8)→(C)	:	(8)→(D)

※ (2)→(A) は (2) に続けて (VFO) を押すの意味です。

※ (B) は (MR)、(C) は (LOG・M)、(D) は (CALL) に対応します。

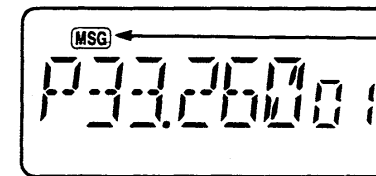
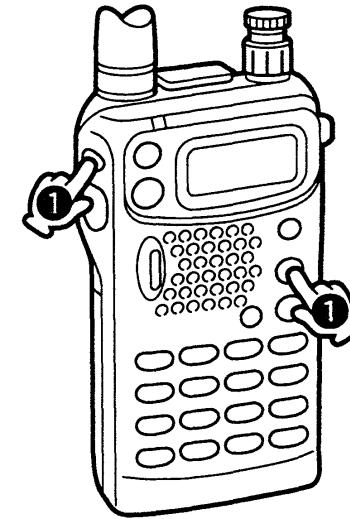
■メッセージを受信するには

受信したメッセージは、“r0”から“r5”まである受信メッセージメモリーに記憶します。

あらかじめ交信相手と運用周波数を決め、(FUNC)を押しながら (2) (PGR/CSQL) を押してページャーまたはコードスケルチ運用モードを設定しておきます。

1. 待ち受け状態にする

- ① (FUNC) を押しながら (MSG) を押します。
  - メッセージ待ち受け状態表示が点灯します。
  - 待ち受け状態を解除するときも同じです。



メッセージ待ち受け状態の表示

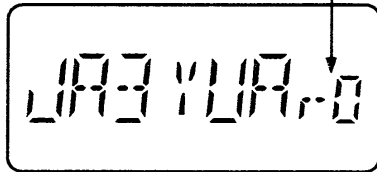
## 7 各種機能の使いかた

### 7-4 受信メッセージを受信するには(つづき)

#### 2. メッセージを受けると

- ② 呼び出し音“ピロピロピロ”が3回鳴り、“r0”にメッセージを表示します。
- コードスケルチ併用時、呼び出し音は鳴りません。
- 6以上のメッセージを受けると、一番古いメッセージ“r5”から消去します。

最新の受信メッセージ用  
メモリーチャンネル



#### 3. 受信メッセージの確認

- ③ (DIAL)を回して確認します。
- 周波数表示のときは、(MSG)を押してから操作してください。
- 最新のメッセージをメモリーの“r0”に表示し、古いメッセージは“r0→r1→r2→…→r5”のように順送りします。



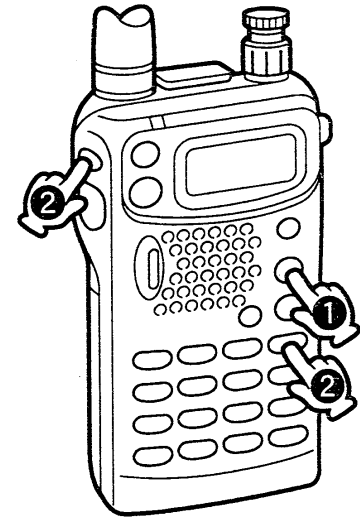
一番古い受信メ  
ッセージ用メモ  
リーチャンネル

- 周波数表示に戻すには (VFO)(CLR)を押します。

#### 受信メッセージの消しかた

受信メッセージを確認したあと、すべてのメッセージを一度に消去できます。

- ① (MSG)を押し、受信メッセージを呼び出します。
- ② (FUNC)を押しながら、“ピッピピー”と鳴るまで(VFO)(M CLR)を押します。



- 周波数表示に戻すには (VFO)(CLR)を押します。



## 7-5 トーンスケルチについて

## A UT-94の取り付けかた

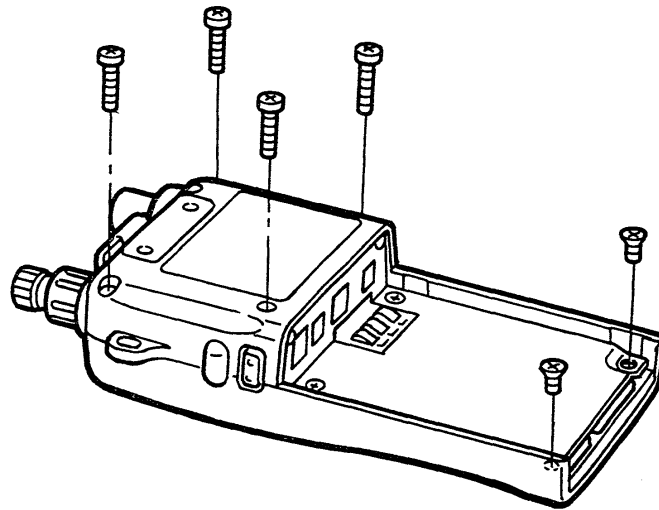
トーンスケルチやポケットビープなどの機能は、別売のトーンスケルチユニット UT-94が必要です。

## ユニット取り付け時のご注意

- ①ユニットを取り付ける前に、電源を切り、バッテリーケースまたは外部電源、アンテナなどははずしてから行ってください。
- ②使用するドライバーは、ネジ山がつぶれないように、ネジ山によく合ったプラスドライバーをご使用ください。
- ③組み立て後は、バッテリーケースがスムーズに脱着できることを確認してください。

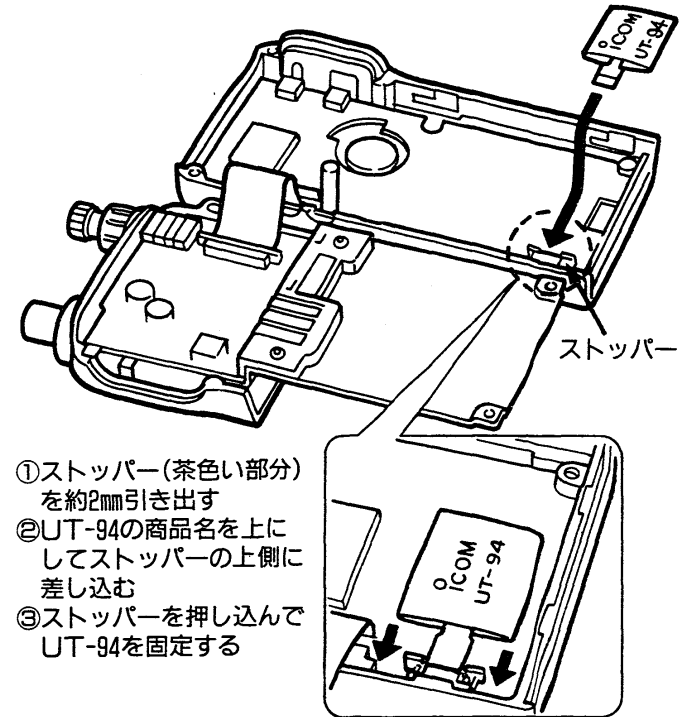
## 1. ケースのネジをはずす

図のように本体のネジを6本はずします。



## 2. UT-94を取り付ける

後面のケースを開いて、図の位置にあるコネクタにUT-94を差し込み、ケースを元どおりに組み立てると完成です。



- ①ストッパー(茶色い部分)を約2mm引き出す
- ②UT-94の商品名を上にしてストッパーの上側に差し込む
- ③ストッパーを押し込んでUT-94を固定する

## 7 各種機能の使いかた

### 7-5 トーンスケルチについて(つづき)

#### ■トーンスケルチの使いかた

- トーンスケルチ機能とは  
コードスケルチ機能と同様に、特定の相手局と交信するとき  
に便利な機能です。

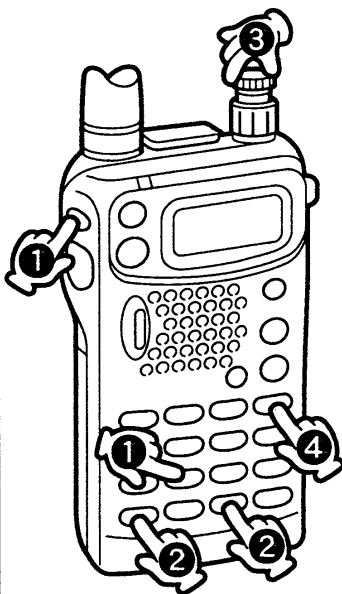
自局が設定したトーン周波数と同じトーン周波数を受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。また、コードスケルチ機能との併用もできます。

- ポケットビープ機能とは  
トーンスケルチ機能での待ち受け受信、呼び出しを受けたらビープ音で知らせてくれる便利な機能です。

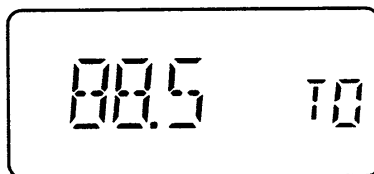
呼び出しを受けると、ビープ音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイの“(●)”を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことはありません。

#### 1. トーン周波数を設定する

- ① VFOモードで、**(FUNC)**を押しながら**(8)**(SET)を押し、セットモードにします。
- ② **(△)**または**(▽)**を押し、「トーン周波数の設定(⇨P58)」項目を呼び出します。
- ③ **(DIAL)**を回し、トーン周波数(右表)を選びます。
- ④ **(VFO)**(CLR)を押し、周波数表示に戻します。



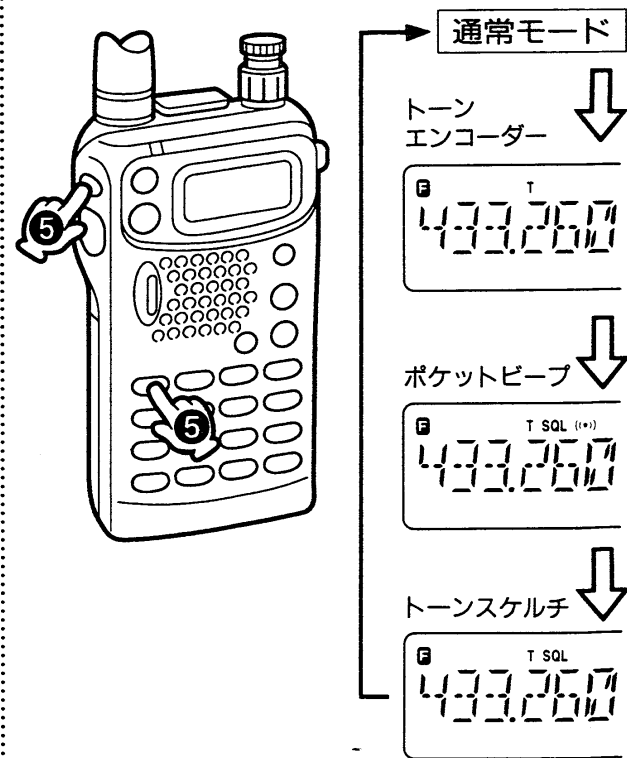
セットモードの「トーン周波数の設定」項目



※トーン周波数を変更したときは、オートレピータ機能(⇨P35)のトーン周波数も変化しますのでご注意ください。

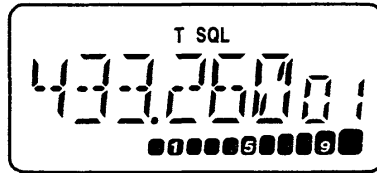
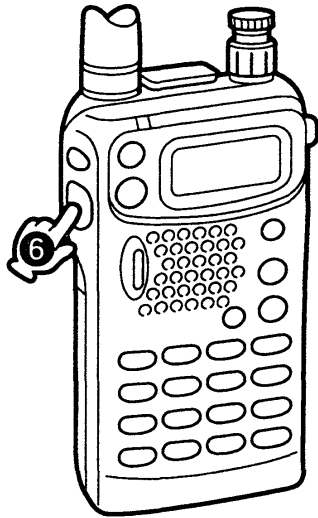
#### 2. 運用モードを設定する

- ⑥ 運用周波数を設定したあと、**(FUNC)**を押しながら**(1)**(T/TSQL)を押し、ポケットビープまたはトーンスケルチ運用モードを選びます。
- **(1)**を押すごとに、通常モード⇨トーンエンコーダー⇨ポケットビープ⇨トーンスケルチ運用モードと切り替わります。



### 3. 交信する

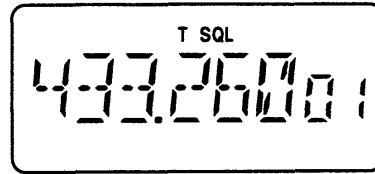
- ⑥ (PTT)を押して相手局を呼び出し、通常の運用モードと同様に交信します。



### 4. 待ち受け受信のときは

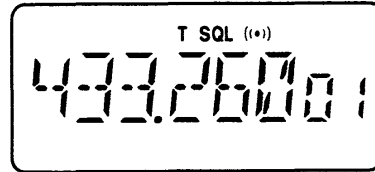
ポケットビープ機能で呼び出しを受けたら、30秒以内に(PTT)を押して通話するか、(VFO)(CLR)を押してポケットビープ機能を解除(“(・)”)が消灯する)し、トーンスケルチ機能にします。また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、“(・)”)は点滅状態を続け、呼び出しの受けたことを知らせます。

- トーンスケルチ機能が“ON”のとき



※スケルチが開き、相手局からの呼び出し音が聞こえます。

- ポケットビープ機能が“ON”のとき



※ビープ音が30秒間鳴り続け、応答しなかったときは“(・)”)が点滅を続けます。

### トーン周波数一覧表

67.0	118.8	183.5
69.3	123.0	186.2
71.9	127.3	189.9
74.4	131.8	192.8
77.0	136.5	196.6
79.7	141.3	199.5
82.5	146.2	203.5
85.4	151.4	206.5
88.5	156.7	210.7
91.5	159.8	218.1
94.8	162.2	225.7
97.4	165.5	229.1
100.0	167.9	233.6
103.5	171.3	241.8
107.2	173.8	250.3
110.9	177.3	254.1
114.8	179.9	(単位: Hz)

#### ■ トーンスキャンについて

トーンスケルチを設定したまま、(FUNC)を押しながら(LOG・M)(T SCAN)を押します。スキャン中、信号受信で一時停止したとき、400msの時間でトーン周波数の一致を検出し、一致していなければ再スタートします。

# 8

## その他の便利な機能

### 8-1 セットモードの設定方法

セットモードでは、初期設定されている運用条件を変更することができます。

お好みに応じてセットしてください。

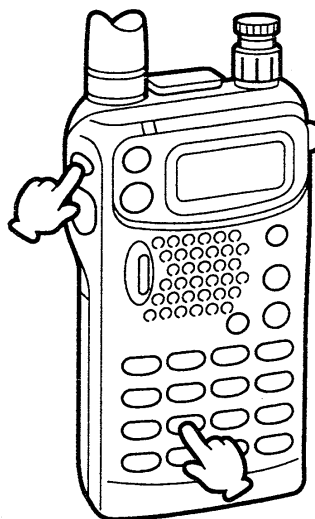
セットできる項目は、下記の7項目です。

- ① トーン周波数の設定
- ② オフセット周波数の設定
- ③ PTTロック機能の設定
- ④ ビープ音の設定
- ⑤ プログラムスキップの設定
- ⑥ スキャン再スタートのタイマー設定
- ⑦ オートレピータ機能の設定

各項目で変更できる運用条件を次のページから記載しているので、このページと併せてご覧ください。

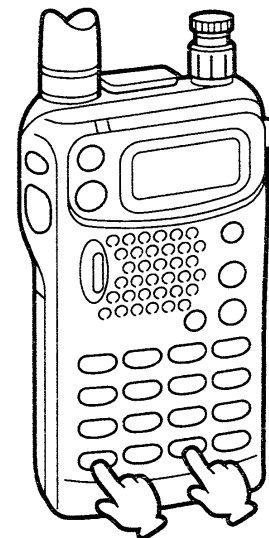
#### 1. セットモードにする

**FUNC** を押しながら  
**8** (SET) を押し  
ます。



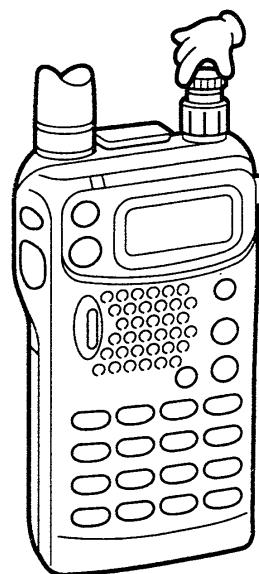
#### 2. セット項目を選ぶ

**△** または **▽** を押し  
ます。



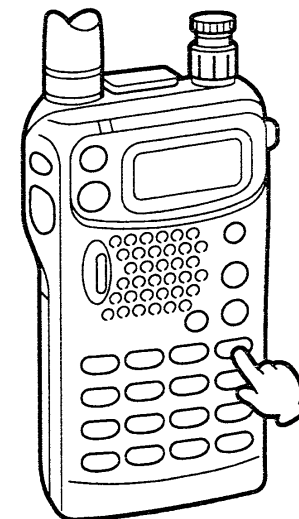
#### 3. 運用条件を選ぶ

**DIAL** を回します。



#### 4. 周波数表示に戻す

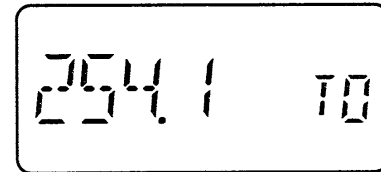
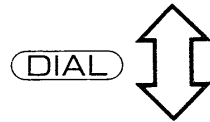
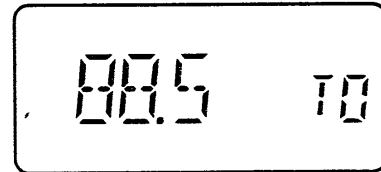
**VFO** (CLR) を押し  
ます。



① トーン周波数の設定 (VFOモードのみ表示)

トーンエンコーダー (トーンスケルチまたはポケットビープ機能 (P55)) を使用する時の、トーン周波数を変更できます。

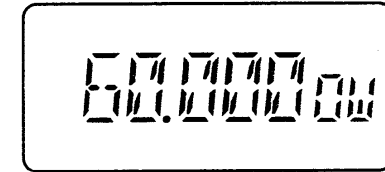
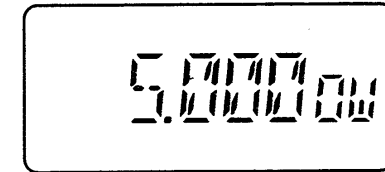
- 上記 ( ) 内の機能を使用するには、別売品のUT-94が必要です。
- **[DIAL]** を回し、トーン周波数 (P56) を選びます。



② オフセット周波数の設定 (VFOモードのみ表示)

デュプレックス運用時 (P37) の、送信と受信の周波数差を変更できます。

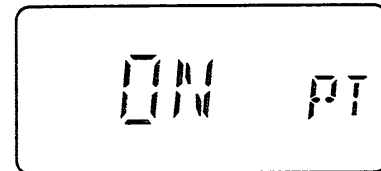
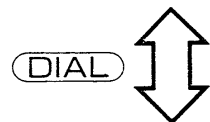
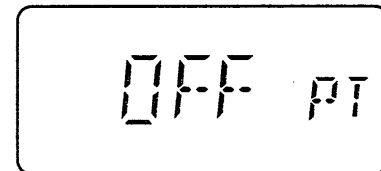
- **[DIAL]** を回し、0~60 MHzの範囲で選びます。
- **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回すと、100kHzステップで変化します。
- IC-T22は、“0.000MHz”を初期設定しています。



③ PTTロック機能の設定

PTTスイッチを押しても、送信状態にならないようにする機能です。

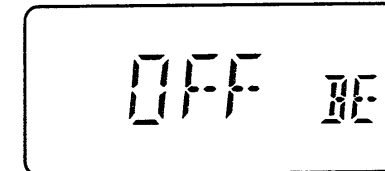
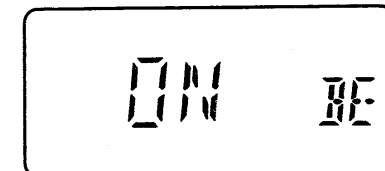
- **[DIAL]** を回して、“ON”を選ぶと、PTTロック機能がはたらきます。
- “OFF”にすると、ロック機能は無効になります。



④ ビープ音の設定

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を、鳴らないようにする機能です。

- **[DIAL]** を回して“ON”を選ぶと、ビープ音が鳴るようになります。
- “OFF”にすると、鳴らないようになります。

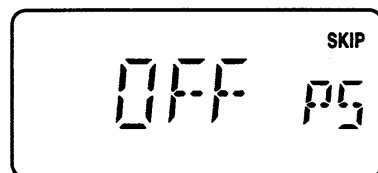
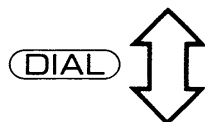
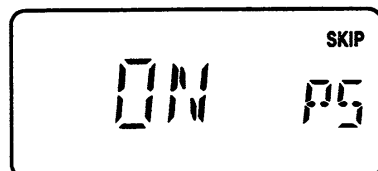


## 8 その他の便利な機能

### ⑤ プログラムスキップの設定

スキップ周波数(☞P32)の「有効/無効」を切り替えます。

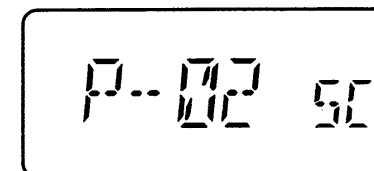
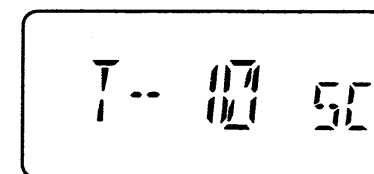
- (DIAL)を回して“ON”を選ぶと、フルスキャンまたはプログラムスキャンで、スキップ動作をします。
- “OFF”にすると、スキップ動作とスキップ周波数の登録が無効になります。



### ⑥ スキャン再スタートのタイマー設定

スキャン中、受信信号で一時停止したときから再スタートするまでのタイマーを設定します。

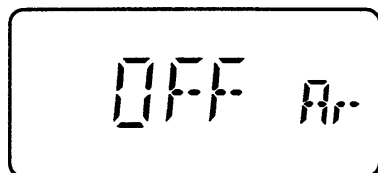
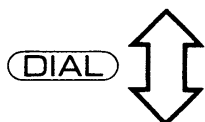
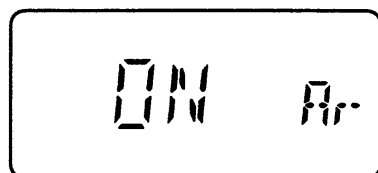
- (DIAL)を回し、次の中からタイマーを選べます。  
P-02：信号が途切れるまで受信し、2秒後にスタート  
T-05：一時停止したときから5秒後にスタート  
T-10：一時停止したときから10秒後にスタート  
T-15：一時停止したときから15秒後にスタート



### ⑦ オートレピータ機能の設定(IC-T32のみ)

オートレピータ機能(☞P35)の「有効/無効」を切り替えます。

- (DIAL)を回して“ON”を選ぶと、オートレピータ機能が動作します。
- “OFF”にすると、無効になります。



## 8-2 イニシャルセットモードの設定方法

イニシャルセットモードでは、いったん初期設定すれば、あまり変更することのない項目をまとめたモードです。お好みに応じてセットしてください。

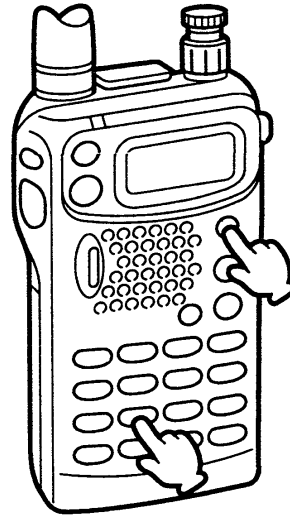
セットできる項目は、下記の9項目です。

- ① オープニングテキストの設定
- ② マイク・シンプルリモコン機能の設定
- ③ オートパワーオフ機能の設定
- ④ パワーセーブ比の設定
- ⑤ 外部電源ライト機能の設定
- ⑥ 受信LEDの表示設定
- ⑦ バックライトの設定
- ⑧ コントラストの設定
- ⑨ DTMFコードの送出スピード設定

各項目で変更できる運用条件を次のページから記載しているので、このページと併せてご覧ください。

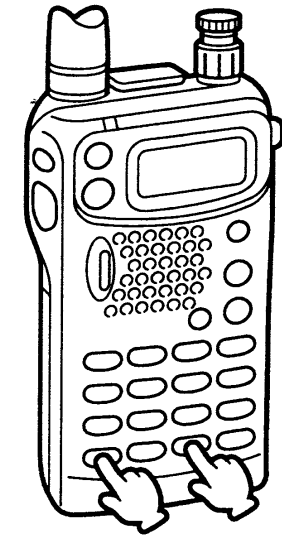
### 1. イニシャルセットモードにする

(POWER) を押し、電源をいったん切ります。  
(B) を押しながら (POWER) を押し、電源を入れます。



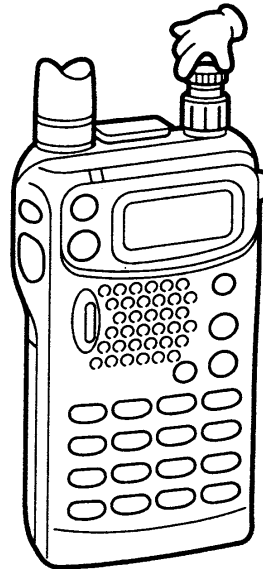
### 2. セット項目を選ぶ

(△) または (▽) を押します。



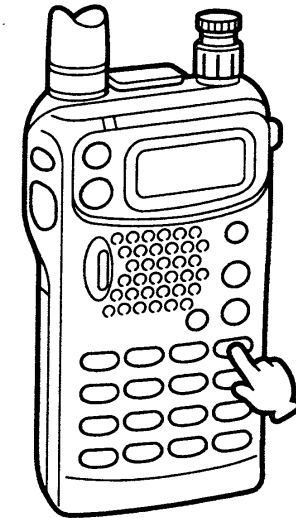
### 3. 運用条件を選ぶ

(DIAL) を回します。



### 4. 周波数表示に戻す

(VFO) (CLR) を押します。



## 8 その他の便利な機能

### ① オープニングテキストの設定

- (DIAL) を回して“ON”を選ぶと、オープニングテキスト“ICOM”を表示します。
- “OFF”にすると、直接周波数を表示します。
- 送信用メッセージメモリー“t0”にコールサインを書き込んでおけば(☞P49)、その内容がオープニングテキストになります。

ON 01

(DIAL)



OFF 01

### ③ オートパワーオフ機能の設定

指定時間になると、自動的に電源を切るタイマー機能(☞P64)です。

- (DIAL) を回し、次の中から電源が切れるまでの時間を選べます。

OFF : この機能は、はた  
らない

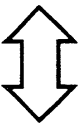
20 : 20分後に切れる

40 : 40分後に切れる

60 : 60分後に切れる

OFF 00

(DIAL)



60 00

### ② マイク・シンプルリモコン機能の設定

別売品のリモコン機能付きスピーカーマイクロホン(HM-75A)使用時に、必要最小限のリモコン機能だけに限定する機能です。

- (DIAL) を回して“ON”または“OFF”を選んで、リモコン機能を変更(☞P69)できます。

OFF 05

(DIAL)



ON 05

### ④ パワーセーブ比の設定

電池の消耗を節約するため、待ち受け状態と休止状態の時間比を設定する機能です。

- (DIAL) を回し、次の中から時間比を選べます。

待ち受け時間 : 休止時間

OFF この機能は、はた  
らない

1.1 50ms : 50ms

1.12 50ms : 600ms

1.40 50ms : 2000ms

1.12 00

(DIAL)



1.40 00



### ⑤外部電源ライト機能の設定

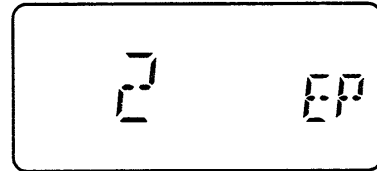
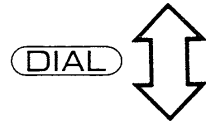
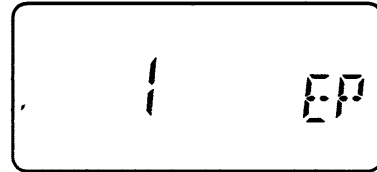
外部電源を接続したときに、パワーセーブ機能とディスプレイのバックライト機能を自動設定します。

- (DIAL) を回し、次の中から自動設定する機能を選べます。

OFF: この機能は、はたらかない

1 : パワーセーブ比を“OFF”にする

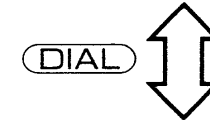
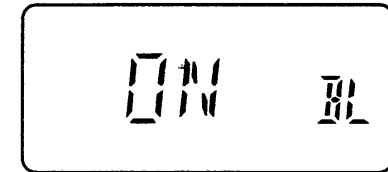
2 : パワーセーブ比を“OFF”、バックライトを連続点灯にする



### ⑥受信LEDの表示設定

受信時に点灯する送信/受信LEDのビジー表示(緑色)を常時消灯にできます。

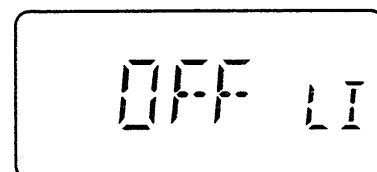
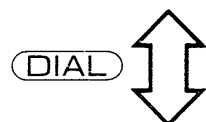
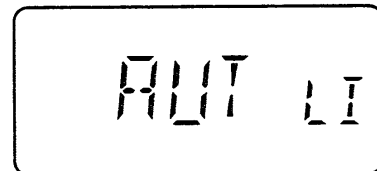
- (DIAL) を回して“ON”を選ぶと点灯、“OFF”を選ぶと消灯します。



### ⑦ディスプレイのバックライト設定

工場出荷時のディスプレイの照明は、PTTスイッチおよびSQLツマミ以外の操作をすると、自動的に約5秒間点灯します。

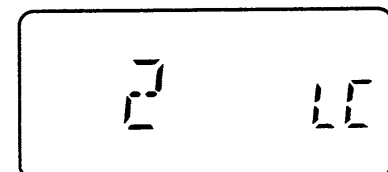
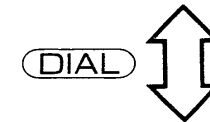
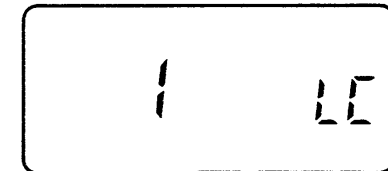
- (DIAL) を回して“AUT”を選ぶと自動点灯、“OFF”を選ぶと常時消灯になります。



### ⑧ディスプレイのコントラスト設定

ディスプレイは、周囲の明るさによって見やすさが変わります。

- (DIAL) を回し、ディスプレイの濃淡を2段階の中から選べます。



## 8 その他の便利な機能

### 8-2 イニシャルセットモードの設定方法(つづき)

#### ⑨DTMFコードの送出スピード設定

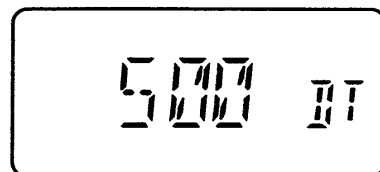
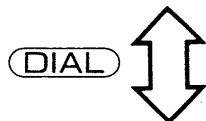
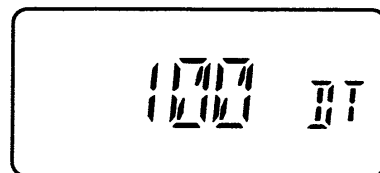
- **DIAL** を回し、次の中から送出スピードを選べます。

100：約100ms間隔で送出する

200：約200ms間隔で送出する

300：約300ms間隔で送出する

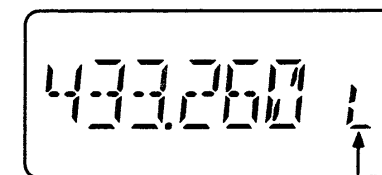
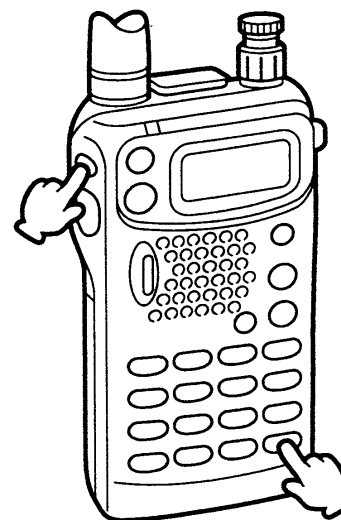
500：約500ms間隔で送出する



### 8-3 ロック機能について

不用意にダイヤルツマミやキーボードに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

- ① **FUNC** を押しながら **CALL** (LOCK) を押します。
- ② ロック機能を解除するときも同じです。



ロック機能の動作中は、  
ロック表示が点灯する

### 8-4 オートパワーオフ機能について

このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするためのものです。

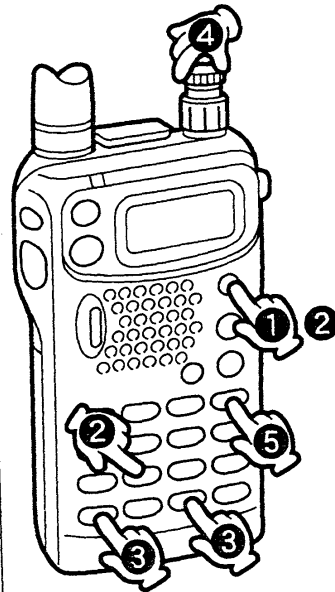
20/40/60分の指定時間がすぎると、IC-T22/IC-T32の電源が自動的に切れます。

タイマーを1回セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

必要ない場合は、“OFF”にしておきます。

#### 1. タイマー時間(分)を選ぶ

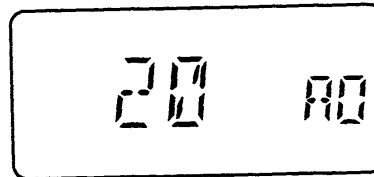
- ① **POWER** を押し、いったん電源を切ります。
- ② **8** (SET) を押しながら **POWER** を押し、インシャルセットモードにします。
- ③ **△** または **▽** を押し、「オートパワーオフ機能の設定(≡P61)」項目を呼び出します。
- ④ **DIAL** を回し、タイマー時間を選びます。  
OFF ↔ 20 ↔ 40 ↔ 60
- ⑤ **VFO** (CLR) を押し、周波数表示に戻します。



インシャルセットモードの「オートパワーオフ機能の設定」項目

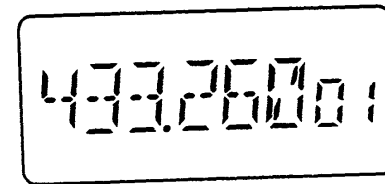


タイマー時間を選ぶ

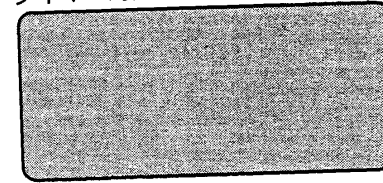


#### 2. タイマー時間になると

- ⑥ 運用を終了し、何も操作しない状態がセットしたタイマー時間まで続くと、“ピー”音が5回鳴って電源が切れます。



タイマー時間になると電源が切れる



# 9

## 別売品について

### 9-1 別売品一覧表

IC-T22/IC-T32の性能を余すことなく活用し、さらに充実、グレードアップしていただくために、次のような豊富な別売品を用意しています。

#### ■バッテリーパックの名称と仕様

仕様項目		名称			
		BP-170	BP-171	BP-172	BP-173
電池容量		単三乾電池×4本	700mAh	950mAh	650mAh
出力電圧		DC6V	DC4.8V	DC4.8V	DC9.6V
パックの高さ		63.5mm	63.5mm	63.5mm	75.5mm
充電温度範囲			+10~+40°C	+10~+40°C	+10~+40°C
運用時間	IC-T22	約20時間00分(アルカリ電池)	約6時間00分	約8時間00分	約3時間20分
	IC-T32	約12時間00分(アルカリ電池)	約4時間30分	約6時間10分	約2時間50分
送信出力	IC-T22 (HIGH)	約1W(マンガン電池) 約1.5W(アルカリ電池)	約1.5W	約1.5W	約5W
	IC-T32 (HIGH)	約1W(マンガン電池) 約1.5W(アルカリ電池)	約1.3W	約1.3W	約5W
	両機種(Low)	約0.5W	約0.5W	約0.5W	約0.5W

- 充電のしかたは、次ページをご覧ください。
- 運用時間は、送信1分間、受信1分間、待ち受け8分間を繰り返し運用した場合での目安です。
- 運用時間を長くするために、次のことからご注意ください。
 

(1)できるだけ、LOW出力で使用する	(4)使用しないときは、必ず電源を切る
(2)できるだけ、送信時間を短くする	(5)連続使用をさける
(3)受信音量を小さくする	

## ■その他の別売品

AD-56A/B	BC-79用バッテリーパックアダプター
BC-74	簡易充電器(AC100V仕様)
BC-79	急速充電器(AC/DC両仕様)
CP-12L	シガレットライターケーブル(DC12V系)
HM-54	スピーカーマイクロホン
HM-74	小型スピーカーマイクロホン
HM-75A	リモコン機能付きスピーカーマイクロホン
HS-85	VOX機能付きヘッドセット
LC-125	BP-170~172対応型キャリングケース
LC-126	BP-173対応型キャリングケース
MB-30	モバイルブラケット
OPC-254L	固定用電源ケーブル
SP-13	イヤホン
UT-94	トーンスケルチユニット

※CP-12LとOPC-254Lによる外部電源の使いかたは、3ページをご覧ください。

## 9-2 充電のしかた

## ■取り扱い上のご注意

- 充電は、必ず指定の充電器をお使いください。
- 周囲温度が10°C以下または40°C以上になるところでは、充電しないでください。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長時間使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックが満充電になったのち、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電は、みかけ上電池の容量が低下した状態となります。このときは、完全に放電(通常の運用で)したあと、再充電してください。
- 充電器およびバッテリーパックの端子をショートや分解しないでください。また、火や水のなかに入れてください。爆発や感電のおそれがあります。
- バッテリーパックを持ち運んだり、保管するときは、他の金属物に触れないようにご注意ください。ショートすると危険です。
- バッテリーパックの電池容量が低下すると、ディスプレイ全体が点滅したり、表示が全体的にうすくなってきます。このようなときは、ただちに充電してください。
- バッテリーパックは、通常300回程度の充電が可能です。運用時間が極端に短くなったときは寿命ですから、新しいバッテリーパックをご購入ください。
- トランシーバーセット部にある充電端子にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。
- 充電しないときは、電源からはずしておいてください。

## 9 別売品について

### 9-2 充電のしかた(つづき)

#### ■簡易充電のしかた

下記の別売品を使用して、簡易充電ができます。

#### ①BC-74

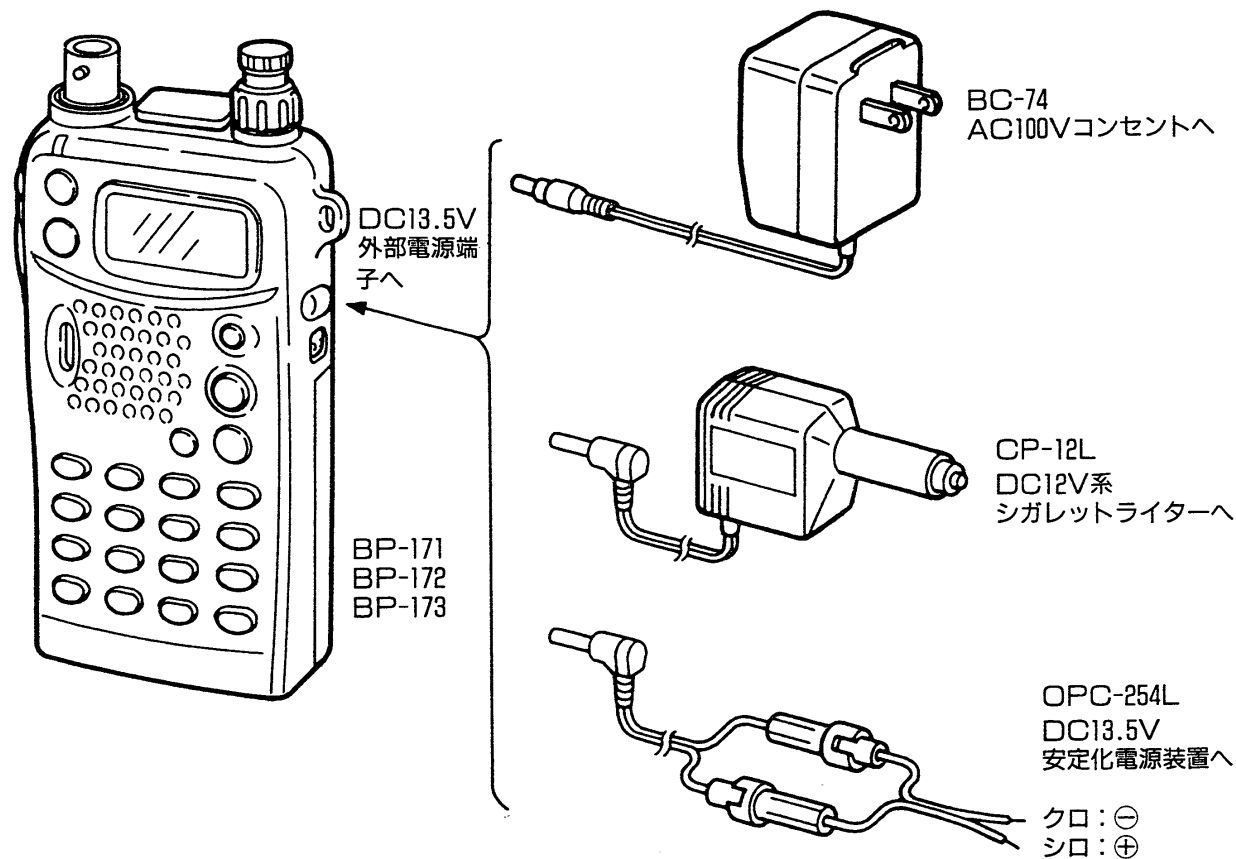
家庭用電源のAC100Vに接続します。

#### ②CP-12L

車内のDC12V系シガレットライターソケットに接続します。

#### ③OPC-254L

DC13.5Vの安定化電源装置に接続します。



バッテリー パック	充電器と充電時間	
	BC-74	CP-12L/ OPC-254L
BP-171	約15時間	約15時間
BP-172	約20時間	約20時間
BP-173	約15時間	約15時間

### ■急速充電のしかた

下記の別売品を使用して、急速充電ができます。

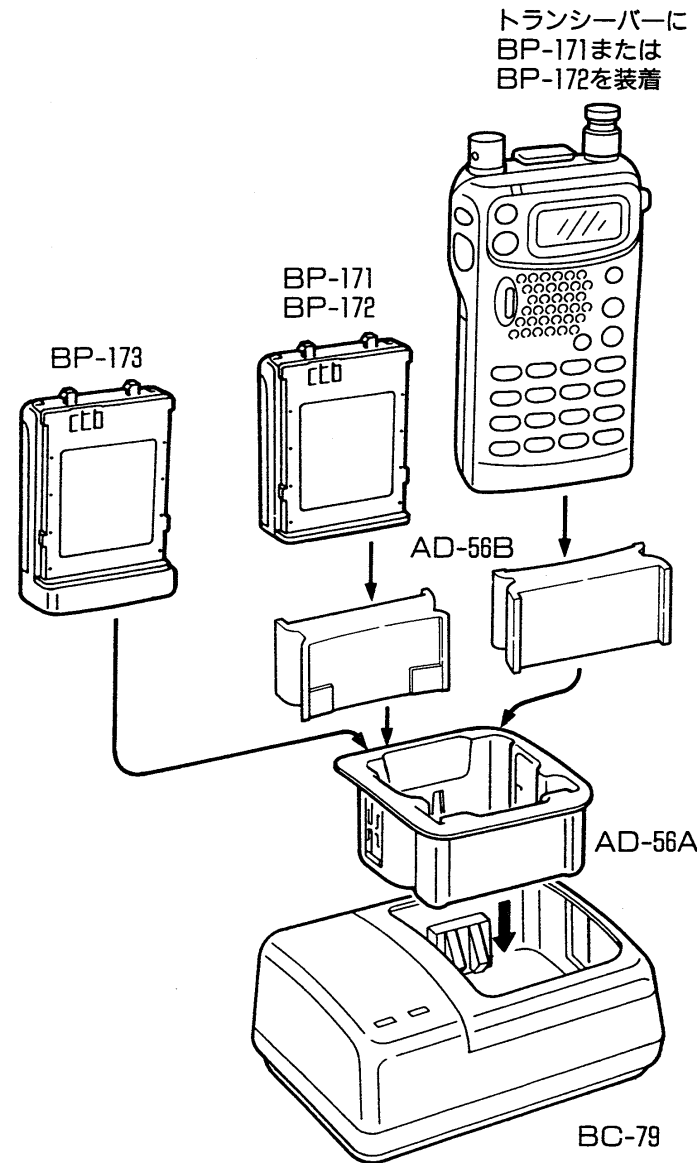
#### ①BC-79

バッテリーパックのBP-173を単品、またはIC-T22/IC-T32に装着して充電できます。

#### ②AD-56A/B

バッテリーパックのBP-171/172を単品、またはIC-T22/IC-T32に装着して充電できます。

バッテリーパック	充電時間
BP-171	約1時間
BP-172	約1.5時間
BP-173	約1.5時間

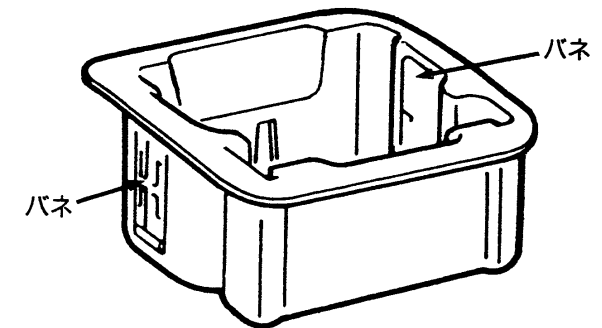


#### ●ご注意

バッテリーパックを単品で充電するときと、IC-T22/IC-T32に装着して充電するときで、AD-56Bの差し込む向きが違いますのでご注意ください。

#### ●AD-56Aのセットと取り外しかた

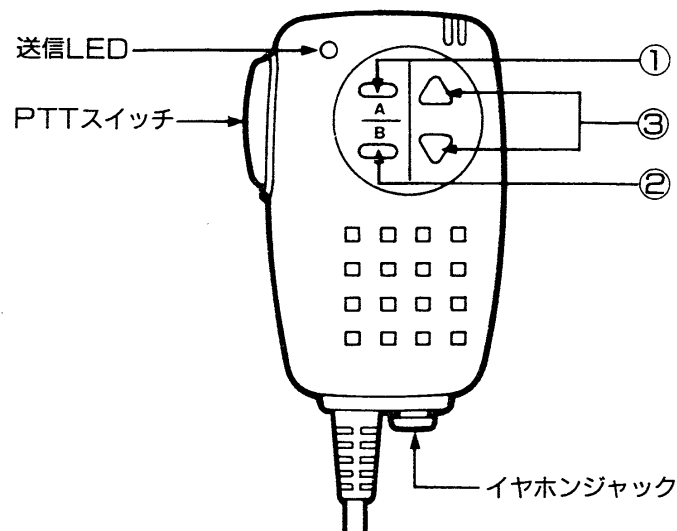
- (1)セットするときは、AD-56Aの底部にあるマイクロスイッチが出るように、きっちり差し込んでください。
- (2)取り外すときは、AD-56Aの両サイドにあるバネの上部を内側から押しながら、引っ張り上げます。



## 9 別売品について

### 9-3 HM-75Aの使いかた

別売品として、リモコン機能付きスピーカーマイクロホンも用意しています。



#### ①MONI(モニター)スイッチ

押している間、スケルチを開いて信号をモニターします。

#### ②V/M(VFO/メモリー)スイッチ

VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

#### ③Δ/▽(アップ/ダウン)スイッチ

VFOモード時の表示周波数、メモリーモード時のメモリーチャンネルをアップ/ダウンします。

MONIスイッチを押している間は、音量調整のアップ/ダウンになります。

※裏面には、LOCK(ロック)スイッチがあり、③のΔ/▽スイッチの機能を無効にします。

#### ■マイク・シンプルリモコン機能について

グループでツーリングやスキーに行くときに、必要最小限のリモコン機能だけに限定し、トランシーバーの操作になれない方でも、簡単に周波数移行ができるように工夫された便利な機能です。

IC-T22/IC-T32をインシャルセットモード(☞P60、61②項)で、マイク・シンプルリモコン機能の項目を“ON”にすると、②のV/Mスイッチと③のΔ/▽スイッチの機能が次のようになります。

#### ①MONI(モニター)スイッチ

機能の変化はありません。

#### ②CALL(コール)スイッチ

コールチャンネルを呼び出します。

#### ③Δ/▽(1CH/2CH切り替え)スイッチ

メモリーチャンネルの1チャンネル、または2チャンネルを呼び出します。

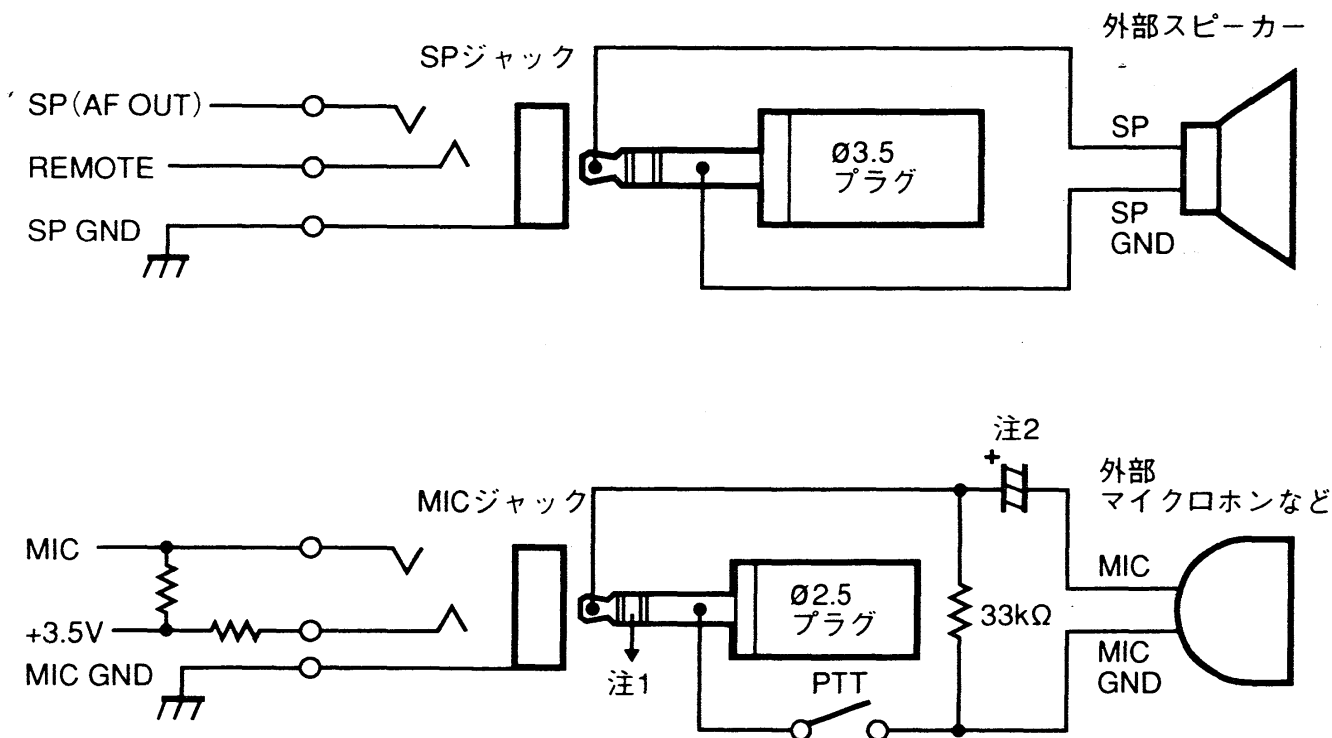
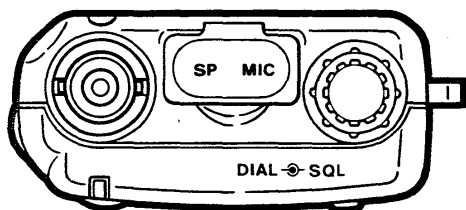
MONIスイッチを押している間は、音量調整のアップ/ダウンになります。

SP/MICジャックにHM-75Aを抜き差しするときは、本体の電源を切ってから行ってください。



## 9-4 SP/MICジャックについて

SP(スピーカー)ジャックとMIC(マイクロホン)ジャックに、外部スピーカーや外部マイクロホン、RTTYなどの外部装置を接続する場合の参考にしてください。



注1：本体内部の3.5Vラインから、 $390\Omega$ の抵抗をとおして電圧を出力しています。この電圧は、1.5mA流したときに約3Vになります。

注2：下記以外ときは、 $4.7\mu F$ の電解コンデンサーを取り付けてください。

(1)外部装置側に直流が流れているとき

(2)外部マイクロホンのエレメントが、2端子のコンデンサーマイクロホンでないとき

## 10-1 工場出荷時の状態に戻すには(リセット)

IC-T22/IC-T32は、静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作してディスプレイの表示がおかしくなったときは、リセット操作をしてください。

リセット操作には、次のような2とおりがあります。

## ① パーシャルリセット

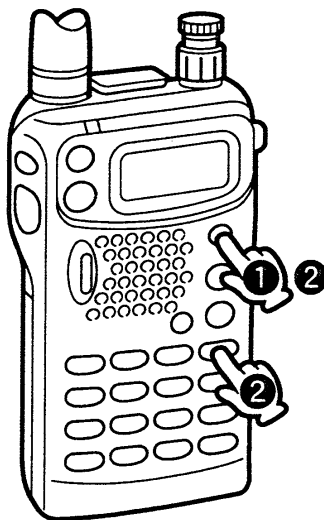
運用モード、VFO周波数、セットモード、イニシャルセットモード、周波数ステップ(TS)、ページャー/コードスケルチの設定、ロック機能、チャンネル表示を工場出荷時の状態に戻します。

## ② オールリセット

メモリーチャンネルなどを含む、すべての機能データを工場出荷時の状態に戻します。

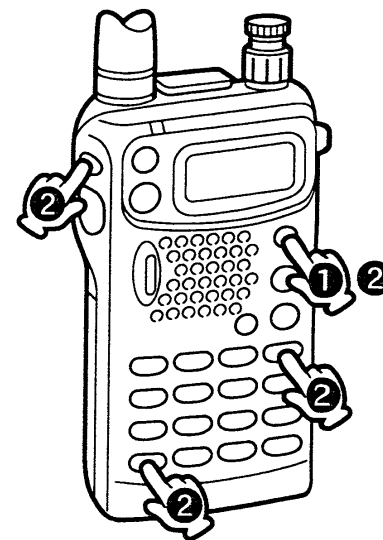
## 1. パーシャルリセットのしかた

- ① (POWER)を押し、いったん電源を切ります。
- ② (VFO)を押しながら(POWER)を押し、電源を入れます。



## 2. オールリセットのしかた

- ① (POWER)を押し、いったん電源を切ります。
- ② (FUNC)と同時に(VFO)と(▽)を押しながら、(POWER)を押しして電源を入れます。



## 10-2 故障かな?と思ったら

下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参照
●電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎バッテリーケースの接触不良</li> <li>◎電池の極性まちがい</li> <li>◎電池の消耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バッテリーケースの極性端子を清掃する</li> <li>●極性を確認して、電池を入れなおす</li> <li>●乾電池を入れ替える(NiCdのときは充電する)</li> </ul>	P1 P1
●スピーカーから音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎音量設定レベルが小さくなっている</li> <li>◎外部スピーカーを接続している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●VOLスイッチを押し、音量レベルを設定しなおす</li> <li>●外部スピーカープラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する</li> </ul>	P9 P70
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎同軸ケーブルの断線またはショート(外部アンテナ使用時)</li> <li>◎SQLツマミを右に回しすぎている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●同軸ケーブルを点検し、正常にする</li> <li>●SQLツマミを調整しなおす</li> </ul>	P10
●電波が出ないか、電波が弱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎LOWパワーになっている</li> <li>◎電池の消耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●HIGHパワーにする</li> <li>●乾電池を入れ替える(NiCdのときは充電する)</li> </ul>	P15 P1
●送信しても応答がない	◎デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違っている	●デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする	P37
●ダイヤルまたはキーボードで周波数の設定ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ロック機能が動作している</li> <li>◎メモリーモード、コールチャンネル、ログメモリーまたはレピータメモリーになっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ロック機能を解除する</li> <li>●VFOモードにする</li> </ul>	P63 P11
●周波数表示が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している	●リセットする	P71
●異常な表示や動作になる	◎静電気などによる外部要因	●バッテリーを装着しなおすか、DC外部電源に接続して電源を入れなおす	P1 P3
●スキャンが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎SQLツマミを左に回しすぎている</li> <li>◎プログラムチャンネルの“*A”と“*B”が同じ周波数になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SQLツマミを調整しなおす</li> <li>●違う周波数をメモリーする</li> </ul>	P9 P32
●プログラムスキップスキャンが動作しない、またはスキップ周波数を登録できない	◎プログラムスキップの設定が“OFF”になっている	●プログラムスキップの設定を“ON”にする	P57、 P59

## 10 ご参考に

### 10-3 故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら(☎P72)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

#### 保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

#### 保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

IC-T22/IC-T32は、技術基準適合証明を受けた「技適証明送受信機」です。

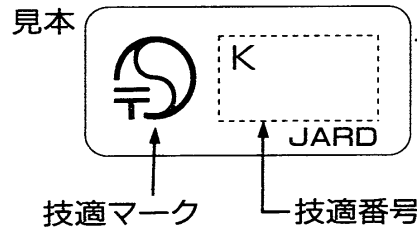
免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、次のように記入してください。

IC-T22の場合

IC-T32の場合

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式					
周波数帯	空中線電力	電波の型式	周波数帯	空中線電力	電波の型式
144M	10	F2/F3			
430M	10	F2/F3			

本機の後面パネルに、技適証明マークとKから始まる技適証明番号が印刷されたシールを貼っています。その番号を記入してください。



「技適証明送受信機」ですから、記入する必要ありません。

付属のアンテナで申請するときは「単一型」と記入してください。

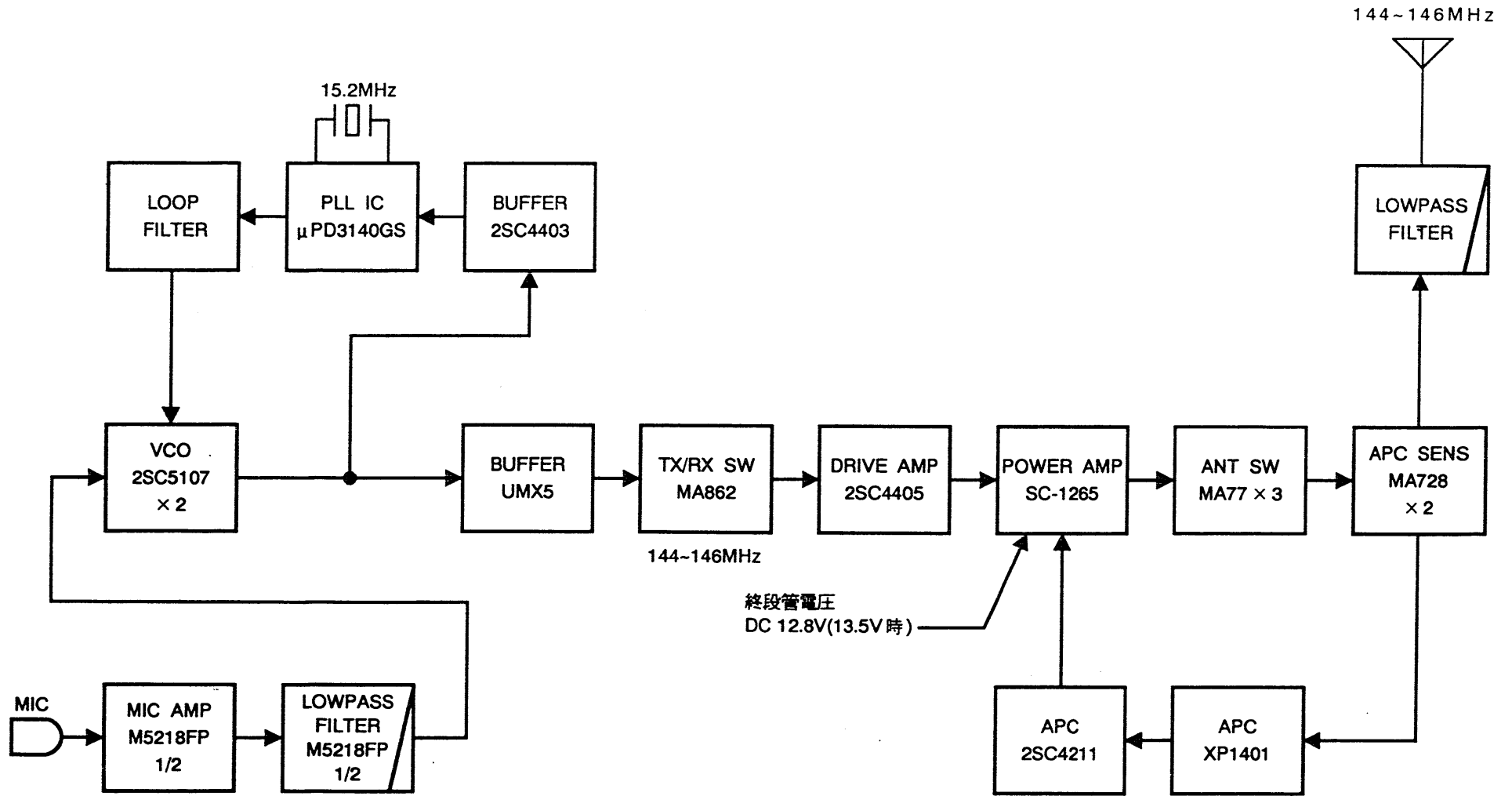
22 工事設計		第1送信機	第2送信機	第3送信機	第4送信機
変更の種類		取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号		技適番号を記入する			
発射可能な電波の型式、周波数の範囲					
変調の方式					
定格出力					
終段管	名称個数				
	電圧		V	V	V
送信空中線の型式		単一型		周波数測定装置 A有(誤差) B無	
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。		添付図面	<input type="checkbox"/> 送信機系統図



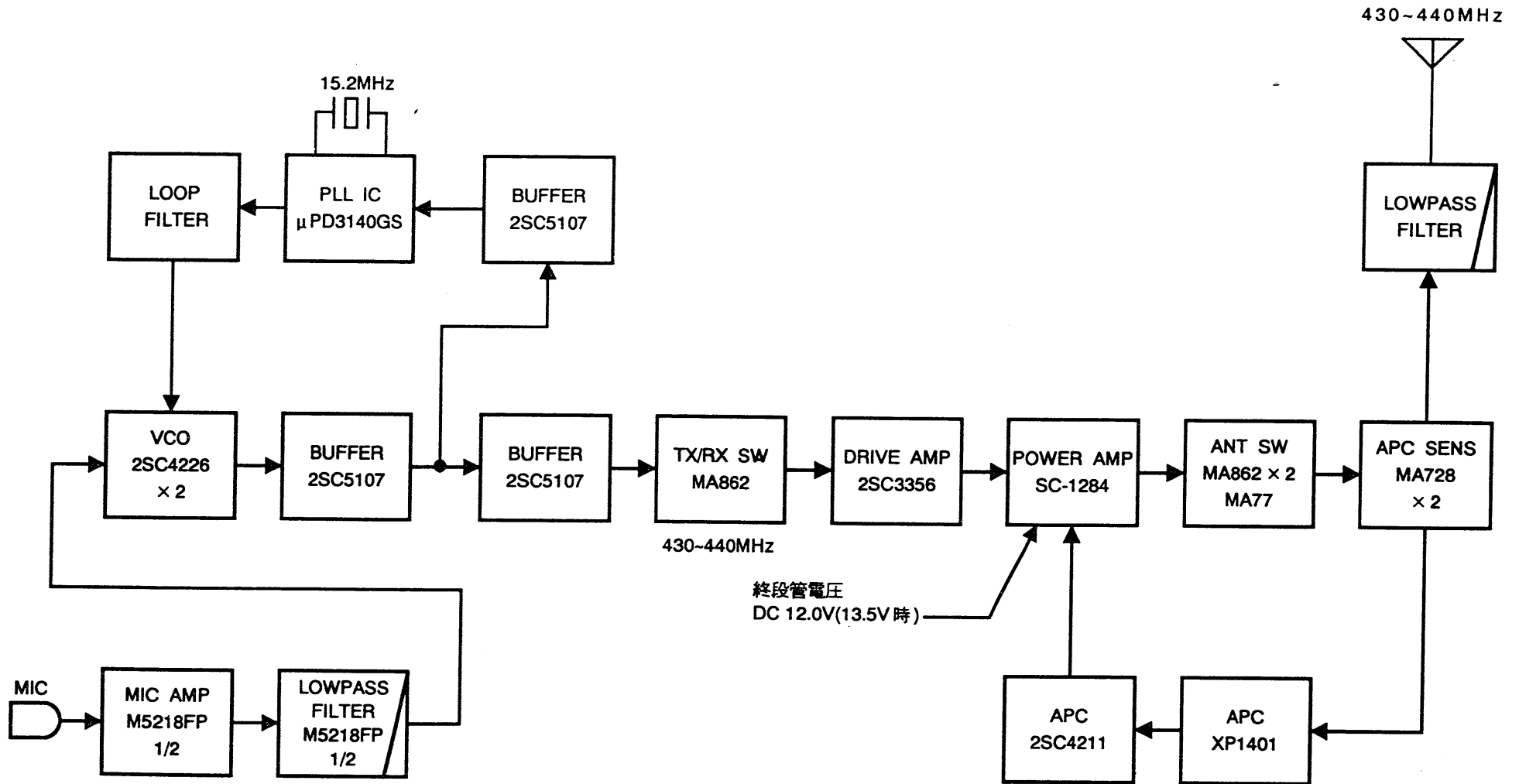
# 12

## 送信系統図

IC-T22



IC-T32

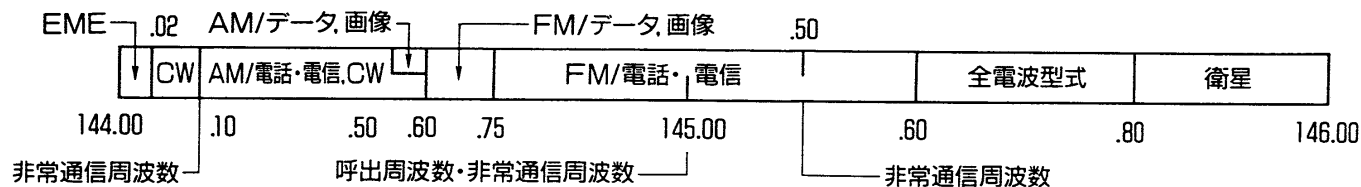


# 13 バンドの区分について

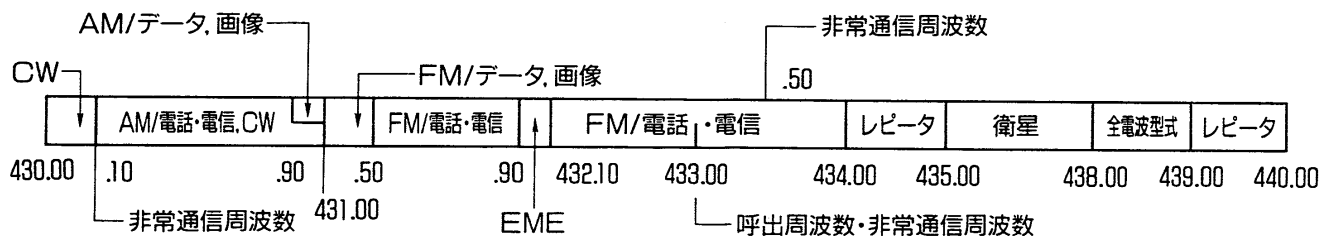
下記の使用区別図は、平成4年7月(改訂)のものです。

## 1. 使用区別図

144MHz帯 周波数：MHz



430MHz帯 周波数：MHz



## 2. 使用区別図の表示について

- TVは、テレビジョン伝送を行う電波をいう。
- 衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。
- EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。
- 全電波型式は、各アマチュア局に指定されるすべての電波の型式とする。
- レピータは、JARL(日本アマチュア無線連盟)のアマチュア業務の中継用無線局(レピータ局)との通信に使用する電波をいう。

※使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」及び「呼出周波数」は、FM/電話・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することができます。

※使用区別図中の「非常通信周波数」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。

## 電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり、運用されています。

これらの無線局の至近距離で電波を発射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することもありますので、十分ご注意ください。

特に次の場所での運用は原則として行わないで、必要な場合は管理者の承認を得てください。民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺など。



# 定格 14

一般仕様		IC-T22	IC-T32
周波数範囲		144~146MHz	430~440MHz
電波型式		F2/F3(FM)	
アンテナインピーダンス		50Ω不平衡	
アンテナ端子		BNC型	
電源電圧		DC6V標準 DC4.5~16V接続可	
接地方式		マイナス接地	
消費電流	送信時 DC13.5V TYP.	HIGH出力	1.4A
		LOW出力	0.5A
電流	受信時 DC13.5V TYP.	定格出力	150mA
		パワーセーブ	平均15mA
使用温度範囲		-10~+60°C	
周波数安定度(0~+50°C)		±10ppm	±5ppm
外形寸法(突起物を除く)		幅57×高さ110×奥行27mm	
重量(アンテナ、乾電池4本含む)		約290g	約280g

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

送信部	IC-T22	IC-T32
送信出力 DC13.5V TYP.	HIGH: 5W/LOW: 0.5W	
変調方式	リアクタンス変調	
最大周波数偏移	±5.0kHz	
スプリアス発射強度	-60dB以下	
マイクロホンインピーダンス	2kΩ	

受信部		IC-T22	IC-T32
受信方式		ダブルスーパーヘテロダイン	
中間周波数	第1	30.85MHz	
	第2	450kHz	
受信感度 TYP.		-16dBμ以下/12dB SINAD	
スケルチ感度 TYP.		-16dBμ以下/臨界点	
選 択 度		±7.5kHz/-6dB以下 ±15kHz/-60dB以上	
スプリアス妨害比		60dB以上	50dB以上
		IF/2のみ45dB以上	
低周波出力 (DC13.5V/8Ω負荷/10%歪率時)		0.2W以上	
低周波負荷インピーダンス		8Ω	

高品質がテーマです。

## アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	TEL (011)251-3888
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (022)285-7785
仙台営業所	982 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (03)5600-0331
東京営業所	130 東京都墨田区緑1丁目22-14	TEL (052)842-2288
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (0762) 91-8881
金沢出張所	921 金沢市高畠1丁目335	TEL (06)793-0331
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (082)295-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (0878) 35-3723
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (092)541-0211
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。